

## 第2章

# 要支援・要介護認定者と介護者の 生活と福祉に関する調査



## 調査の概要

### (1) 調査対象者

令和4年(2022年)8月31日時点の要支援・要介護認定者のうち、各要介護度から200人ずつ無作為抽出した計1,400人を調査対象者とした。

### (2) 調査項目と報告書の構成

国(厚生労働省)が示した調査項目に、三鷹市で独自に調査項目を追加して実施した。国と三鷹市独自で調査項目及び集計対象が一部異なることから、調査報告書を二節構成とした。

	第1節 在宅介護実態調査 (国の調査項目)	第2節 介護者/認定者調査 (三鷹市独自の調査項目)
本人の概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世帯類型、家族等の介護の有無、介護保険以外の支援・サービスの利用状況</li> <li>・介護のための離職の有無、施設入所の検討状況 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定結果の満足度、ケアマネジャー連絡頻度・満足度、今後のサービス利用意向</li> <li>・社会参加や生きがい、介護度が高くなった際の生活場所 など</li> </ul>
主な介護者の就労状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務形態、働き方の調整、仕事と介護の両立に効果のある勤務先の支援</li> <li>・就労継続の可否に係る意識、介護者が不安に感じる介護 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の負担感、介護者の居住場所、介護者の代わりに頼める人</li> <li>・仕事と介護の両立に効果のある地域や行政からの支援</li> </ul>
集計対象	右記790人のうち施設入所中である等の理由により国の在宅介護実態調査の対象とならない245人を除いた545人	本調査の回答者790人
調査目的	次期介護保険事業計画の策定において、「地域包括ケアシステムの構築」という観点に加え、「介護離職をなくしていくために必要なサービスは何か」といった観点を盛り込むため、「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討することを目的とした。	左記に加えて、医療・介護・福祉等に関するニーズ、介護保険制度に対する評価、社会参加や生きがい、介護負担の軽減に必要な支援等を把握し、三鷹市独自の施策立案に資する基礎資料を得ることを目的とした。

### (3) 調査方法

上記調査対象者本人又は介護を主に担当している家族・親族(主介護者)に対して、訪問面接調査を実施した。

(4) 実施期間

令和4年(2022年)10月18日～11月21日

(5) 調査完了状況

要介護度	対象者数	回収数	回収率
要支援1	200	157	78.5%
要支援2	200	150	75.0%
要介護1	200	125	62.5%
要介護2	200	116	58.0%
要介護3	200	106	53.0%
要介護4	200	74	37.0%
要介護5	200	62	31.0%
合計	1,400	790	56.4%

調査不能(610)理由:不在180、本人・家族等からの辞退155、施設等入所148、入院30、その他の転居22、死亡16、その他59

<要介護度別の標本数・標準誤差>

要介護度	対象者数	標本(回収)数	回収率	標準誤差率 (回答率50%時)
要支援1・2	400	307	76.8%	5.6%
要介護1・2	400	241	60.3%	6.3%
要介護3以上	600	242	40.3%	6.3%
合計	1,400	790	56.4%	3.5%

(6) 用語の定義等

<要介護度の判定基準と状態像の目安>

要介護度	判定基準	状態像の目安
要支援1	介護基準時間 25～32分	日常生活の能力は基本的にあるが、入浴などに一部介助が必要である。
要支援2	介護基準時間 32～50分	立ち上がりや歩行が不安定。 排泄、入浴などに一部介助が必要であるが、適切なサービス利用により、明らかな要介護状態に移行することができる可能性がある。
要介護1	介護基準時間 32～50分	立ち上がりや歩行が不安定。 排泄、入浴などに一部介助が必要である。認知症又は半年以内に要介護度が上がる可能性がある。
要介護2	介護基準時間 50～70分	起き上がりが自力では困難。 排泄、入浴などに一部又は全介助が必要である。
要介護3	介護基準時間 70～90分	起き上がり、寝返りが自力ではできない。 排泄、入浴、衣服の着脱などに全介助が必要である。
要介護4	介護基準時間 90～110分	排泄、入浴、衣服の着脱など多くの行為に全面的介助が必要である。
要介護5	介護基準時間 110分以上	生活全般について全面的介助が必要である。

## ＜障がい高齢者の日常生活自立度＞

	ランク	判定基準
生活自立	ランク J	何らかの障がい等を有するが日常生活はほぼ自立し、独力で外出する。 1. 交通機関等を利用して外出する。 2. 隣近所へは外出する。
準寝たきり	ランク A	屋内での生活は概ね自立しているが介助なしには外出しない。 1. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。 2. 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている。
寝たきり	ランク B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ。 1. 車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う。 2. 介助により車いすに移乗する。
	ランク C	一日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する。 1. 自力で寝返りをうつ。 2. 自力では寝返りもうてない。

## ＜認知症高齢者の日常生活自立度の判定基準と症状＞

ランク	判断基準	見られる症状・行動の例
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	
II	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
II a	家庭外で上記 II の状態がみられる。	たびたび道に迷う、買物や事務、金銭管理などこれまでできたことにミスが目立つ など
II b	家庭内でも上記 II の状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などが困難で、一人で留守番ができない など
III	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。	
III a	日中を中心として上記 III の状態が見られる。	着替え、食事、排便、排尿が上手にできない、時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為 など
III b	夜間を中心として上記 III の状態が見られる。	ランク III a に同じ
IV	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランク III a に同じ
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態 など

<サービス利用の分析に用いた用語の定義>

用語	定義	
未利用	「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみを利用している者については、未利用として集計している。	
訪問系	(介護予防)訪問介護、(介護予防)訪問入浴介護、(介護予防)訪問看護、(介護予防)訪問リハビリテーション、(介護予防)居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護を「訪問系」として集計している。	
通所系	(介護予防)通所介護、(介護予防)通所リハビリテーション、(介護予防)認知症対応型通所介護を「通所系」として集計している。	
短期系	(介護予防)短期入所生活介護、(介護予防)短期入所療養介護を「短期系」として集計している。	
その他	小規模多機能	(介護予防)小規模多機能型居宅介護を「小規模多機能」として集計している。
	看護多機能	看護小規模多機能居宅介護を「看護多機能」として集計している。
	定期巡回	定期巡回・随時対応型訪問介護看護を「定期巡回」として集計している。

<サービス利用の組み合わせの分析に用いた用語の定義>

用語	定義
未利用	上表と同じ
訪問系のみ	上表の「訪問系」又は「定期巡回」のみの利用を集計している。
訪問系を含む組み合わせ	上表の「訪問系(又は定期巡回)」+「通所系」、「訪問系(又は定期巡回)」+「短期系」、「訪問系(又は定期巡回)」+「通所系」+「短期系」、「小規模多機能」、「看護多機能」の利用を集計している。
通所系・短期系のみ	上表の「通所系」、「短期系」、「通所系」+「短期系」の利用を集計している。

<その他、本調査報告書における定義>

用語	定義
施設等	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設(有料老人ホーム等)、認知症高齢者グループホームを指す。
パートタイム	「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い者」が該当する。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等を含む。
一緒に住んでいる	同じ敷地内に住んでいることを指す。生計や住民票上の世帯を同じくしているか否かは問わない。集合住宅で同じ棟の違う部屋に居住している者は別居とする。

### (7) 結果の集計に関する注意点

- ・「n」は、回答者数を表す。
- ・回答比率(%)は小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示している。そのため、単数回答であっても、合計が100.0%にならない場合がある。
- ・複数回答の場合は、合計が100.0%を超える場合がある。
- ・本調査における標準誤差は、上記(5)のとおり。例えば、ある選択肢の回答率が50%の時、回答者総数(790人)の標本値は母集団の46.5%~53.5%の範囲にあると考えてよい。
- ・表やグラフでは、表示の都合上、調査票の選択肢の文言を簡略化しているものもある。
- ・本章第1節のグラフは、国の「在宅介護実態調査自動集計分析ソフト」から出力されたものを使用している。
- ・本章第2節のグラフは、選択項目が多数の設問があることから、グラフ内の回答比率について「%」の表記を省略している。
- ・属性別のクロス集計結果は、回答者の属性が不明な場合は除外して表示しているため、属性別の人数の合計が回答者の総数と一致しない場合がある。



## 第2章

# 要支援・要介護認定者と介護者の 生活と福祉に関する調査

### 第1節 在宅介護実態調査

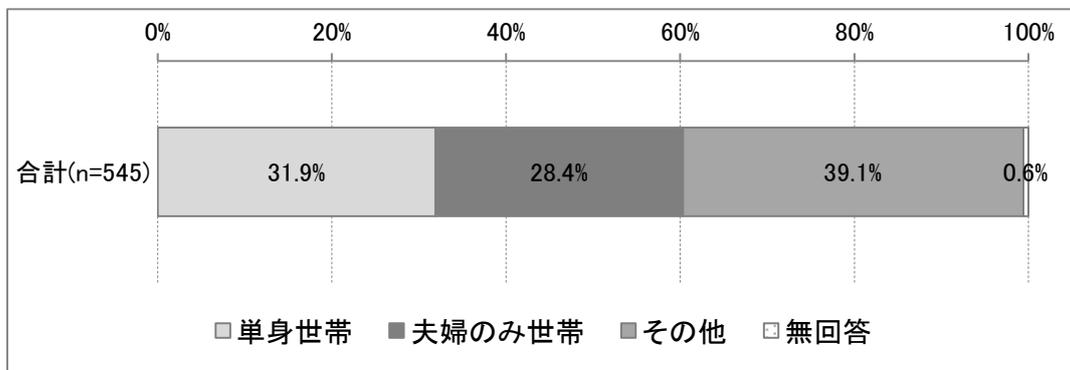


## 1 調査項目・認定データの単純集計

### (1) 本人の概況

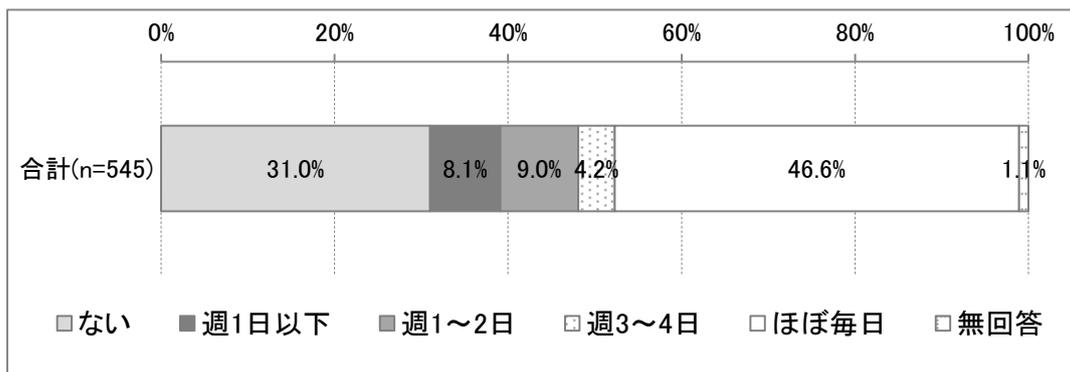
#### 【世帯類型】

「その他」の割合が39.1%と最も高く、次いで「単身世帯」が31.9%、「夫婦のみ世帯」が28.4%となっている。



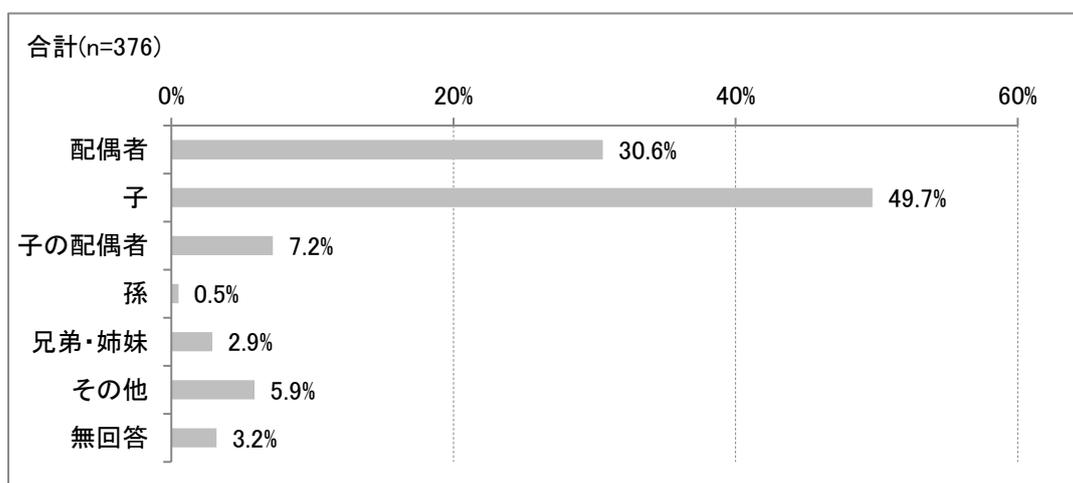
#### 【家族等による介護の頻度】

「ほぼ毎日」の割合が46.6%と最も高く、次いで「ない」が31.0%、「週1～2日」が9.0%となっている。



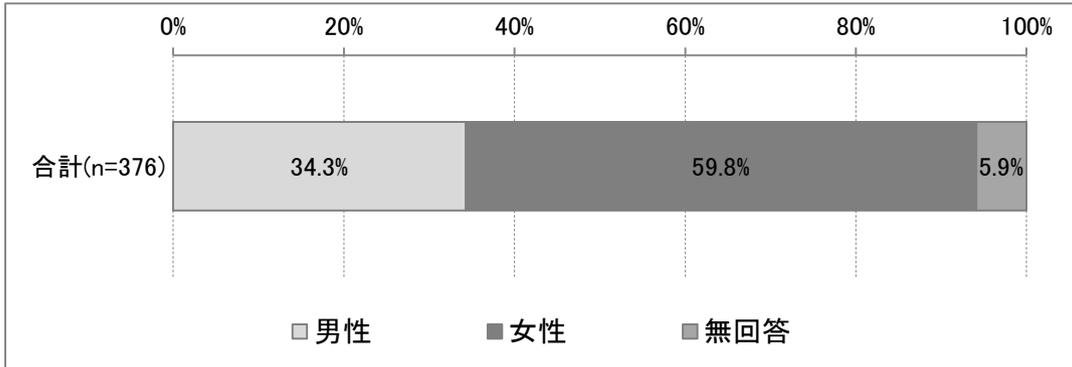
#### 【主な介護者の本人との関係】

「子」の割合が49.7%と最も高く、次いで「配偶者」が30.6%、「子の配偶者」が7.2%となっている。



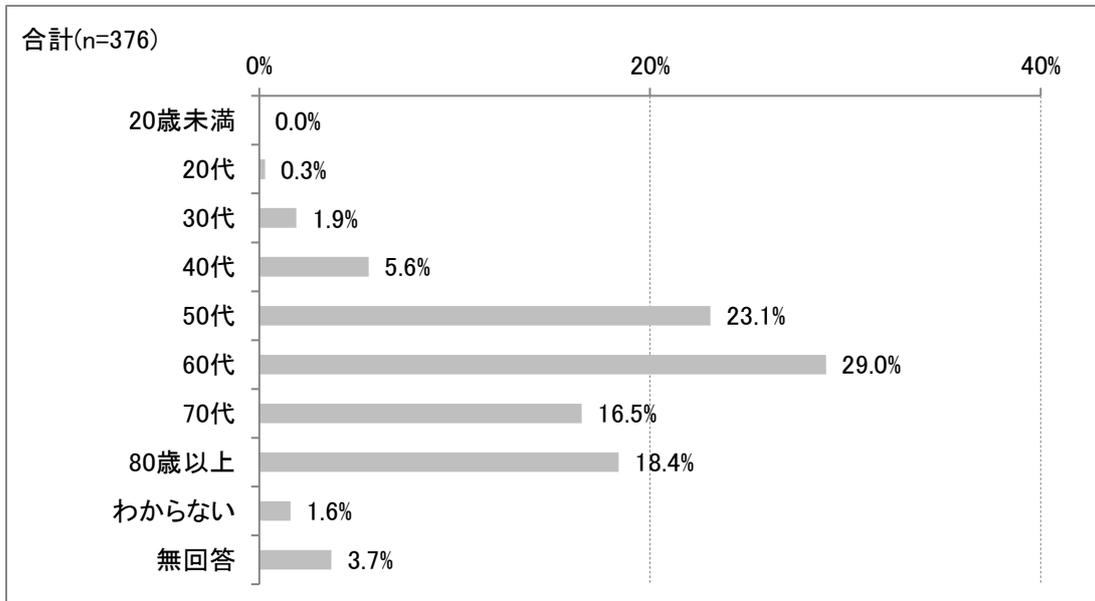
【主な介護者の性別】

「女性」が59.8%、「男性」が34.3%となっている。



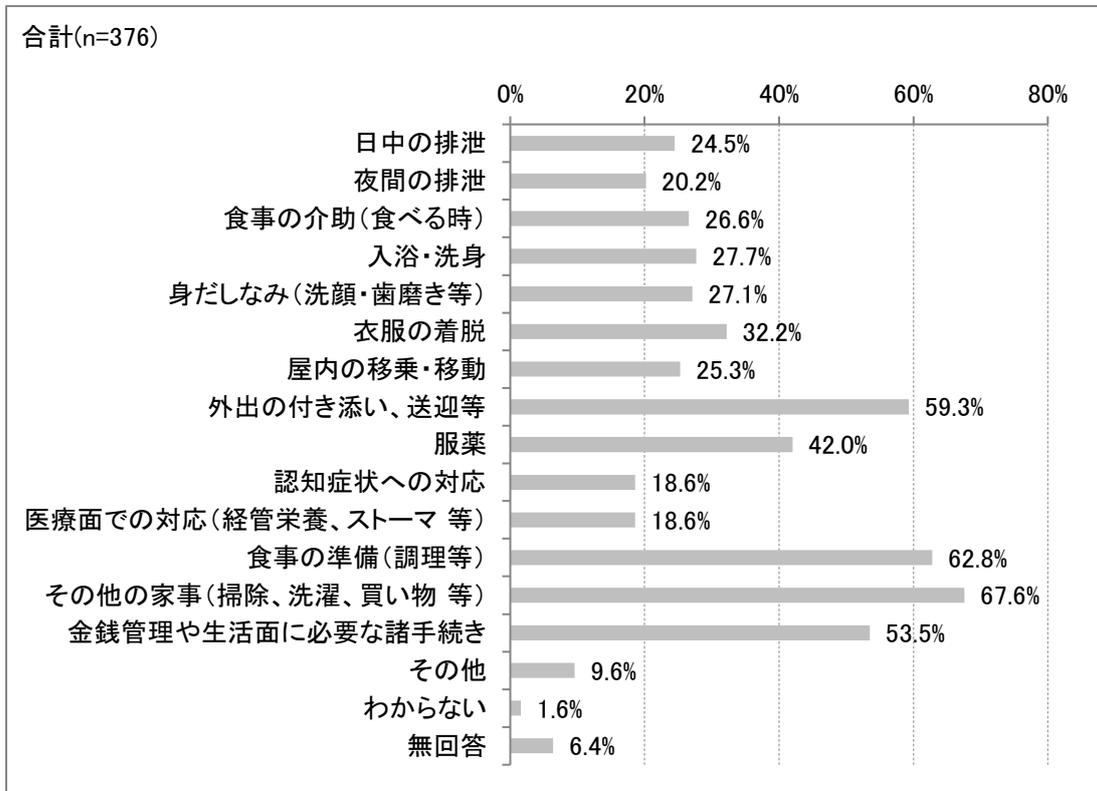
【主な介護者の年齢】

「60代」の割合が29.0%と最も高く、次いで「50代」が23.1%、「80歳以上」が18.4%となっている。



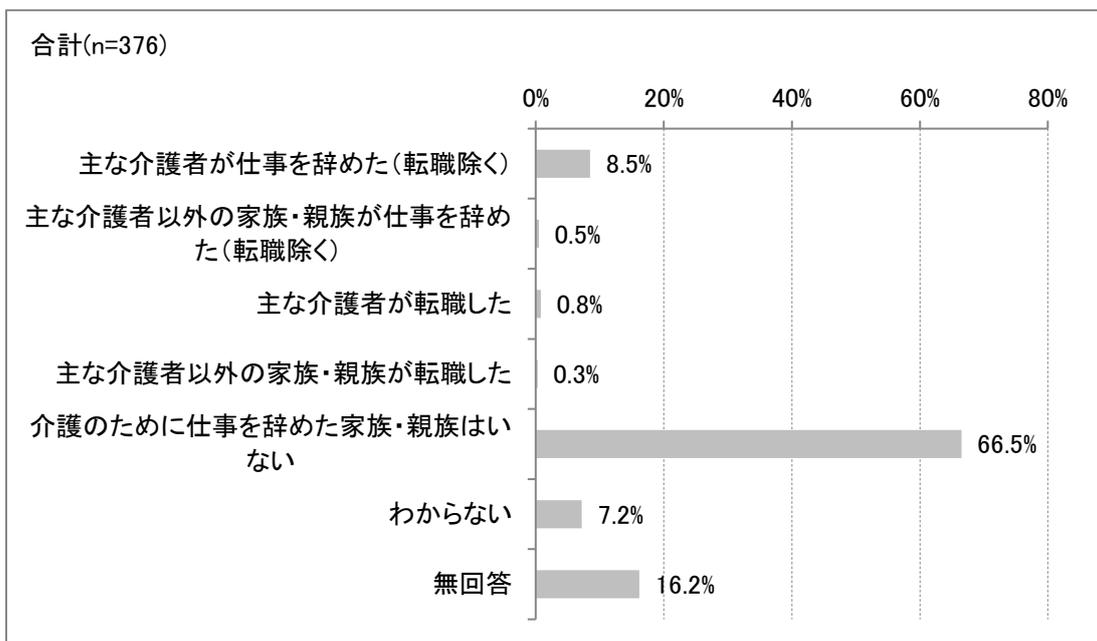
【主な介護者が行っている介護】

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」の割合が67.6%と最も高く、次いで「食事の準備（調理等）」が62.8%、「外出の付き添い、送迎等」が59.3%となっている。



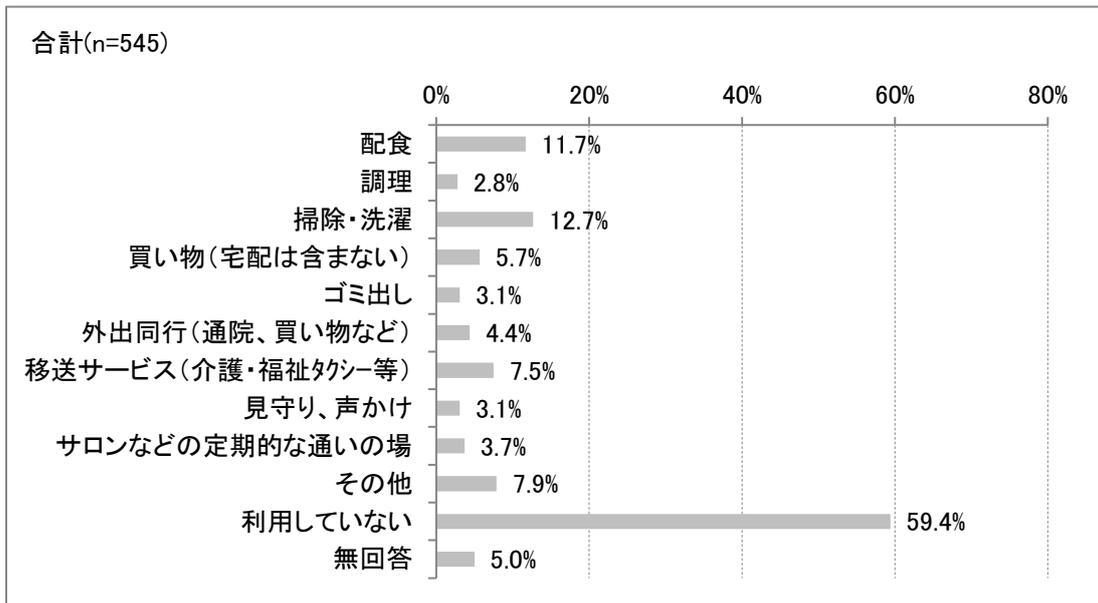
【介護のための離職の有無】

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が66.5%と最も高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が8.5%、「わからない」が7.2%となっている。



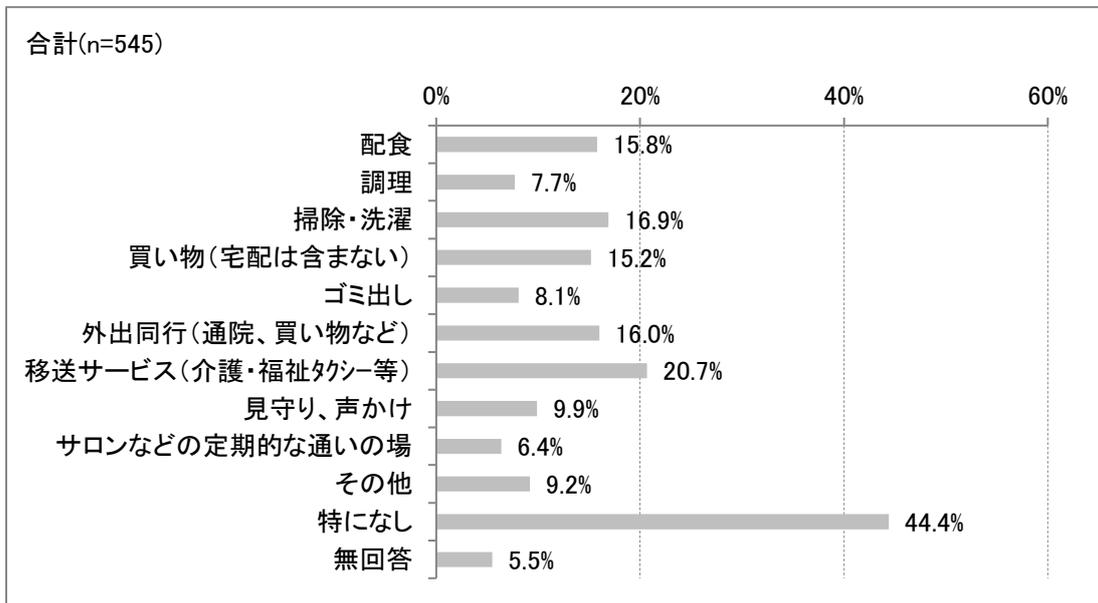
【介護保険外の支援・サービスの利用状況】

「利用していない」の割合が59.4%と最も高く、次いで「掃除・洗濯」が12.7%、「配食」が11.7%となっている。



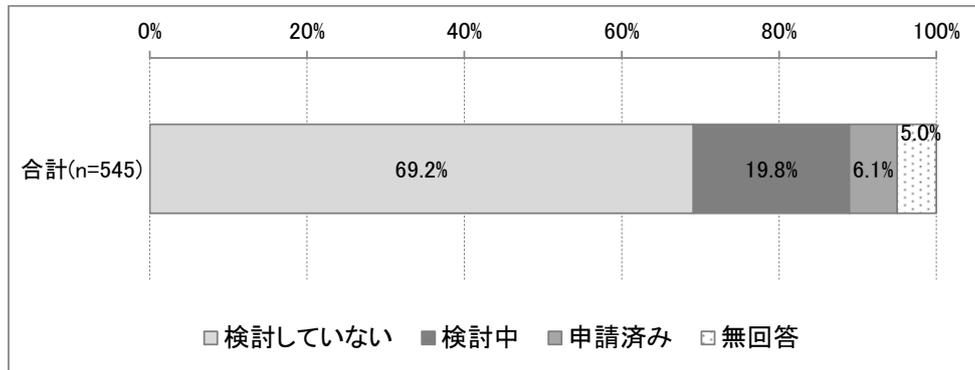
【在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス】

「特になし」の割合が44.4%と最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が20.7%、「掃除・洗濯」が16.9%となっている。



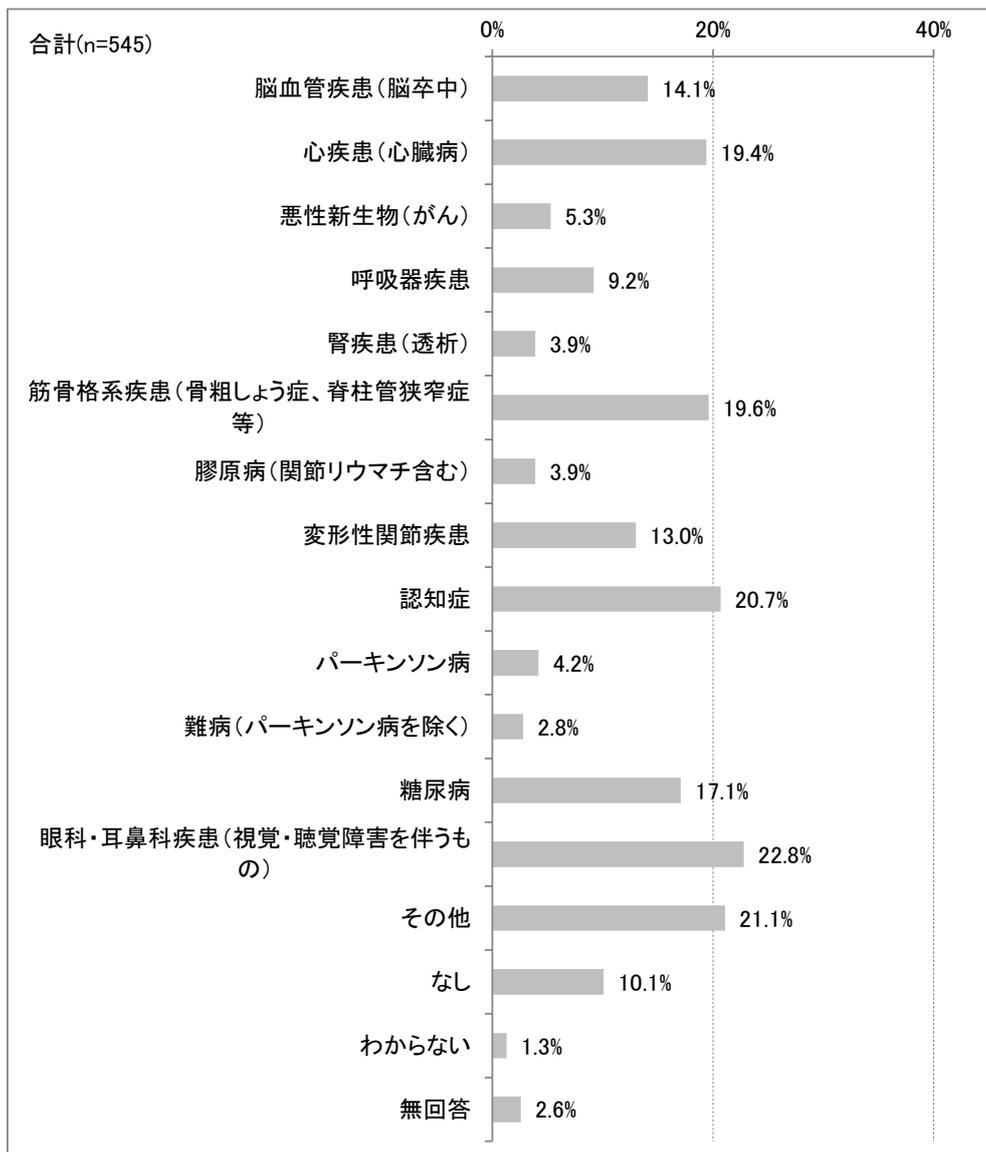
【施設等検討の状況】

「検討していない」の割合が69.2%と最も高く、次いで「検討中」が19.8%、「申請済み」が6.1%となっている。



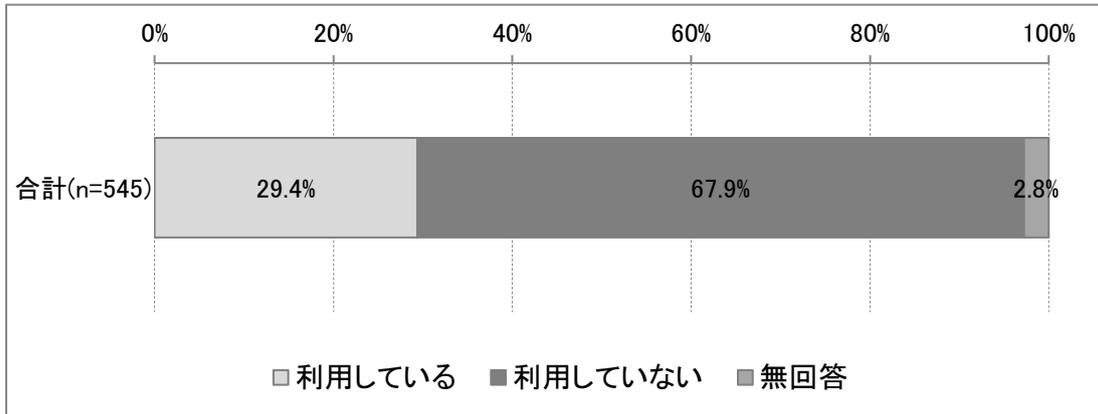
【本人が抱えている傷病】

「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」の割合が22.8%と最も高く、次いで「その他」が21.1%、「認知症」が20.7%となっている。



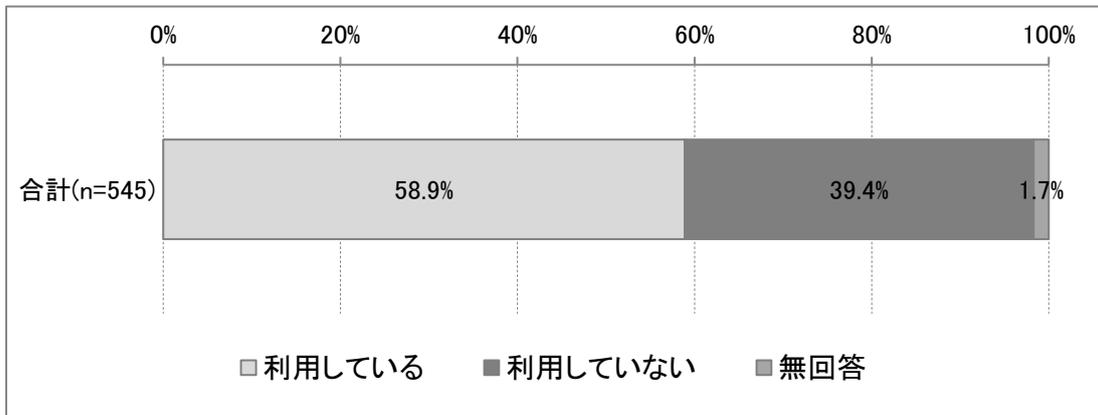
【訪問診療の利用の有無】

「利用していない」が67.9%、「利用している」が29.4%となっている。



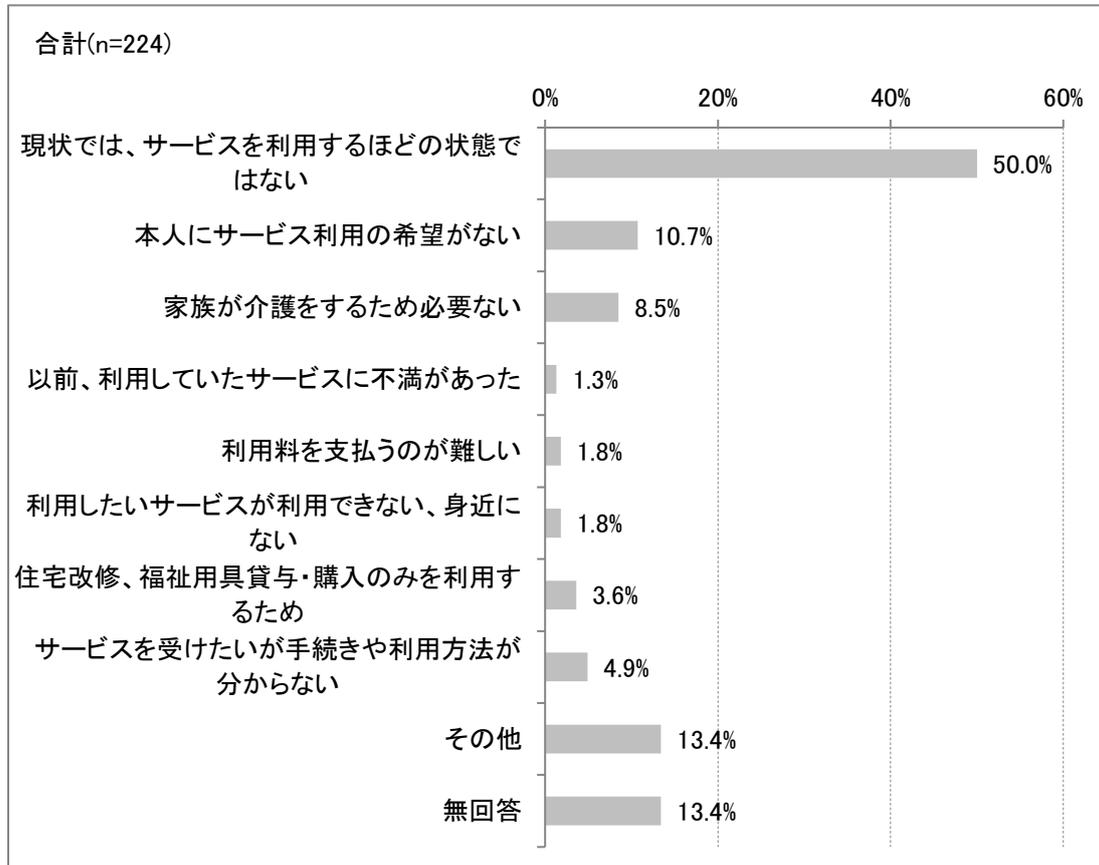
【介護保険サービスの利用の有無】

「利用している」が58.9%、「利用していない」が39.4%となっている。



【介護保険サービス未利用の理由】

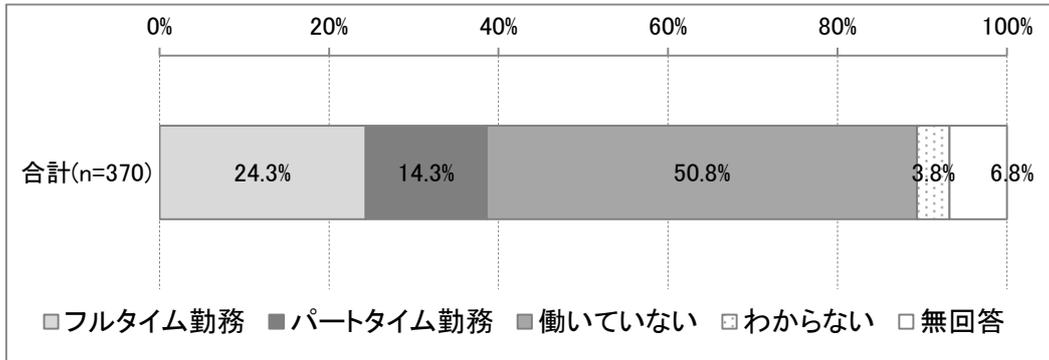
「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が 50.0%と最も高く、次いで「その他」が 13.4%、「本人にサービス利用の希望がない」が 10.7%となっている。



(2) 主な介護者の就労状況

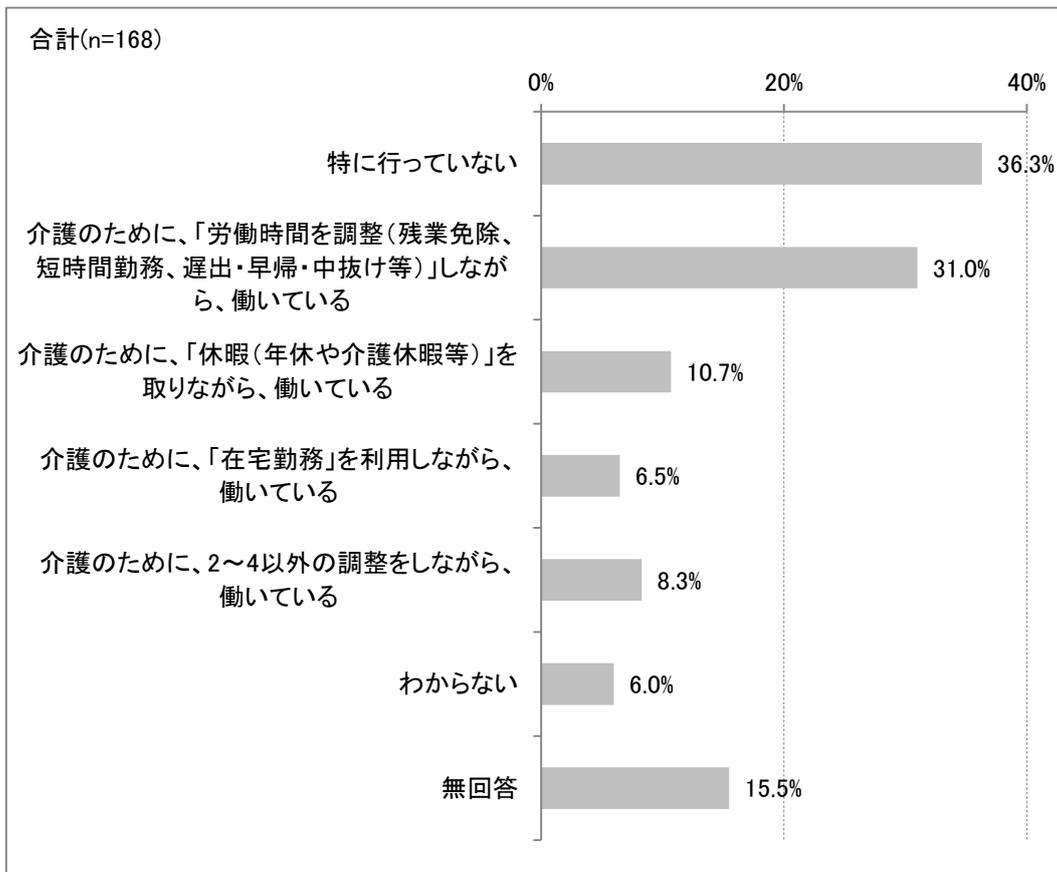
【主な介護者の勤務形態】

「働いていない」の割合が50.8%と最も高く、次いで「フルタイム勤務」が24.3%、「パートタイム勤務」が14.3%となっている。



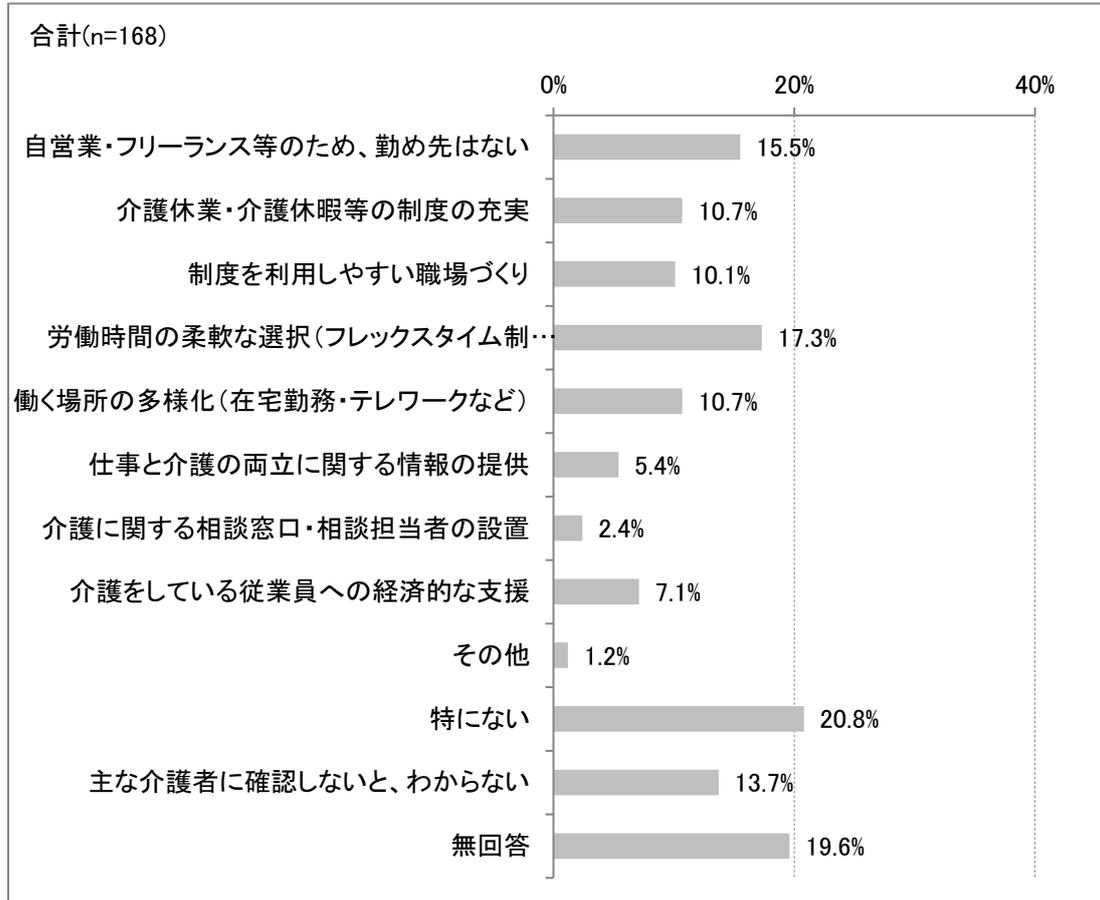
【主な介護者の方の働き方の調整の状況】

「特に行っていない」の割合が36.3%と最も高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が31.0%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が10.7%となっている。



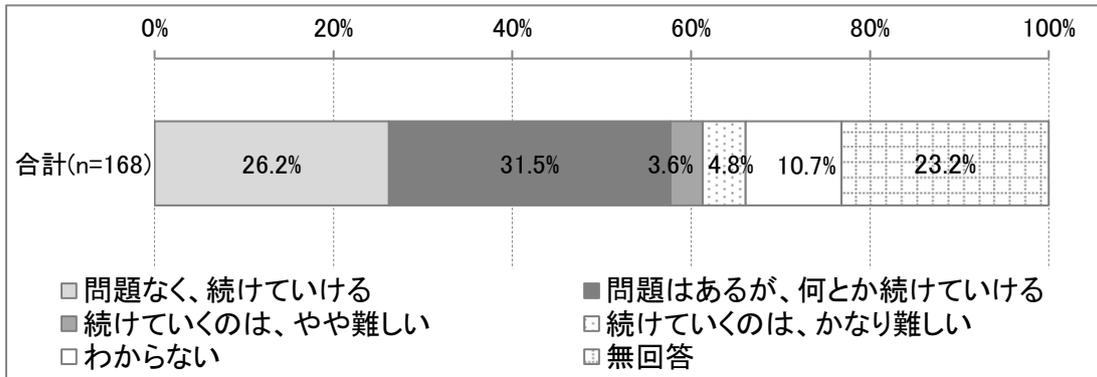
【就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援】

「特にない」の割合が 20.8%と最も高く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が 17.3%、「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」が 15.5%となっている。



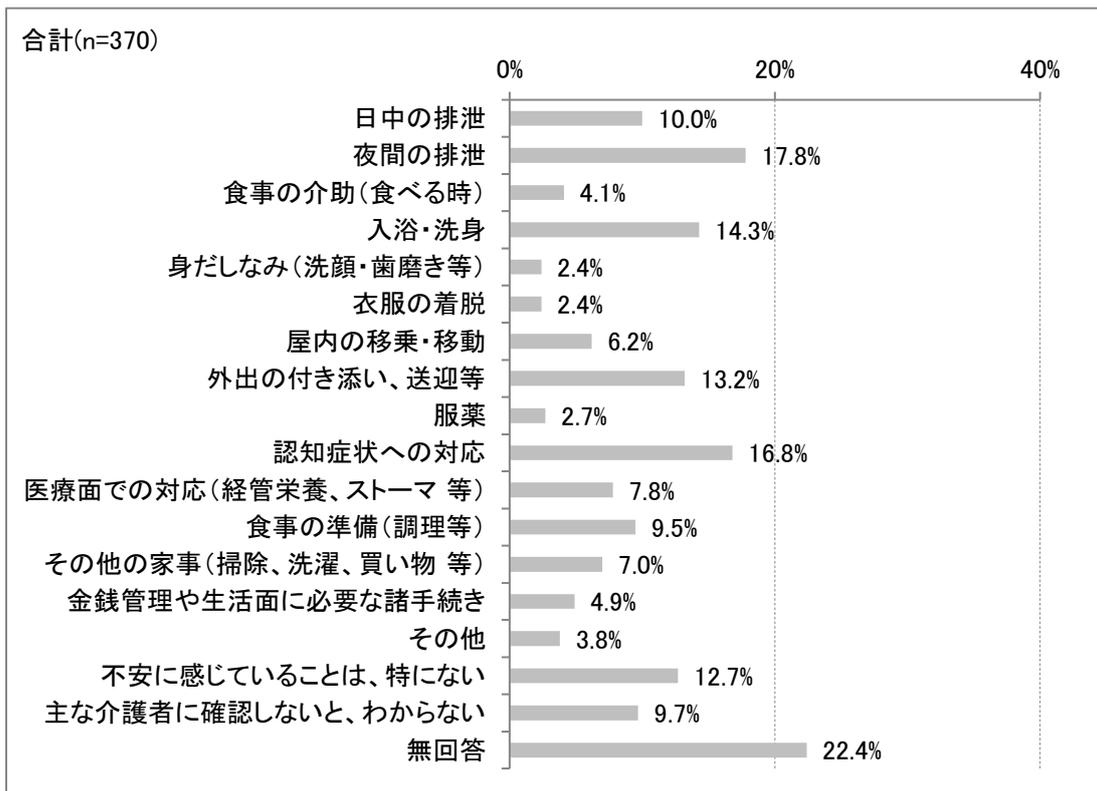
【主な介護者の就労継続の可否に係る意識】

「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が31.5%と最も高く、次いで「問題なく、続けていける」が26.2%、「わからない」が10.7%となっている。



【今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護】

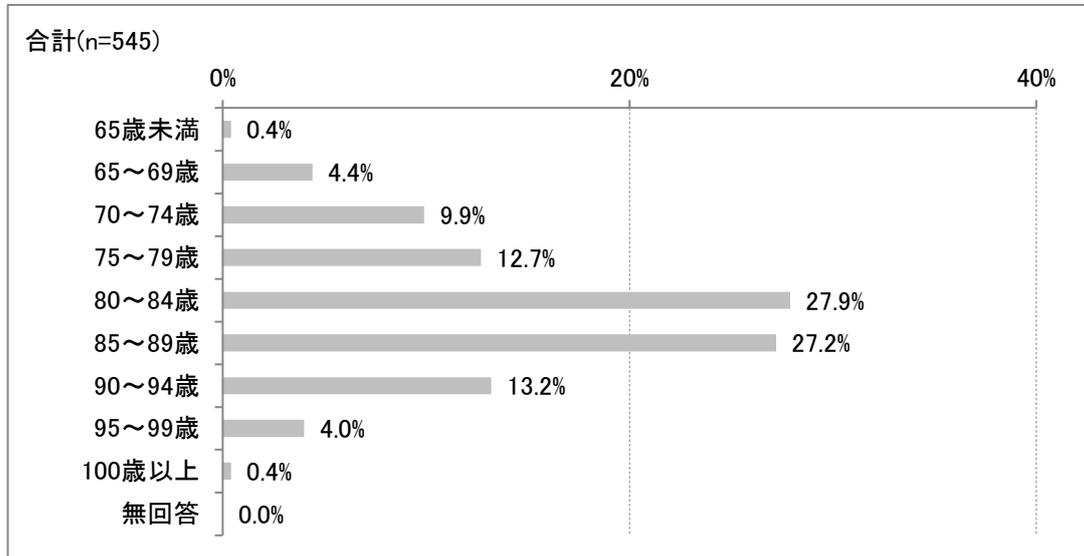
「夜間の排泄」の割合が17.8%と最も高く、次いで「認知症状への対応」が16.8%、「入浴・洗身」が14.3%となっている。



(3) 要介護認定データ

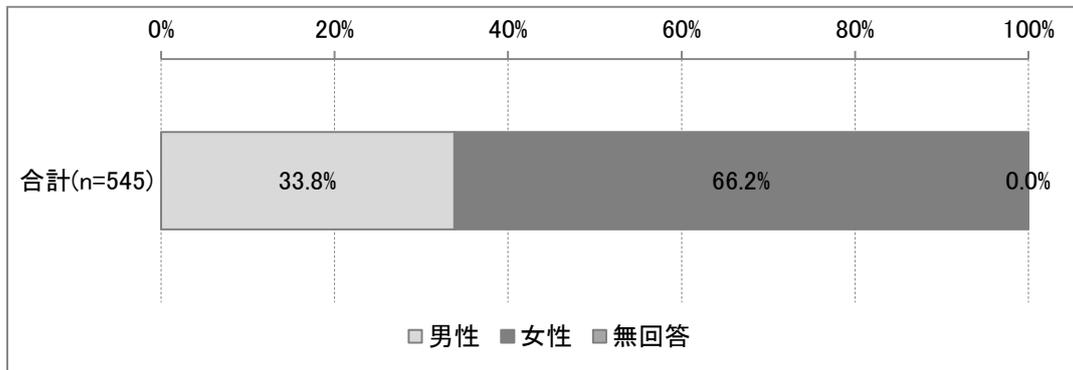
【年齢】

「80～84歳」の割合が27.9%と最も高く、次いで「85～89歳」が27.2%、「90～94歳」が13.2%となっている。



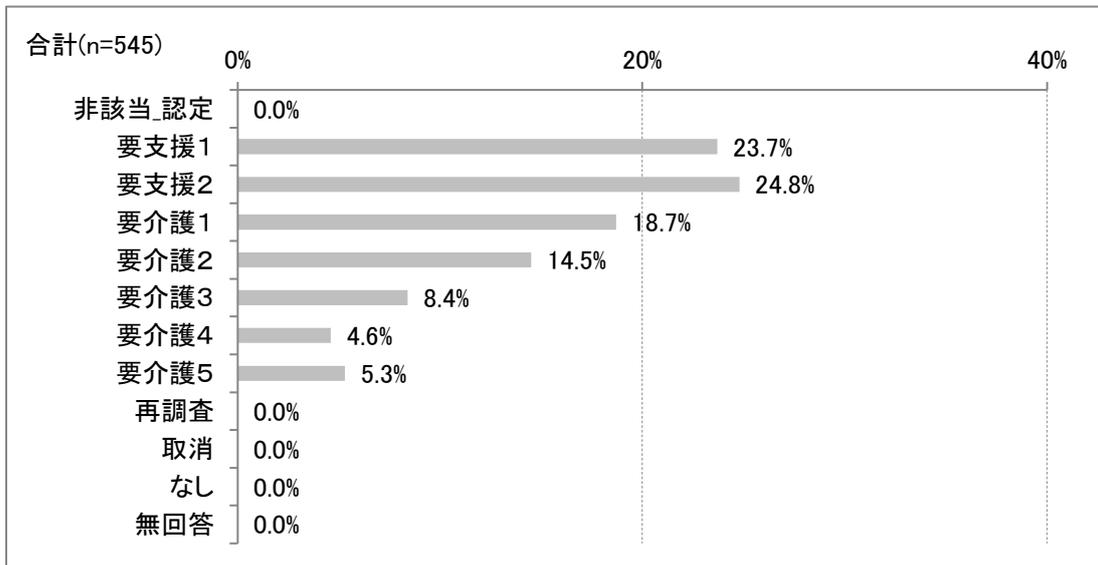
【性別】

「女性」が66.2%、「男性」が33.8%となっている。



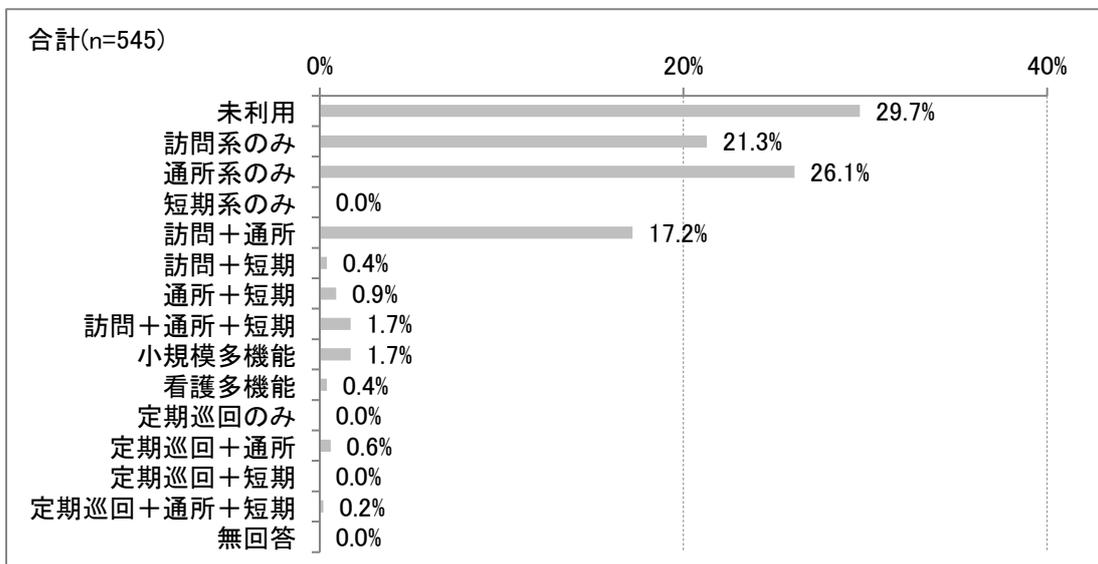
【要介護度】

「要支援2」の割合が24.8%と最も高く、次いで「要支援1」が23.7%、「要介護1」が18.7%となっている。



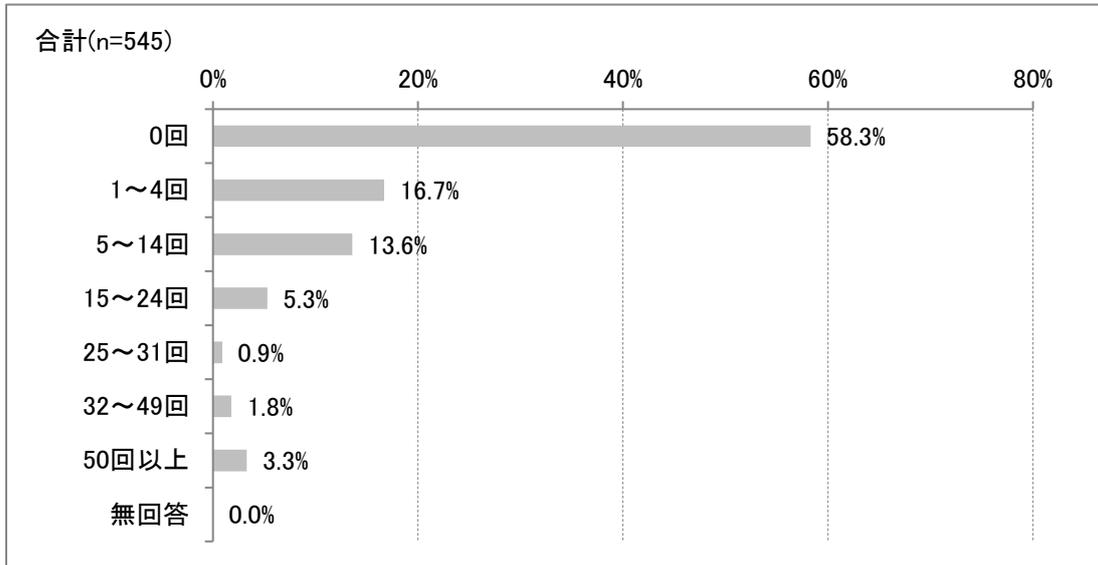
【サービス利用の組み合わせ】

「未利用」の割合が29.7%と最も高く、次いで「通所系のみ」が26.1%、「訪問系のみ」が21.3%となっている。



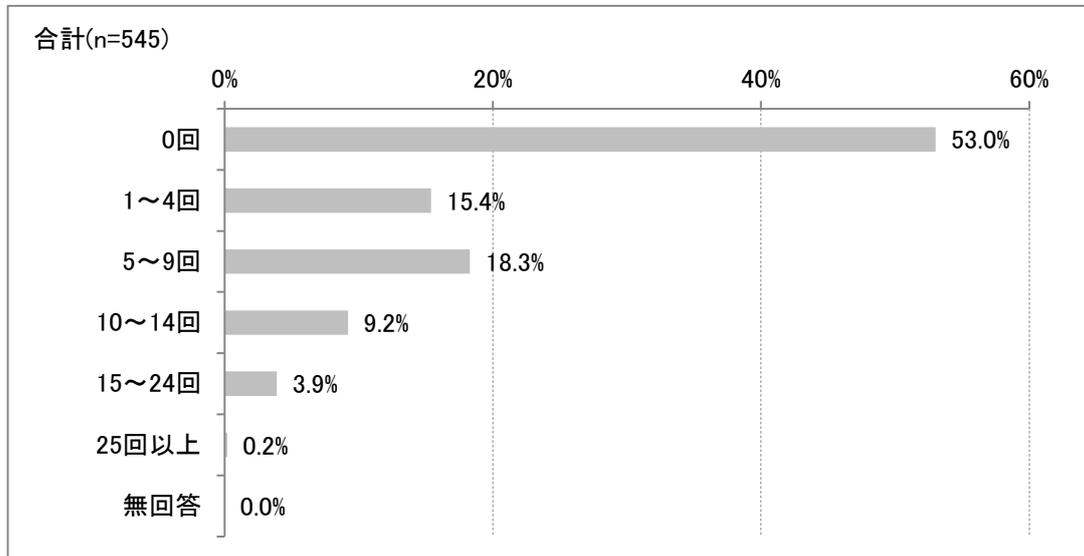
【訪問系の1カ月当たりの合計利用回数】

「0回」の割合が58.3%と最も高く、次いで「1～4回」が16.7%、「5～14回」が13.6%となっている。



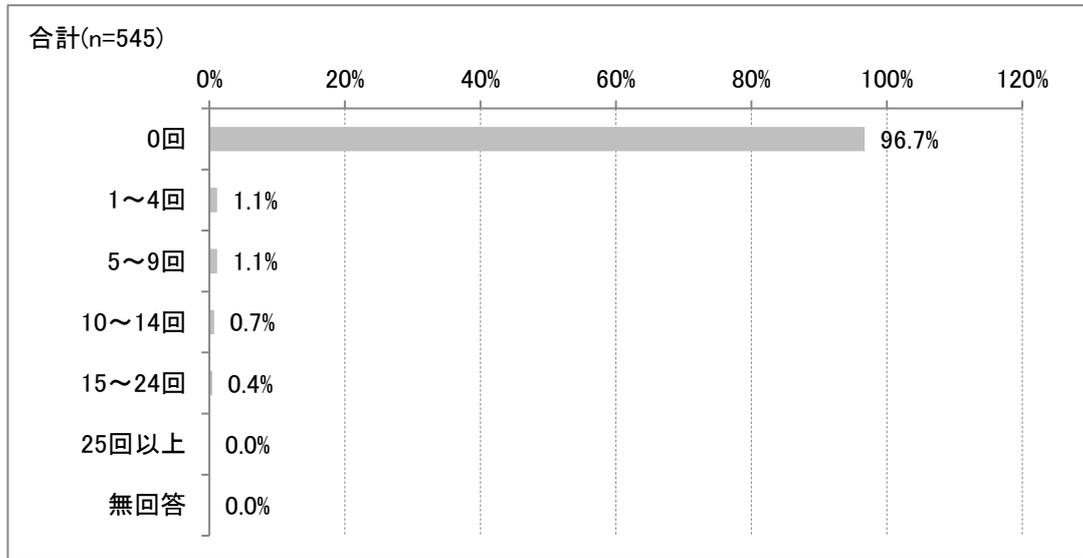
【通所系の1カ月当たりの合計利用回数】

「0回」の割合が53.0%と最も高く、次いで「5～9回」が18.3%、「1～4回」が15.4%となっている。



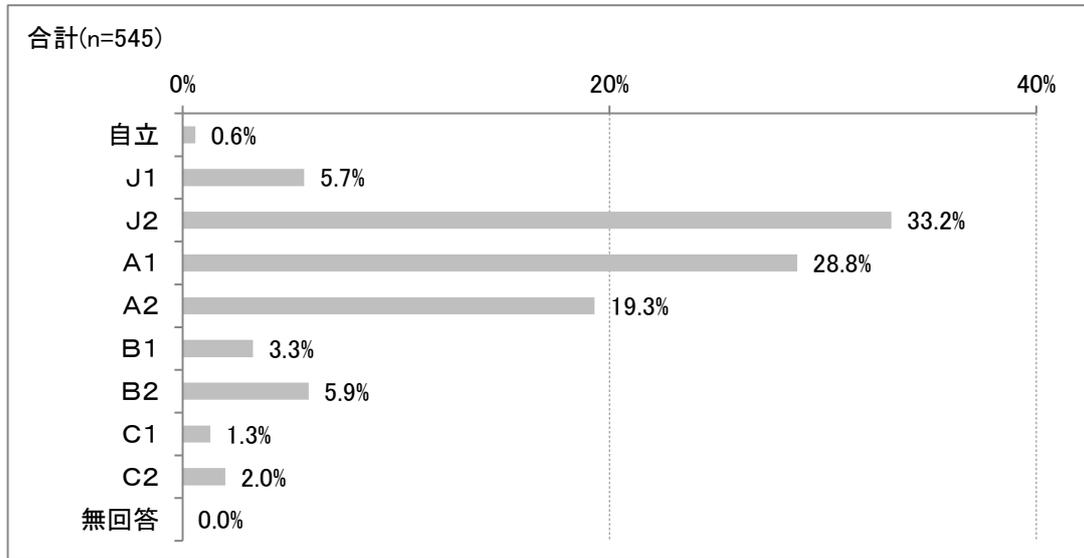
## 【短期系の1カ月当たりの合計利用回数】

「0回」の割合が96.7%と最も高く、次いで「1～4回」と「5～9回」がともに1.1%、「10～14回」が0.7%となっている。



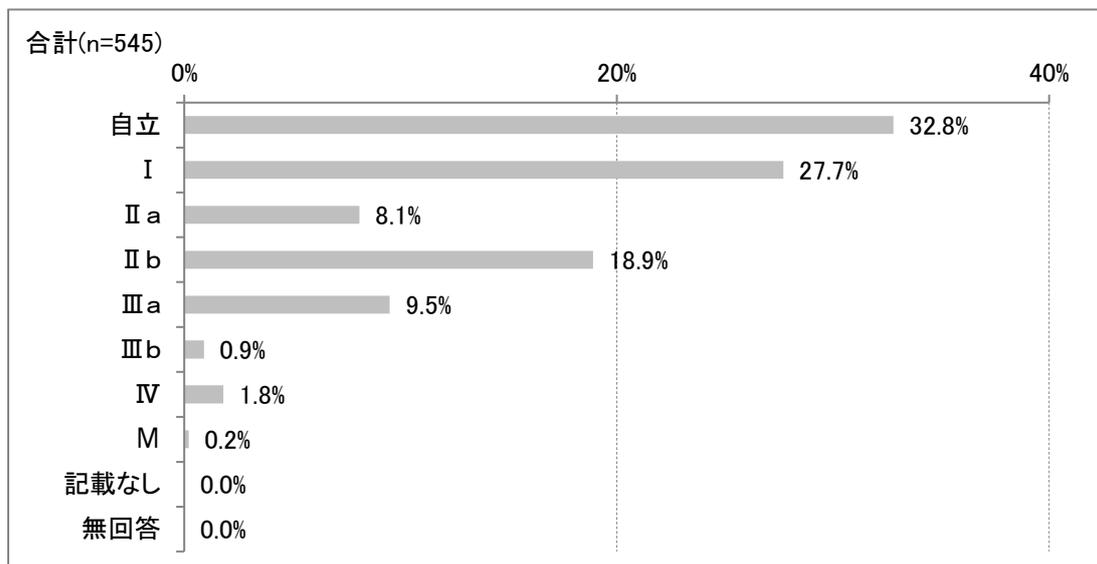
【障害高齢者の日常生活自立度】

「J2」の割合が33.2%と最も高く、次いで「A1」が28.8%、「A2」が19.3%となっている。



【認知症高齢者の日常生活自立度】

「自立」の割合が32.8%と最も高く、次いで「I」が27.7%、「II b」が18.9%となっている。

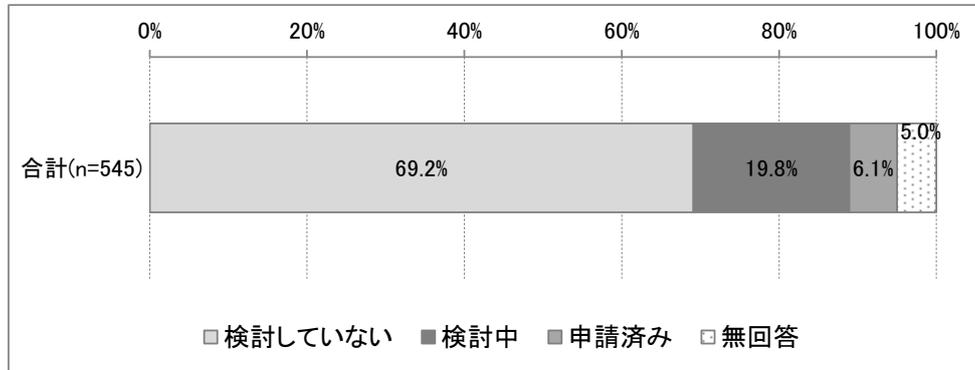


## 2 在宅限界点を高めるための支援・サービスの提供体制の検討

### (1) 基礎集計

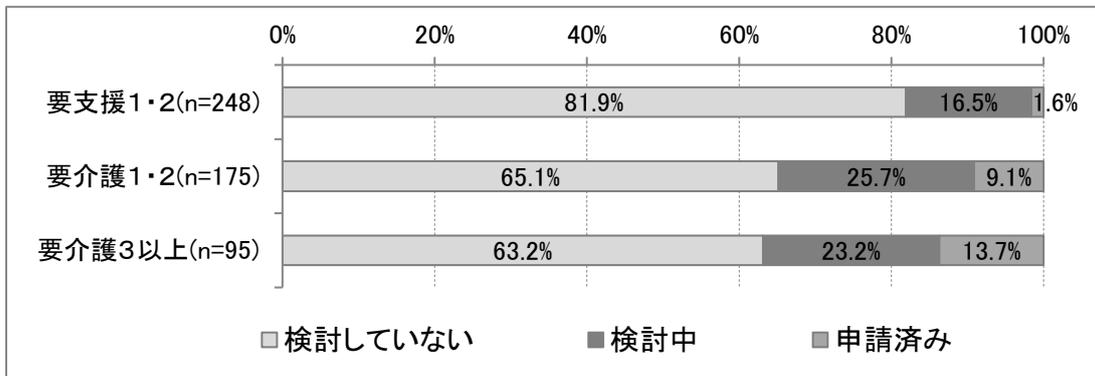
#### 【施設等入所の検討状況】(再掲)

「検討していない」の割合が69.2%と最も高く、次いで「検討中」が19.8%、「申請済み」が6.1%となっている。



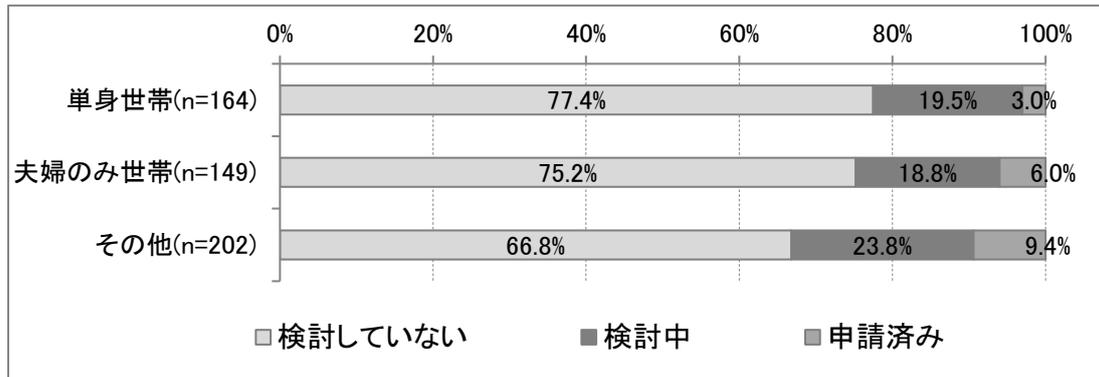
#### 【要介護度別・施設等入所の検討状況】

施設等入所の検討状況を要介護度別にみると、「要支援1・2」では、「検討していない」が81.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が16.5%、「申請済み」が1.6%となっている。「要介護1・2」では、「検討していない」が65.1%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.7%、「申請済み」が9.1%となっている。「要介護3以上」では、「検討していない」が63.2%と最も割合が高く、次いで「検討中」が23.2%、「申請済み」が13.7%となっている。



## 【世帯類型別・施設等入所の検討状況】

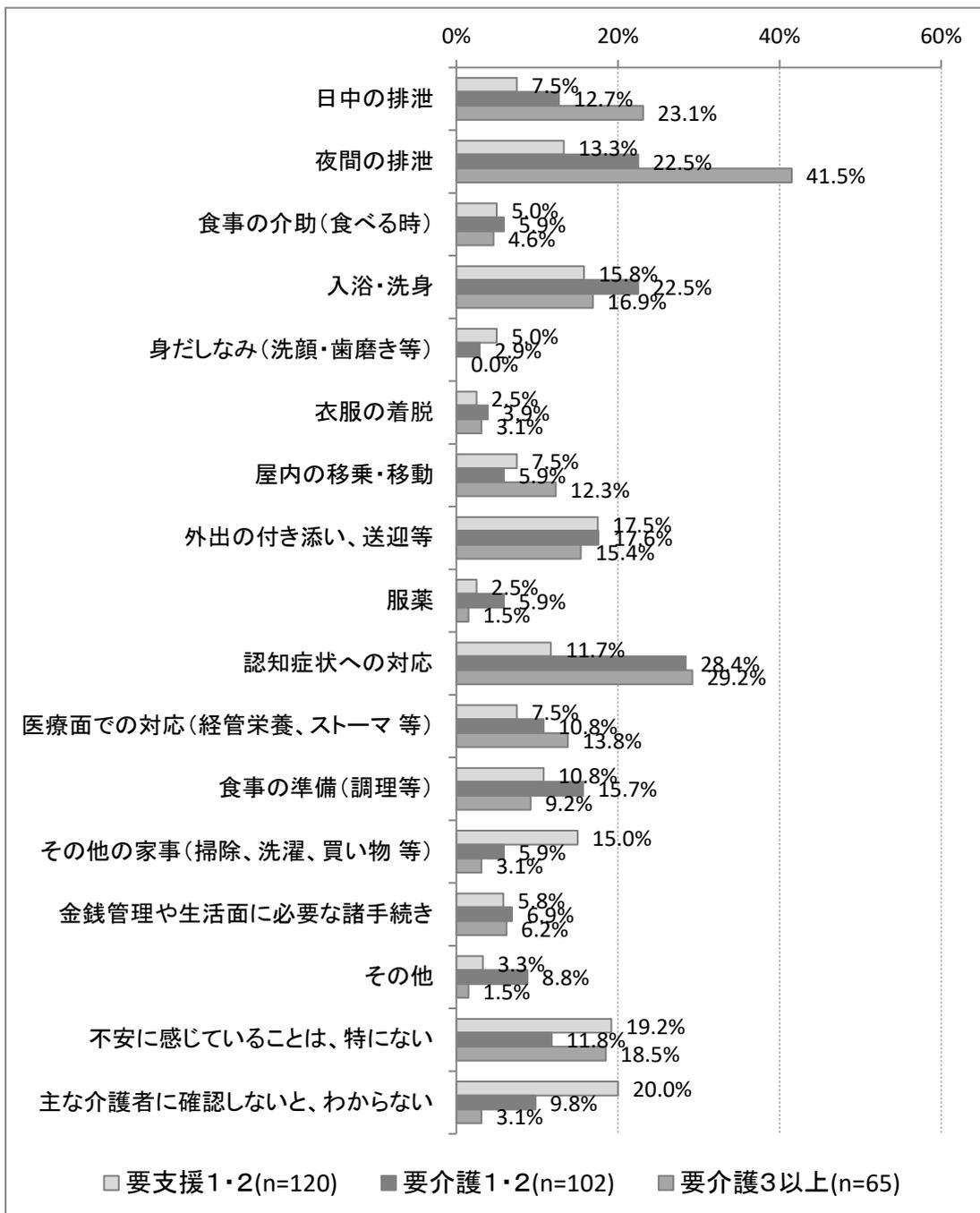
施設等入所の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では、「検討していない」が77.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が19.5%、「申請済み」が3.0%となっている。「夫婦のみ世帯」では、「検討していない」が75.2%と最も割合が高く、次いで「検討中」が18.8%、「申請済み」が6.0%となっている。「その他」では、「検討していない」が66.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が23.8%、「申請済み」が9.4%となっている。



(2) 要介護度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化

【要介護度別・介護者が不安に感じる介護】

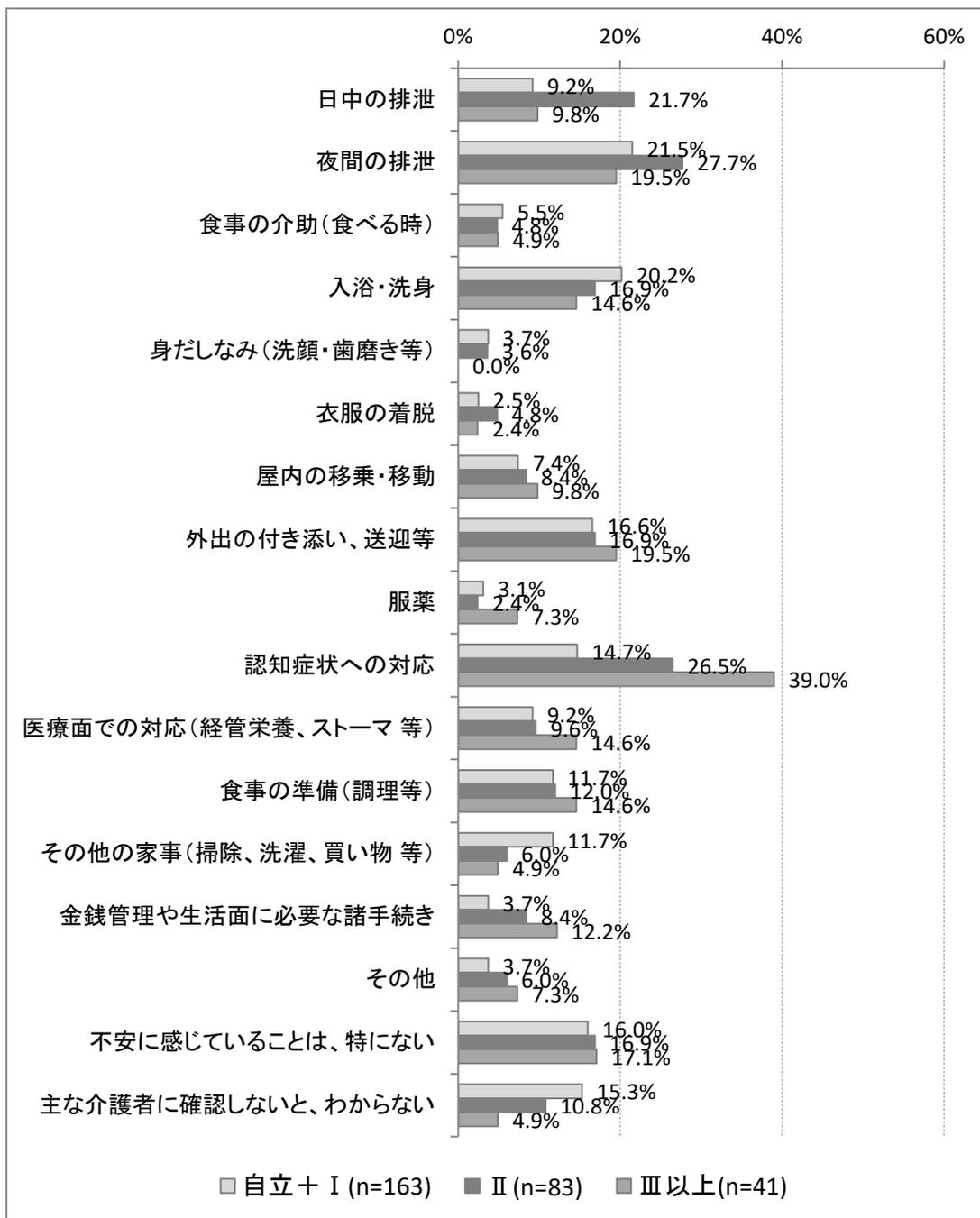
介護者が不安に感じる介護を要介護度別にみると、「要支援1・2」では、「主な介護者に確認しないと、わからない」が20.0%と最も割合が高く、次いで「不安に感じていることは、特にない」が19.2%、「外出の付き添い、送迎等」が17.5%となっている。「要介護1・2」では、「認知症状への対応」が28.4%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」と「入浴・洗身」がともに22.5%、「外出の付き添い、送迎等」が17.6%となっている。「要介護3以上」では、「夜間の排泄」が41.5%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が29.2%、「日中の排泄」が23.1%となっている。



【認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では、「夜間の排泄」が21.5%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が20.2%、「外出の付き添い、送迎等」が16.6%となっている。「Ⅱ」では、「夜間の排泄」が27.7%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が26.5%、「日中の排泄」が21.7%となっている。

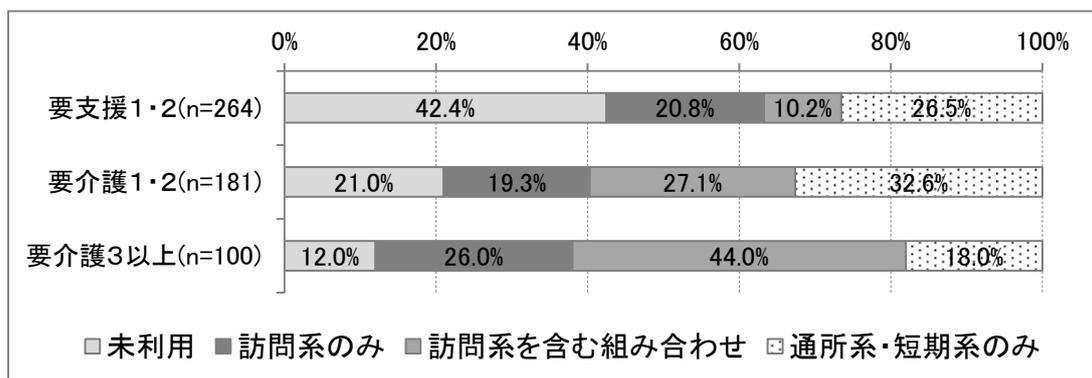
「Ⅲ以上」では、「認知症状への対応」が39.0%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」と「外出の付き添い、送迎等」がともに19.5%、「不安に感じていることは、特にない」が17.1%となっている。



### (3) 要介護度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

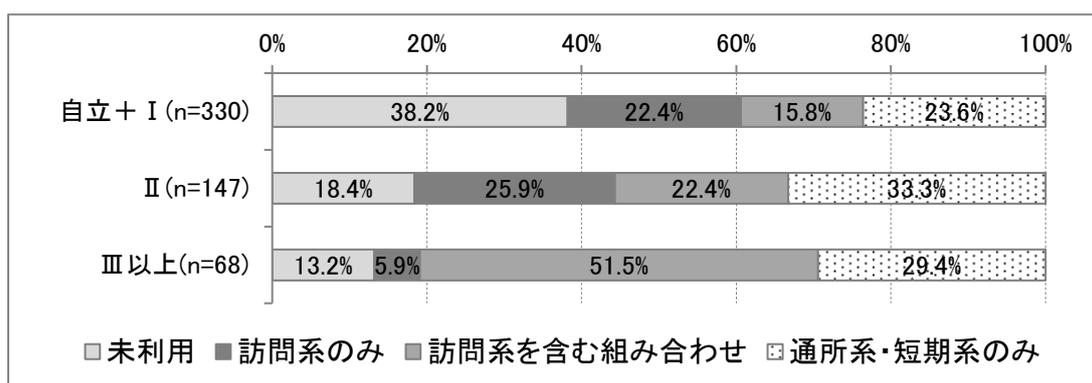
#### 【要介護度別・介護保険サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを要介護度別にみると、「要支援1・2」では、「未利用」が42.4%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が26.5%、「訪問系のみ」が20.8%となっている。「要介護1・2」では、「通所系・短期系のみ」が32.6%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が27.1%、「未利用」が21.0%となっている。「要介護3以上」では、「訪問系を含む組み合わせ」が44.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が26.0%、「通所系・短期系のみ」が18.0%となっている。



#### 【認知症自立度別・介護保険サービス利用の組み合わせ】

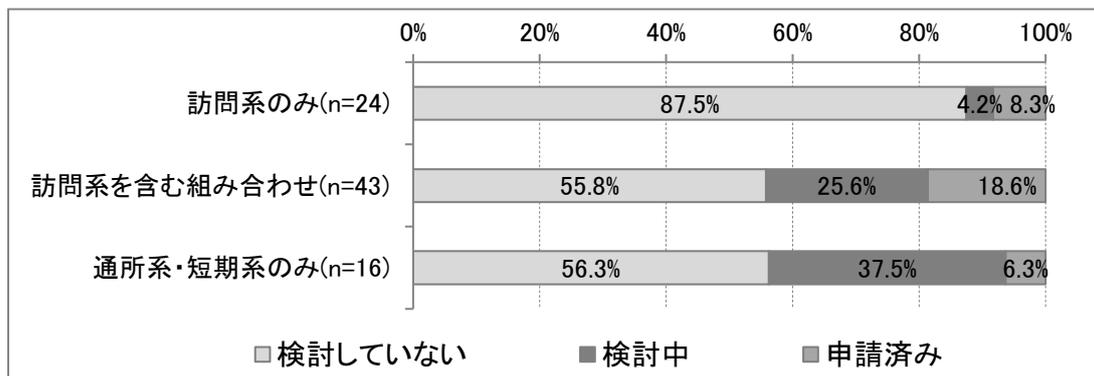
サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では、「未利用」が38.2%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が23.6%、「訪問系のみ」が22.4%となっている。「Ⅱ」では、「通所系・短期系のみ」が33.3%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が25.9%、「訪問系を含む組み合わせ」が22.4%となっている。「Ⅲ以上」では、「訪問系を含む組み合わせ」が51.5%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が29.4%、「未利用」が13.2%となっている。



(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等入所の検討状況」の関係

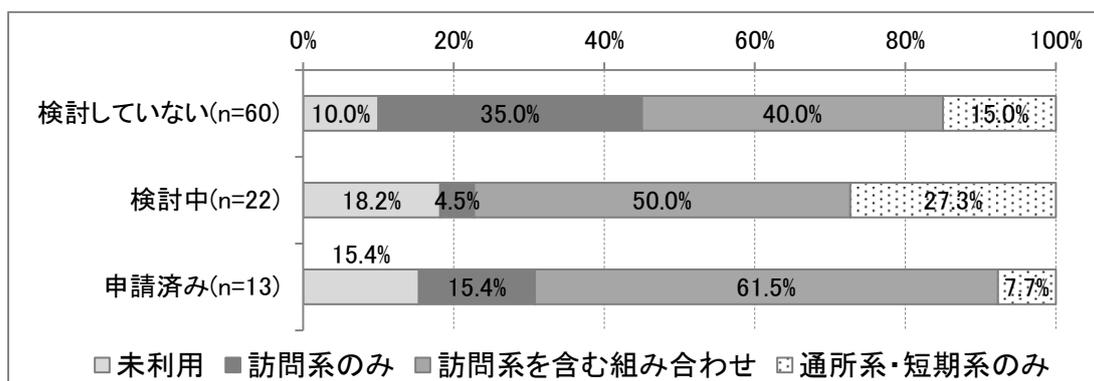
【介護保険サービス利用の組み合わせと施設等入所の検討状況(要介護3以上)】

施設等入所の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では、「検討していない」が87.5%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が8.3%、「検討中」が4.2%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では、「検討していない」が55.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.6%、「申請済み」が18.6%となっている。「通所系・短期系のみ」では、「検討していない」が56.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が37.5%、「申請済み」が6.3%となっている。



【介護保険サービス利用の組み合わせと施設等入所の検討状況(要介護3以上)】

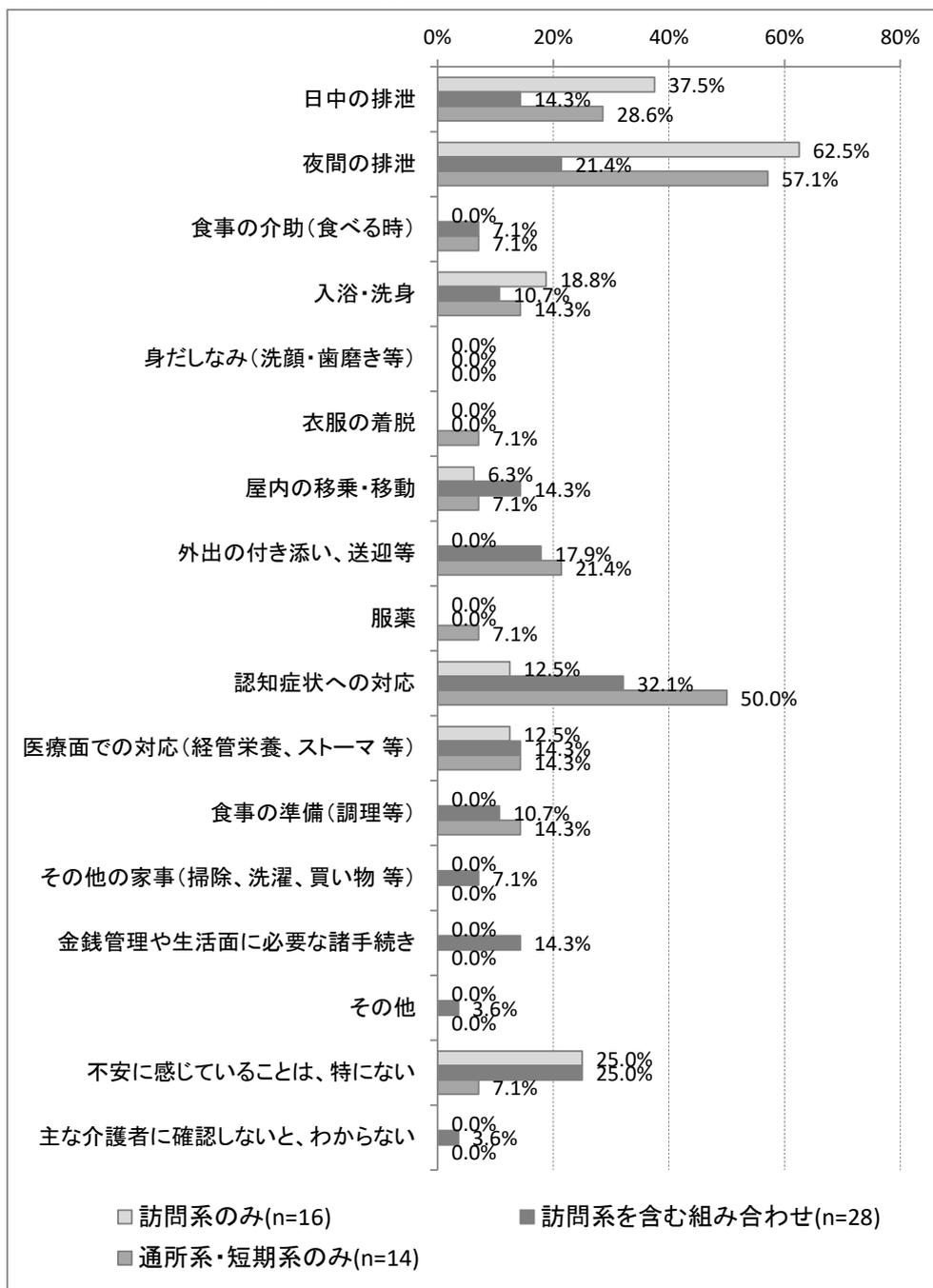
サービス利用の組み合わせを施設等入所の検討状況別にみると、「検討していない」では、「訪問系を含む組み合わせ」が40.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が35.0%、「通所系・短期系のみ」が15.0%となっている。「検討中」では、「訪問系を含む組み合わせ」が50.0%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が27.3%、「未利用」が18.2%となっている。「申請済み」では、「訪問系を含む組み合わせ」が61.5%と最も割合が高く、次いで「未利用」と「訪問系のみ」がともに15.4%、「通所系・短期系のみ」が7.7%となっている。



(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係

【介護保険サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護(要介護3以上)】

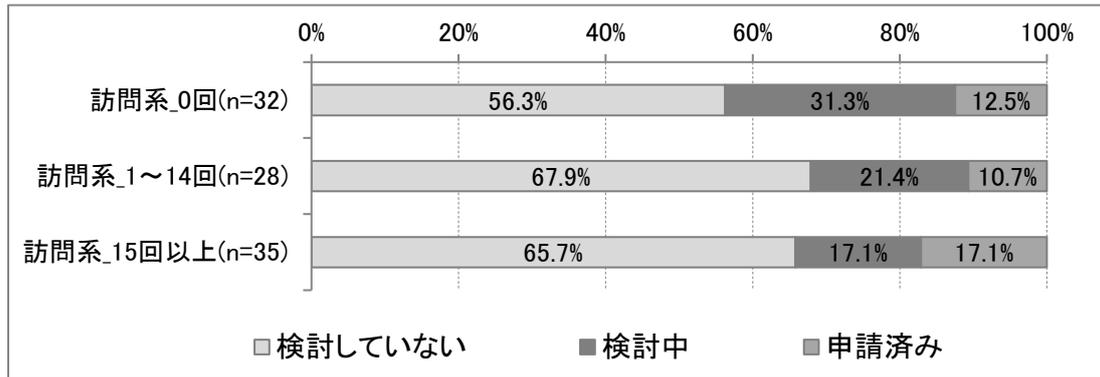
介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では、「夜間の排泄」が62.5%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が37.5%、「不安に感じていることは、特にない」が25.0%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では、「認知症状への対応」が32.1%と最も割合が高く、次いで「不安に感じていることは、特にない」が25.0%、「夜間の排泄」が21.4%となっている。「通所系・短期系のみ」では、「夜間の排泄」が57.1%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が50.0%、「日中の排泄」が28.6%となっている。



(6) 「サービス利用の回数」と「施設等入所の検討状況」の関係

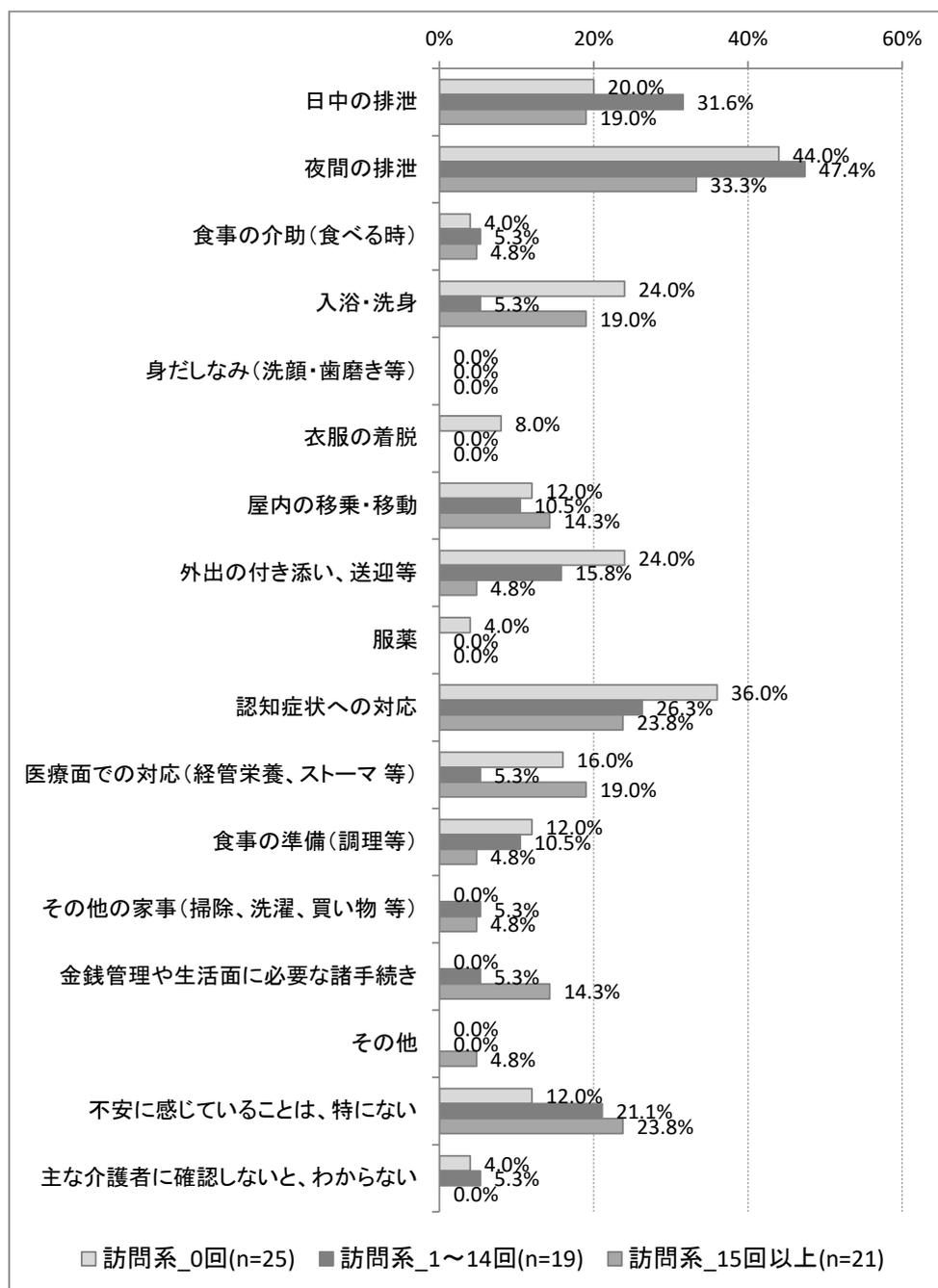
【介護保険サービス利用回数と施設等入所の検討状況(訪問系、要介護3以上)】

施設等入所の検討状況を訪問系の1カ月当たりの利用回数別にみると、「0回」では、「検討していない」が56.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が31.3%、「申請済み」が12.5%となっている。「1～14回」では、「検討していない」が67.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が21.4%、「申請済み」が10.7%となっている。「15回以上」では、「検討していない」が65.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」と「申請済み」がともに17.1%となっている。



(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係  
 【介護保険サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(訪問系、要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の1カ月当たりの利用回数別にみると、「0回」では、「夜間の排泄」が44.0%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が36.0%、「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」が24.0%となっている。「1～14回」では、「夜間の排泄」が47.4%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が31.6%、「認知症状への対応」が26.3%となっている。「15回以上」では、「夜間の排泄」が33.3%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」と「不安を感じていることは、特にない」がともに23.8%、「日中の排泄」、「入浴・洗身」、「医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)」がともに19.0%となっている。

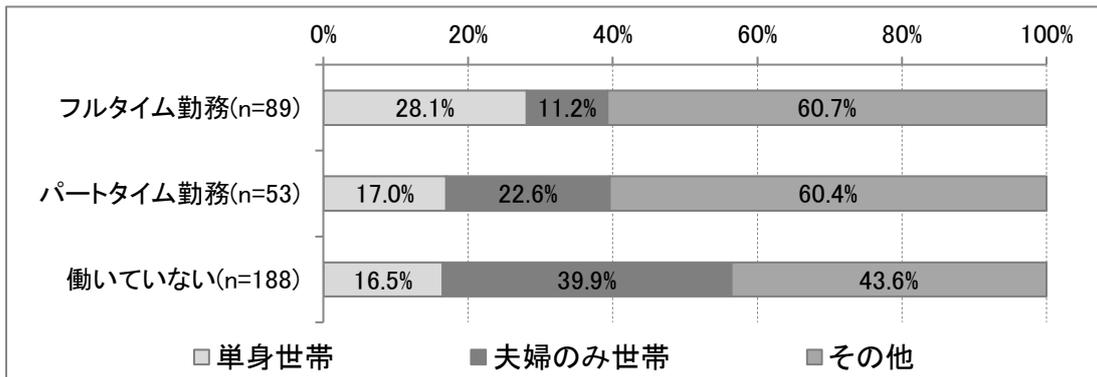


### 3 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

#### (1) 基礎集計

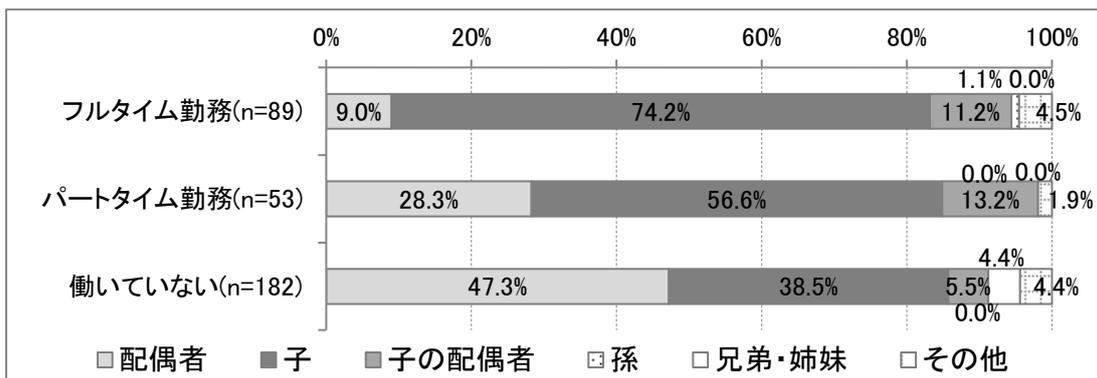
##### 【就労状況別・世帯類型】

要介護者の世帯類型を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では、「その他」が60.7%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が28.1%、「夫婦のみ世帯」が11.2%となっている。「パートタイム勤務」では、「その他」が60.4%と最も割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が22.6%、「単身世帯」が17.0%となっている。「働いていない」では、「その他」が43.6%と最も割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が39.9%、「単身世帯」が16.5%となっている。



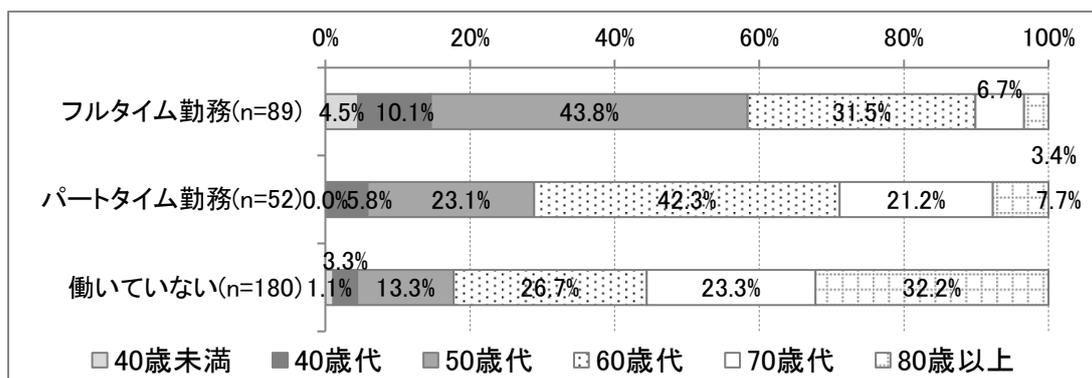
##### 【就労状況別・主な介護者の本人との関係】

要介護者との関係を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では、「子」が74.2%と最も割合が高く、次いで「子の配偶者」が11.2%、「配偶者」が9.0%となっている。「パートタイム勤務」では、「子」が56.6%と最も割合が高く、次いで「配偶者」が28.3%、「子の配偶者」が13.2%となっている。「働いていない」では、「配偶者」が47.3%と最も割合が高く、次いで「子」が38.5%、「子の配偶者」が5.5%となっている。



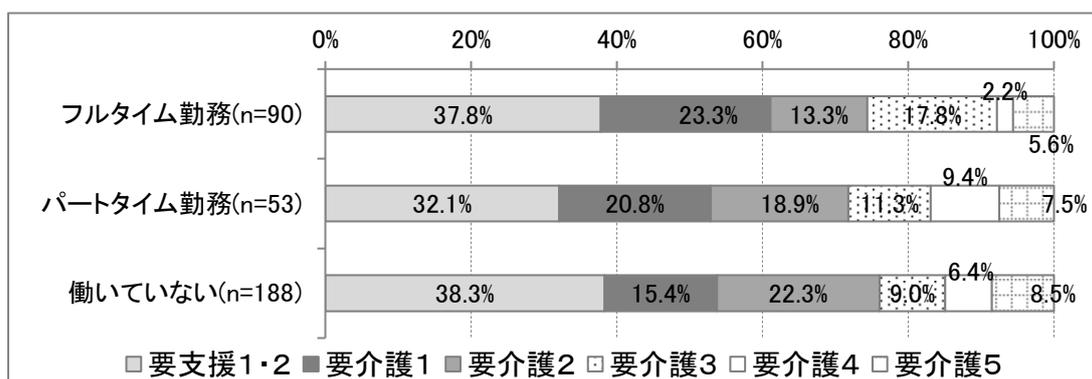
【就労状況別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では、「50歳代」が43.8%と最も割合が高く、次いで「60歳代」が31.5%、「40歳代」が10.1%となっている。「パートタイム勤務」では、「60歳代」が42.3%と最も割合が高く、次いで「50歳代」が23.1%、「70歳代」が21.2%となっている。「働いていない」では、「80歳以上」が32.2%と最も割合が高く、次いで「60歳代」が26.7%、「70歳代」が23.3%となっている。



【就労状況別・要介護度】

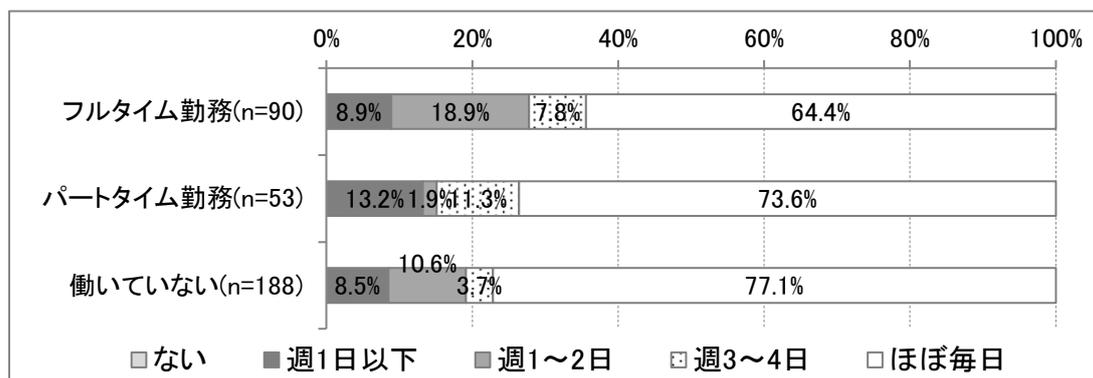
要介護度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では、「要支援1・2」が37.8%と最も割合が高く、次いで「要介護1」が23.3%、「要介護3」が17.8%となっている。「パートタイム勤務」では、「要支援1・2」が32.1%と最も割合が高く、次いで「要介護1」が20.8%、「要介護2」が18.9%となっている。「働いていない」では、「要支援1・2」が38.3%と最も割合が高く、次いで「要介護2」が22.3%、「要介護1」が15.4%となっている。



## (2) 就労状況別の主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

## 【就労状況別・家族等による介護の頻度】

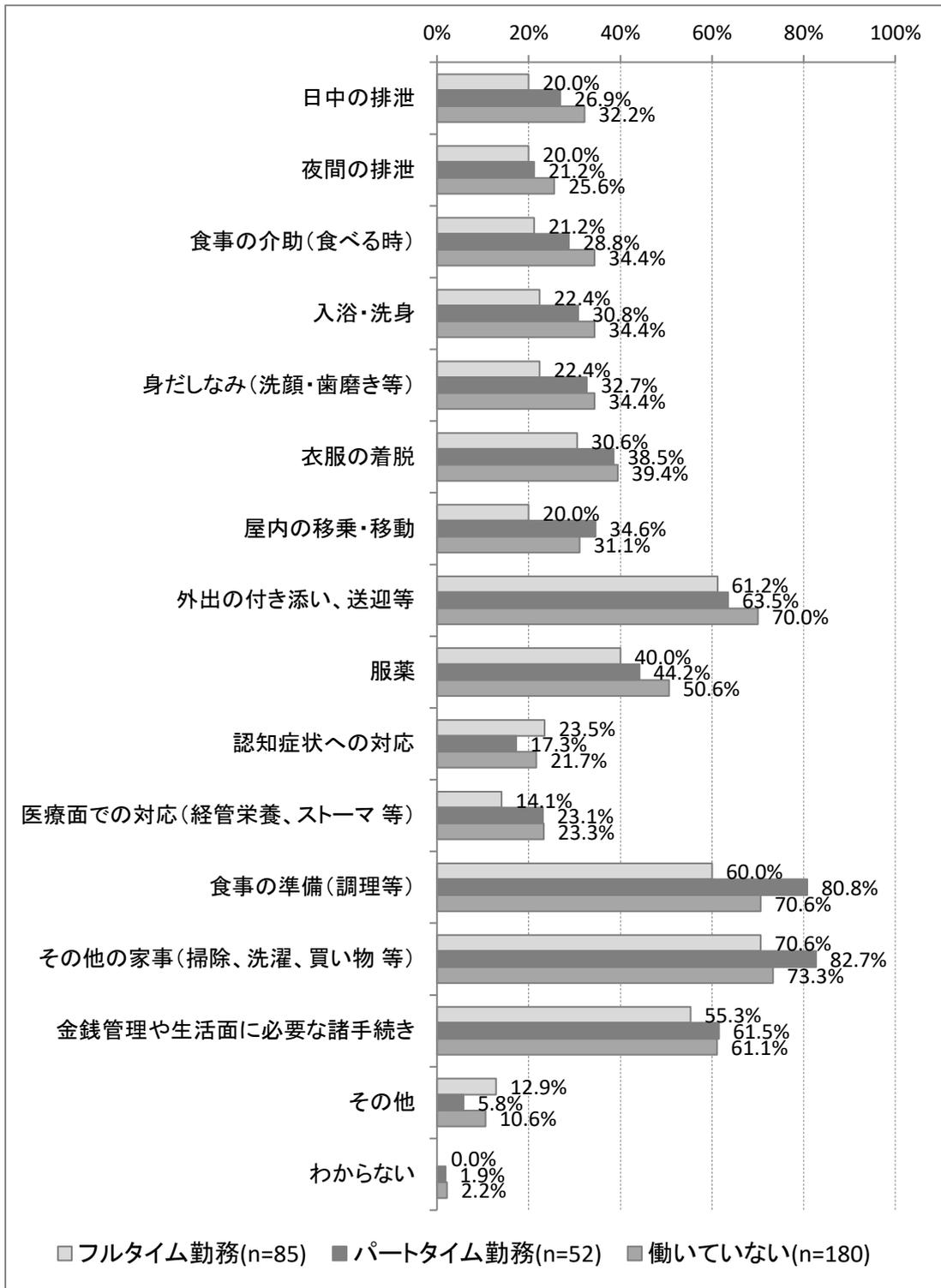
家族等の介護の頻度を勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では、「ほぼ毎日」が64.4%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が18.9%、「週1日以下」が8.9%となっている。「パートタイム勤務」では、「ほぼ毎日」が73.6%と最も割合が高く、次いで「週1日以下」が13.2%、「週3～4日」が11.3%となっている。「働いていない」では、「ほぼ毎日」が77.1%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が10.6%、「週1日以下」が8.5%となっている。



## 【就労状況別・主な介護者が行っている介護】

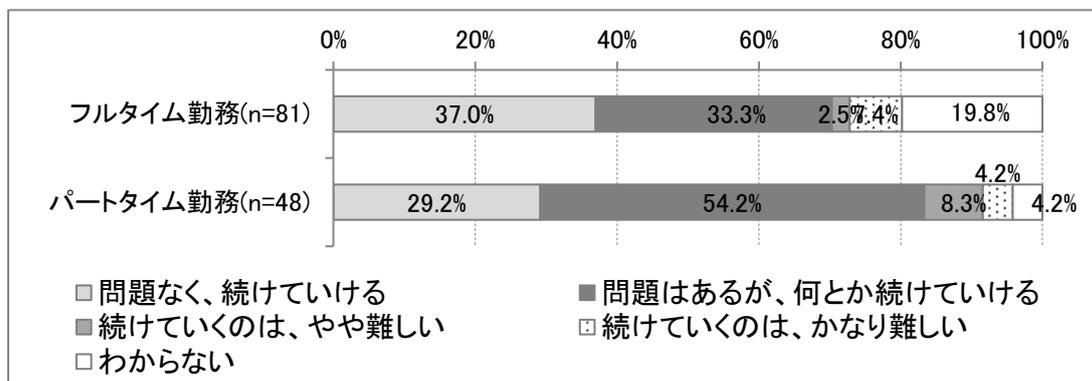
介護者が行っている介護を勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が70.6%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が61.2%、「食事の準備（調理等）」が60.0%となっている。「パートタイム勤務」では、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が82.7%と最も割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」が80.8%、「外出の付き添い、送迎等」が63.5%となっている。「働いていない」では、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が73.3%と最も割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」が70.6%、「外出の付き添い、送迎等」が70.0%となっている。

就労状況別・主な介護者が行っている介護



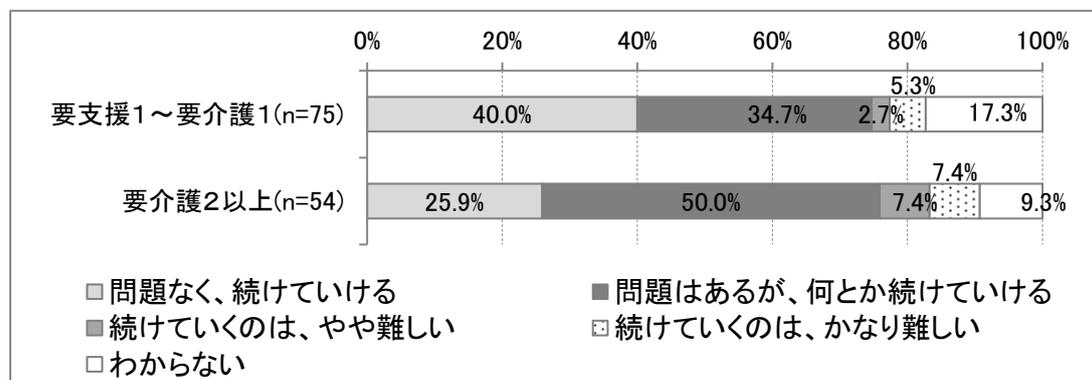
【就労状況別・就労継続見込み】

介護者の就労継続の可否に係る意識を勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では、「問題なく、続けていける」が37.0%と最も割合が高く、次いで「問題はあるが、何とか続けていける」が33.3%、「わからない」が19.8%となっている。「パートタイム勤務」では、「問題はあるが、何とか続けていける」が54.2%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が29.2%、「続けていくのは、やや難しい」が8.3%となっている。



【要介護度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

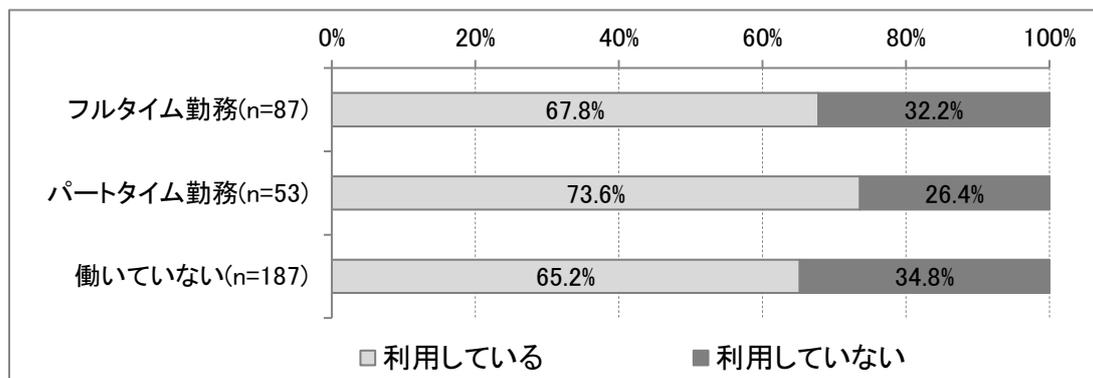
介護者の就労継続の可否に係る意識を要介護度別にみると、「要支援1～要介護1」では、「問題なく、続けていける」が40.0%と最も割合が高く、次いで「問題はあるが、何とか続けていける」が34.7%、「わからない」が17.3%となっている。「要介護2以上」では、「問題はあるが、何とか続けていける」が50.0%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が25.9%、「わからない」が9.3%となっている。



## (3) 「サービスの利用状況」と「就労継続見込み」の関係

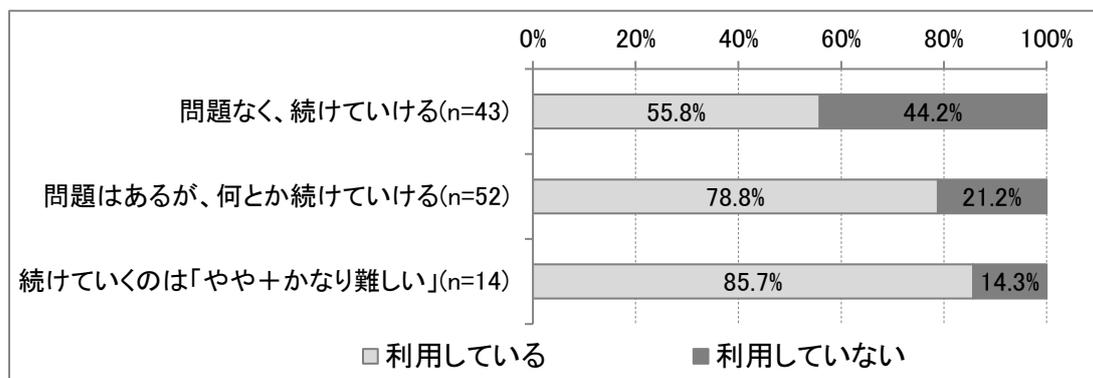
## 【就労状況別・介護保険サービス利用の有無】

サービスの利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用している」が67.8%と、「利用していない」が32.2%となっている。「パートタイム勤務」では、「利用している」が73.6%と、「利用していない」が26.4%となっている。「働いていない」では、「利用している」が65.2%、「利用していない」が34.8%となっている。



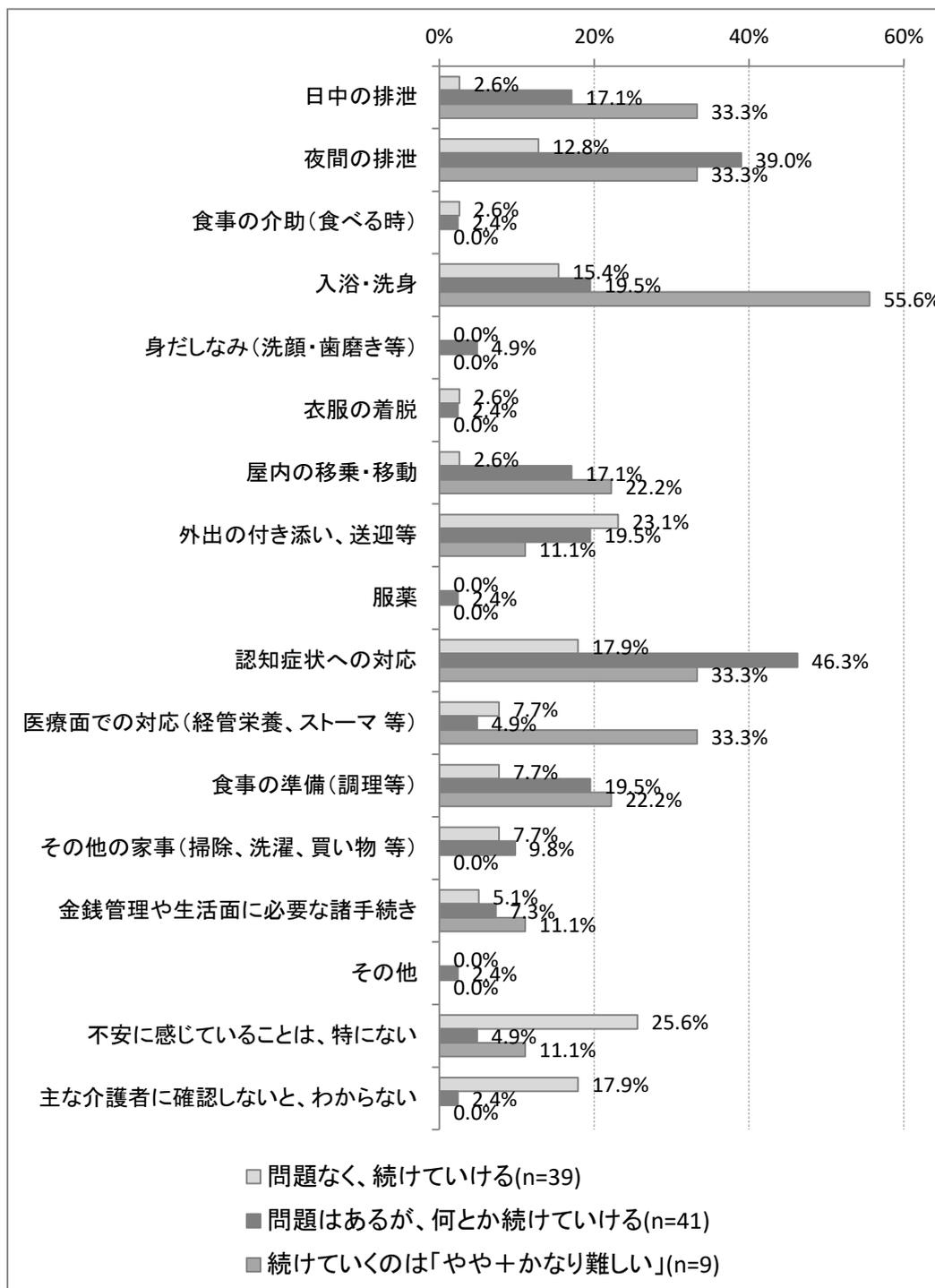
## 【就労継続見込み別・介護保険サービス利用の有無(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

サービスの利用の有無を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では、「利用している」が55.8%、「利用していない」が44.2%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では、「利用している」が78.8%、「利用していない」が21.2%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では、「利用している」が85.7%、「利用していない」が14.3%となっている。



【就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

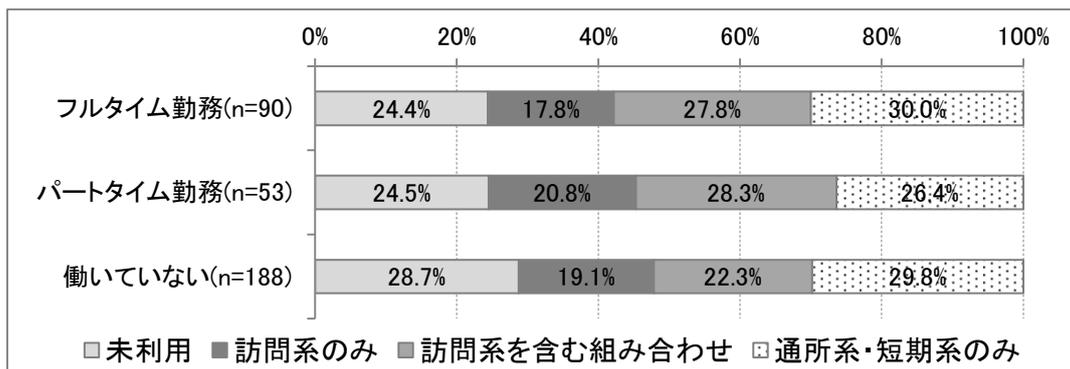
介護者が不安に感じる介護を就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では、「不安に感じていることは、特にない」が 25.6%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が 23.1%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では、「認知症状への対応」が 46.3%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が 39.0%、「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」、「食事の準備(調理等)」がともに 19.5%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では、「入浴・洗身」が 55.6%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「認知症状への対応」、「医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)」がともに 33.3%となっている。



(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

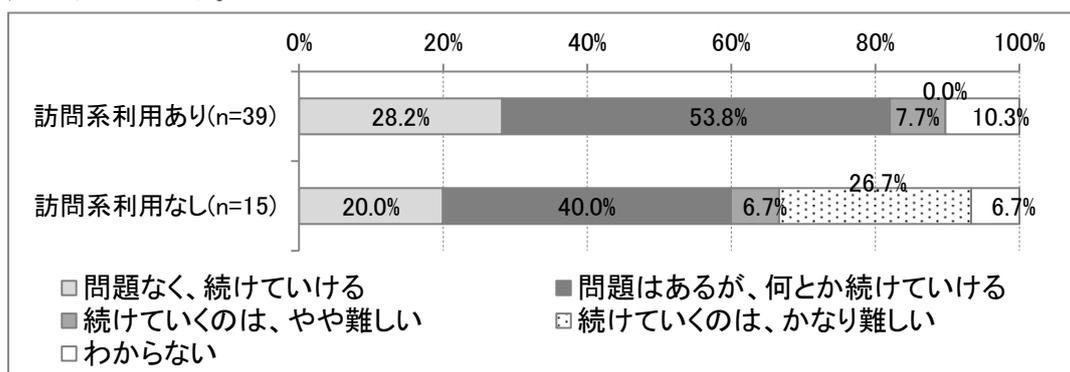
【就労状況別・介護保険サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では、「通所系・短期系のみ」が30.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が27.8%、「未利用」が24.4%となっている。「パートタイム勤務」では、「訪問系を含む組み合わせ」が28.3%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が26.4%、「未利用」が24.5%となっている。「働いていない」では、「通所系・短期系のみ」が29.8%と最も割合が高く、次いで「未利用」が28.7%、「訪問系を含む組み合わせ」が22.3%となっている。



【介護保険サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

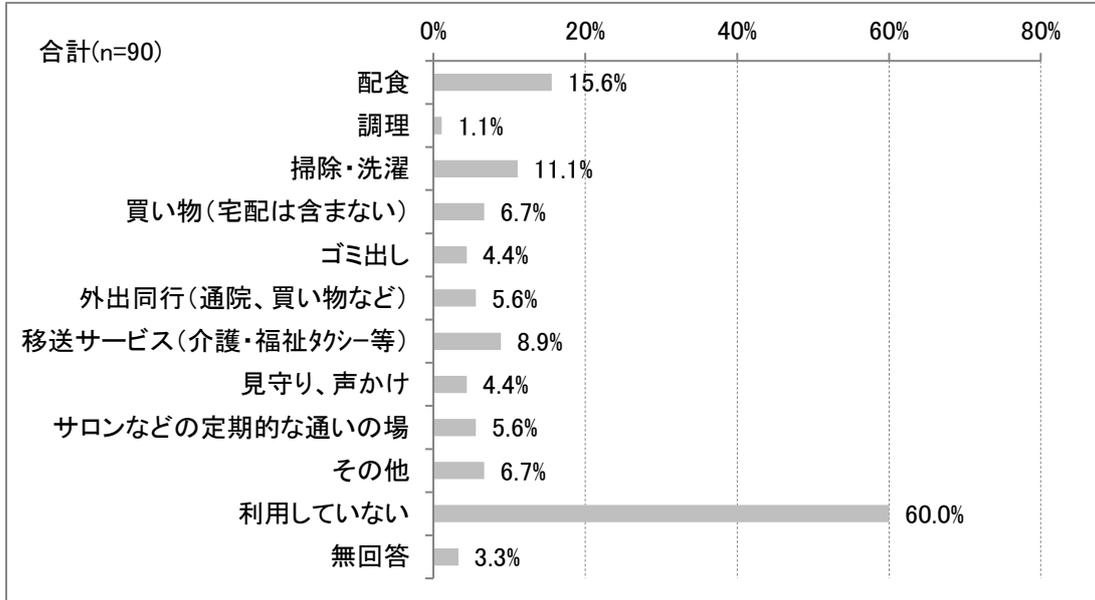
介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では、「問題はあるが、何とか続けていける」が53.8%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が28.2%、「わからない」が10.3%となっている。「訪問系利用なし」では、「問題はあるが、何とか続けていける」が40.0%と最も割合が高く、次いで「続けていくのは、かなり難しい」が26.7%、「問題なく、続けていける」が20.0%となっている。



(5) 就労状況別の保険外の支援・サービスの利用状況と施設等入所の検討状況

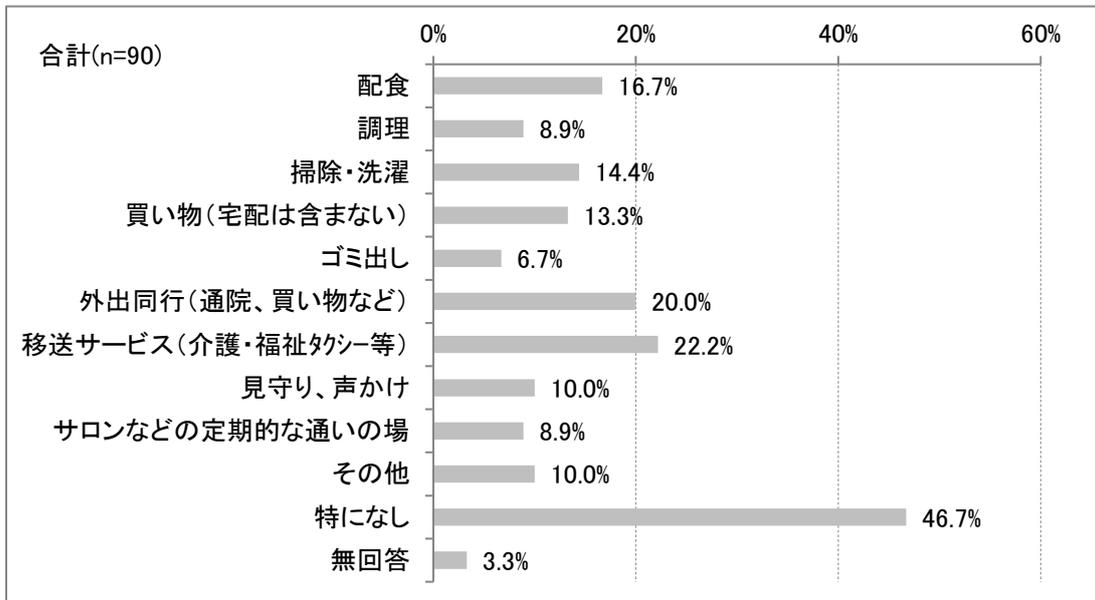
【利用している介護保険外の支援・サービス(フルタイム勤務)】

「利用していない」の割合が60.0%と最も高く、次いで「配食」が15.6%、「掃除・洗濯」が11.1%となっている。



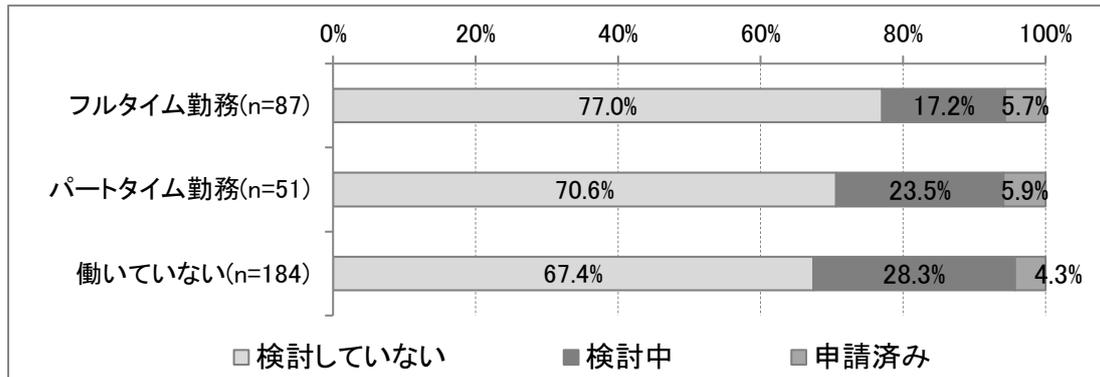
【在宅生活の継続に必要と感じる介護保険外の支援・サービス(フルタイム勤務)】

「特になし」の割合が46.7%と最も高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が22.2%、「外出同行(通院、買い物など)」が20.0%となっている。



【就労状況別・施設等入所の検討状況】

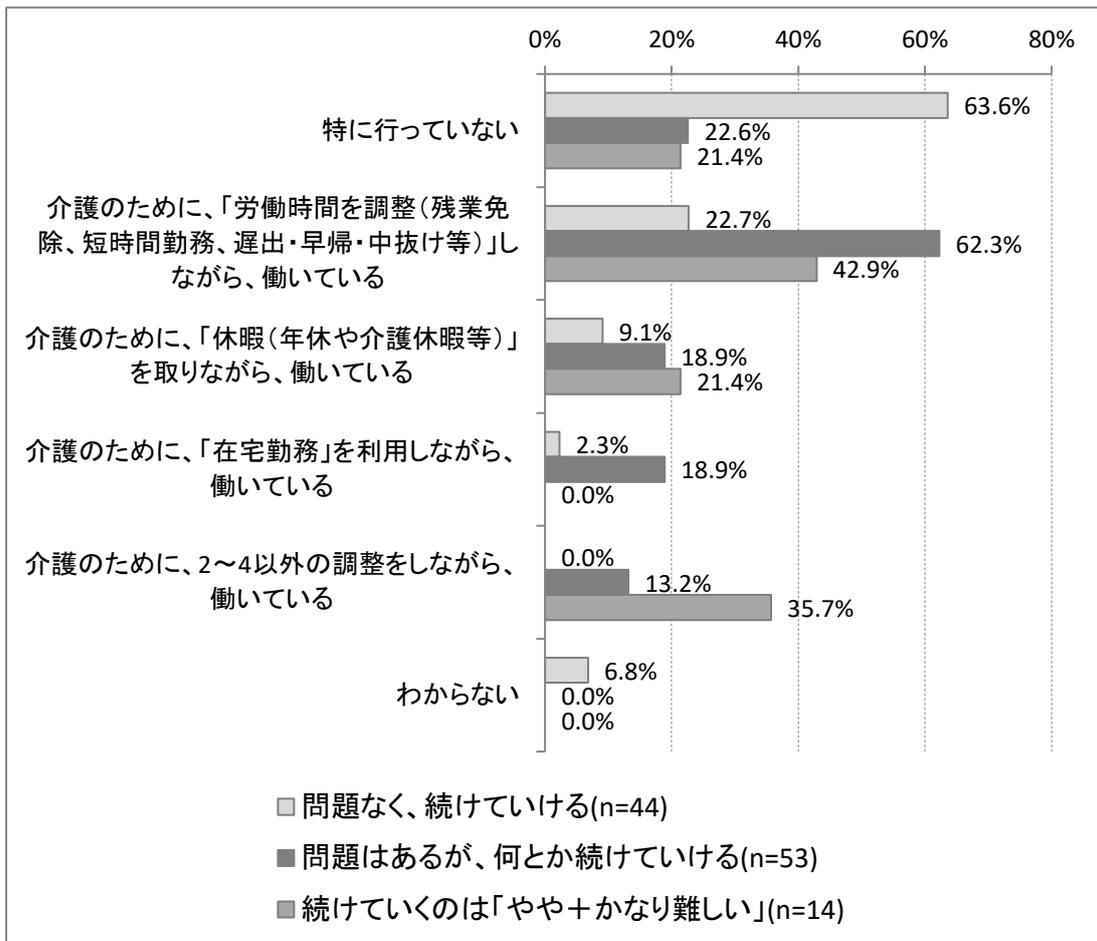
施設等入所の検討状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では、「検討していない」が 77.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が 17.2%、「申請済み」が 5.7%となっている。「パートタイム勤務」では、「検討していない」が 70.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が 23.5%、「申請済み」が 5.9%となっている。「働いていない」では、「検討していない」が 67.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が 28.3%、「申請済み」が 4.3%となっている。



(6) 就労状況別の介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援

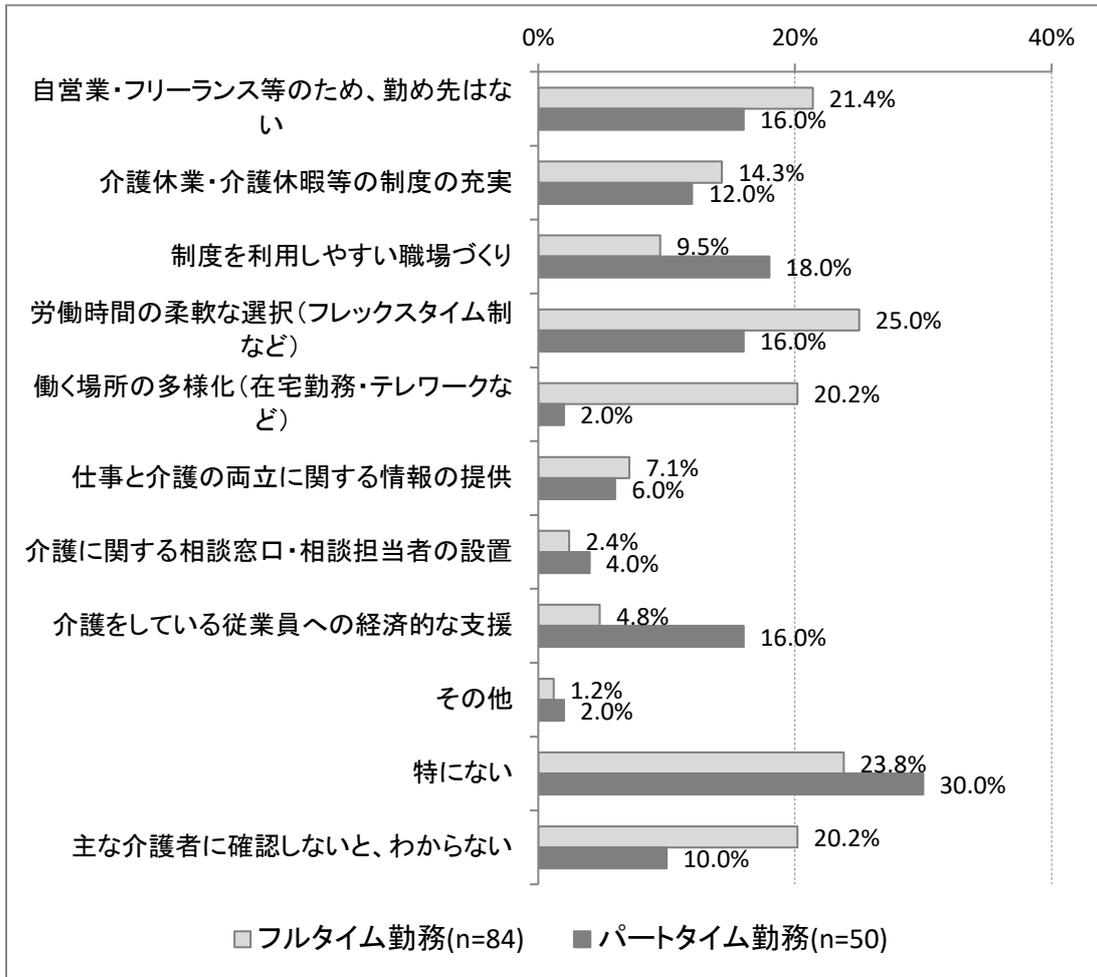
【就労継続見込み別・介護のための働き方の調整(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の働き方の調整の状況を就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では、「特に行っていない」が63.6%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が22.7%、「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」が9.1%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では、「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が62.3%と最も割合が高く、次いで「特に行っていない」が22.6%、「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」と「介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている」がともに18.9%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では、「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が42.9%と最も割合が高く、次いで「介護のために、2~4以外の調整をしながら、働いている」が35.7%、「特に行っていない」と「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」がともに21.4%となっている。



【就労状況別・効果的な勤め先からの支援】

効果的な勤め先からの支援を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が25.0%と最も割合が高く、次いで「特にない」が23.8%、「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」が21.4%となっている。「パートタイム勤務」では、「特にない」が30.0%と最も割合が高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が18.0%、「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」、「介護をしている従業員への経済的な支援」がともに16.0%となっている。

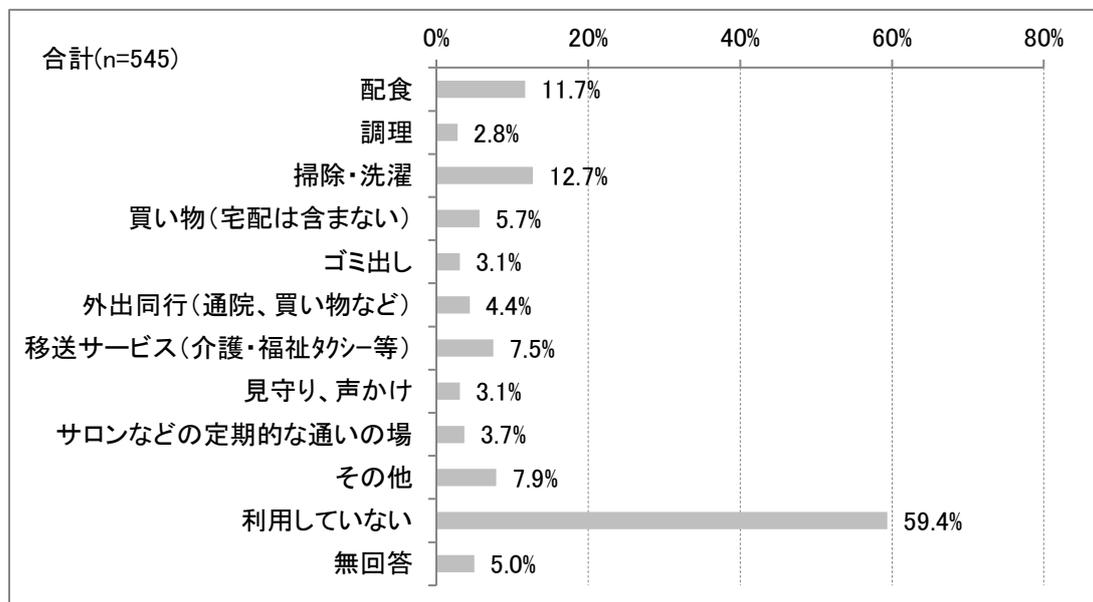


## 4 介護保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

## (1) 基礎集計

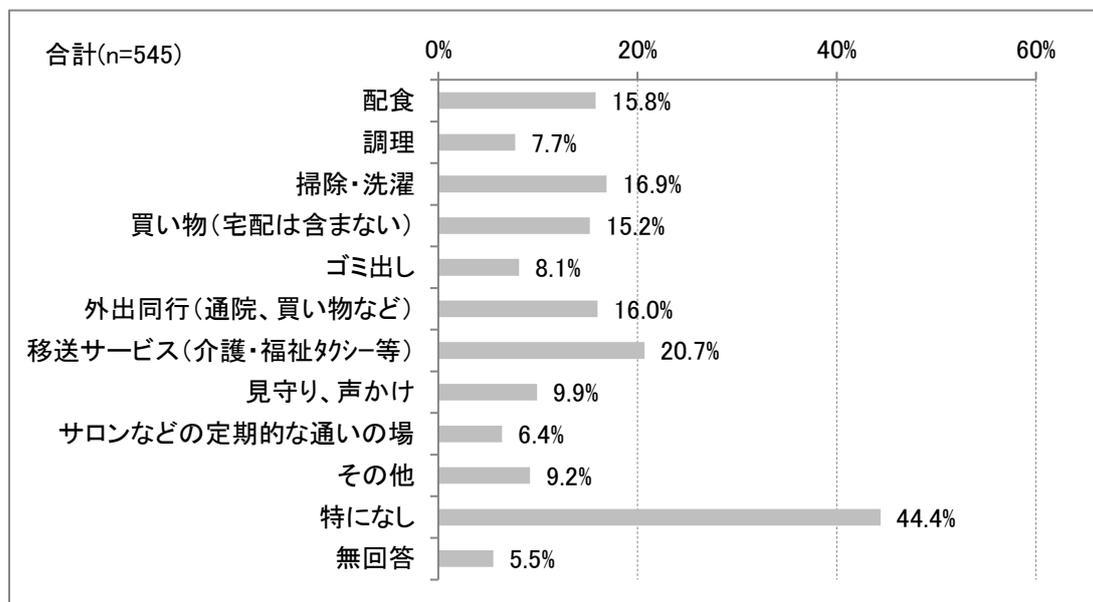
## 【介護保険外の支援・サービスの利用状況】(再掲)

「利用していない」の割合が 59.4%と最も高く、次いで「掃除・洗濯」が 12.7%、「配食」が 11.7%となっている。



## 【在宅生活の継続に必要と感じる介護保険外の支援・サービス】(再掲)

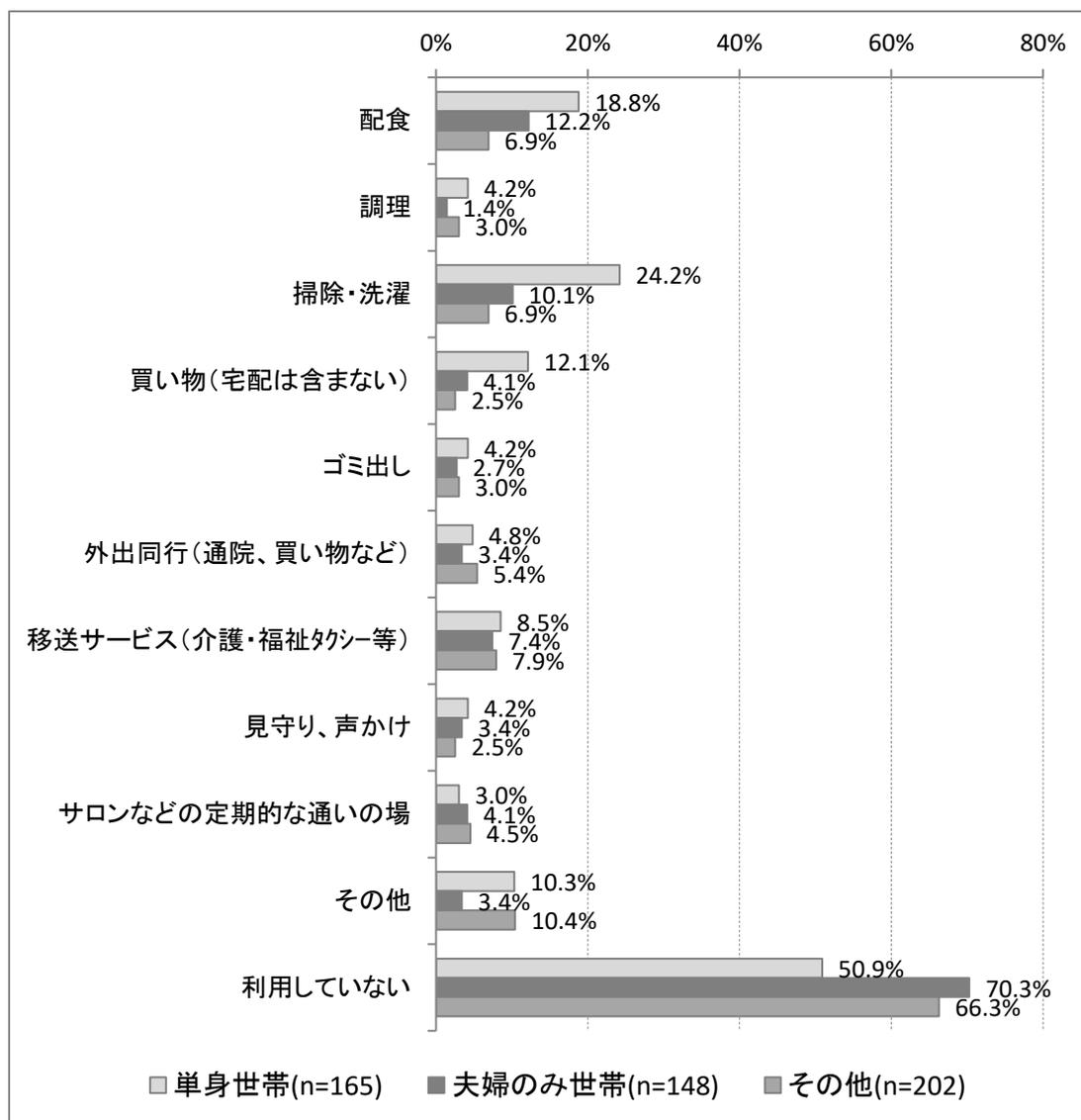
「特になし」の割合が 44.4%と最も高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が 20.7%、「掃除・洗濯」が 16.9%となっている。



## (2) 世帯類型別の介護保険外の支援・サービスの利用状況

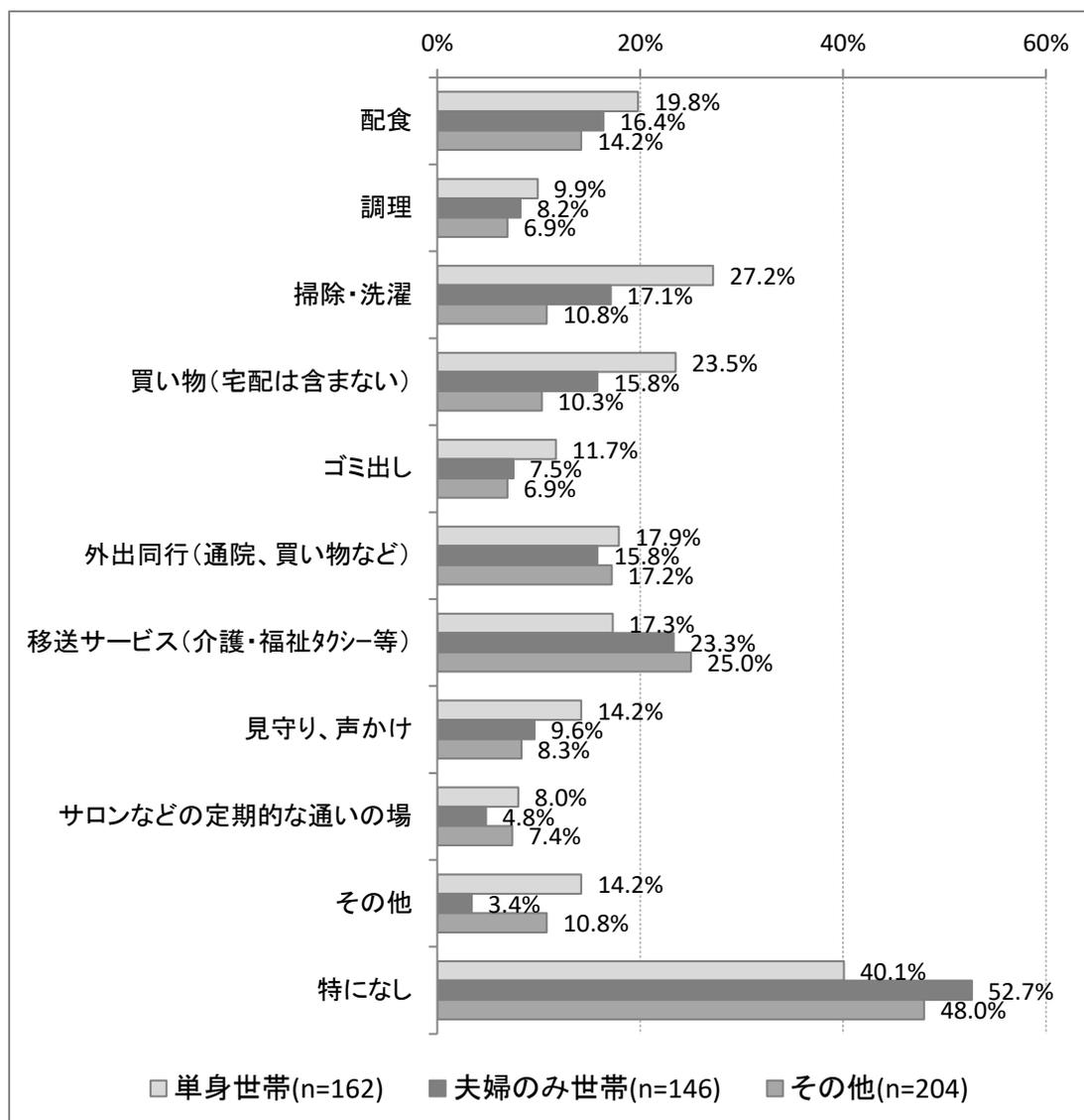
## 【世帯類型別・介護保険外の支援・サービスの利用状況】

介護保険外の支援・サービスの利用状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では、「利用していない」が50.9%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が24.2%、「配食」が18.8%となっている。「夫婦のみ世帯」では、「利用していない」が70.3%と最も割合が高く、次いで「配食」が12.2%、「掃除・洗濯」が10.1%となっている。「その他」では、「利用していない」が66.3%と最も割合が高く、次いで「その他」が10.4%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が7.9%となっている。



【世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる介護保険外の支援・サービス】

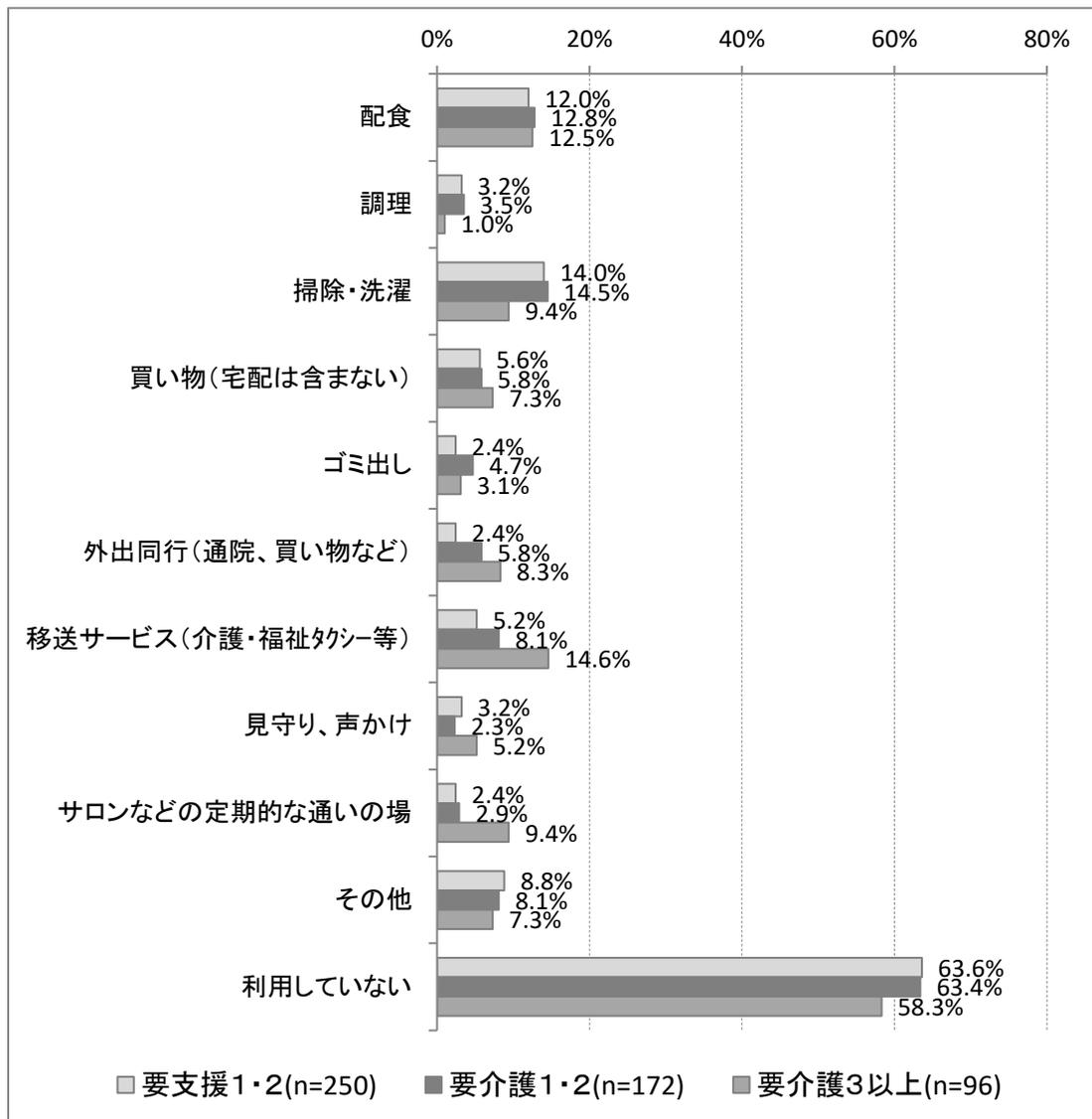
介護保険外の支援・サービスの必要性を世帯類型別にみると、「単身世帯」では、「特になし」が40.1%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が27.2%、「買い物（宅配は含まない）」が23.5%となっている。「夫婦のみ世帯」では、「特になし」が52.7%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が23.3%、「掃除・洗濯」が17.1%となっている。「その他」では、「特になし」が48.0%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が25.0%、「外出同行（通院、買い物など）」が17.2%となっている。



(3) 「世帯類型」×「要介護度」×「介護保険外の支援・サービスの利用状況」

【要介護度別・介護保険外の支援・サービスの利用状況】

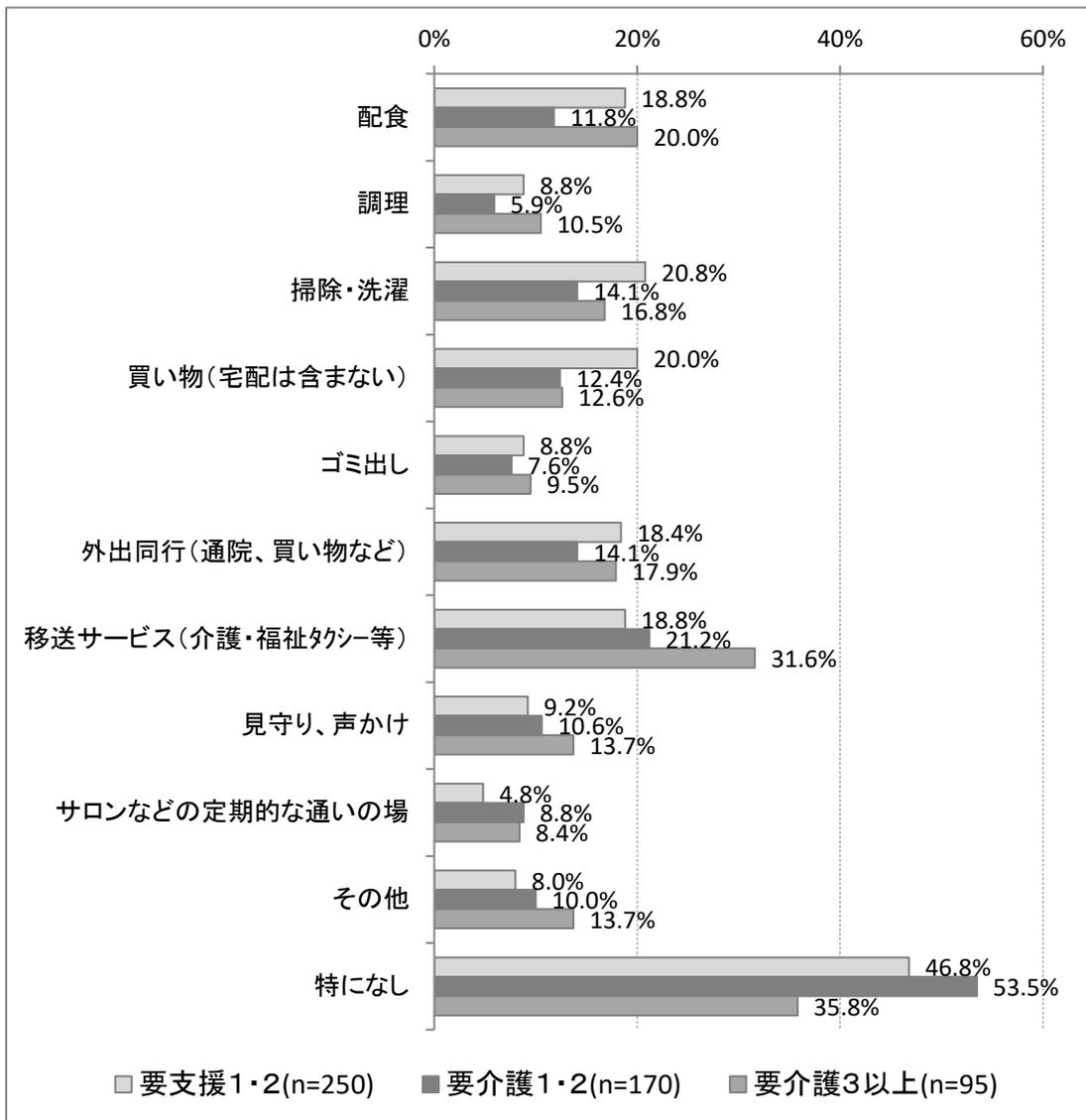
介護保険外の支援・サービスの利用状況を要介護度別にみると、「要支援1・2」では、「利用していない」が63.6%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が14.0%、「配食」が12.0%となっている。「要介護1・2」では、「利用していない」が63.4%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が14.5%、「配食」が12.8%となっている。「要介護3以上」では、「利用していない」が58.3%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が14.6%、「配食」が12.5%となっている。



(4) 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる介護保険外の支援・サービス」

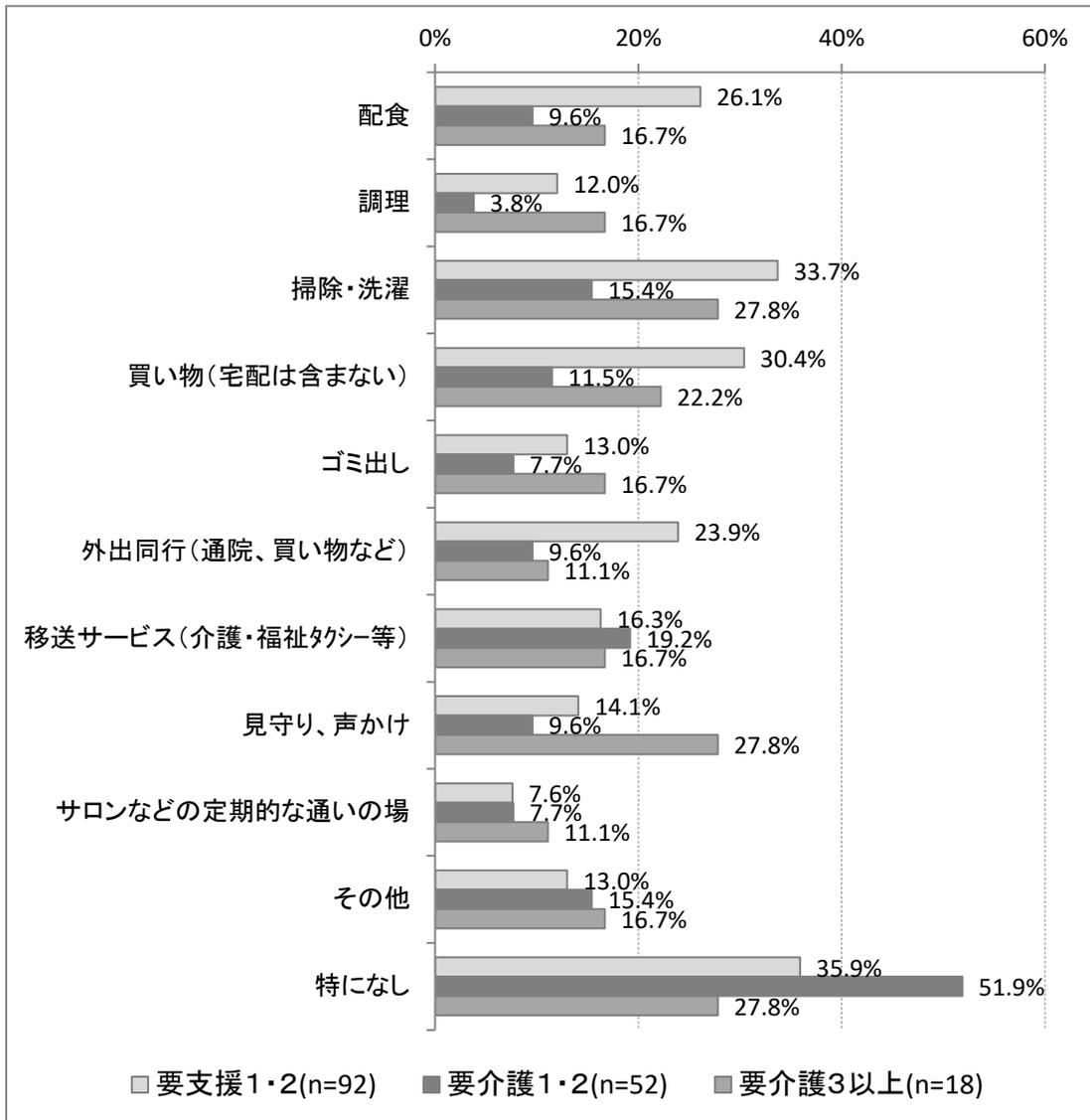
【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる介護保険外の支援・サービス】

介護保険外の支援・サービスの必要性を要介護度別にみると、「要支援1・2」では、「特になし」が46.8%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が20.8%、「買い物(宅配は含まない)」が20.0%となっている。「要介護1・2」では、「特になし」が53.5%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が21.2%、「掃除・洗濯」と「外出同行(通院、買い物など)」がともに14.1%となっている。「要介護3以上」では、「特になし」が35.8%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が31.6%、「配食」が20.0%となっている。



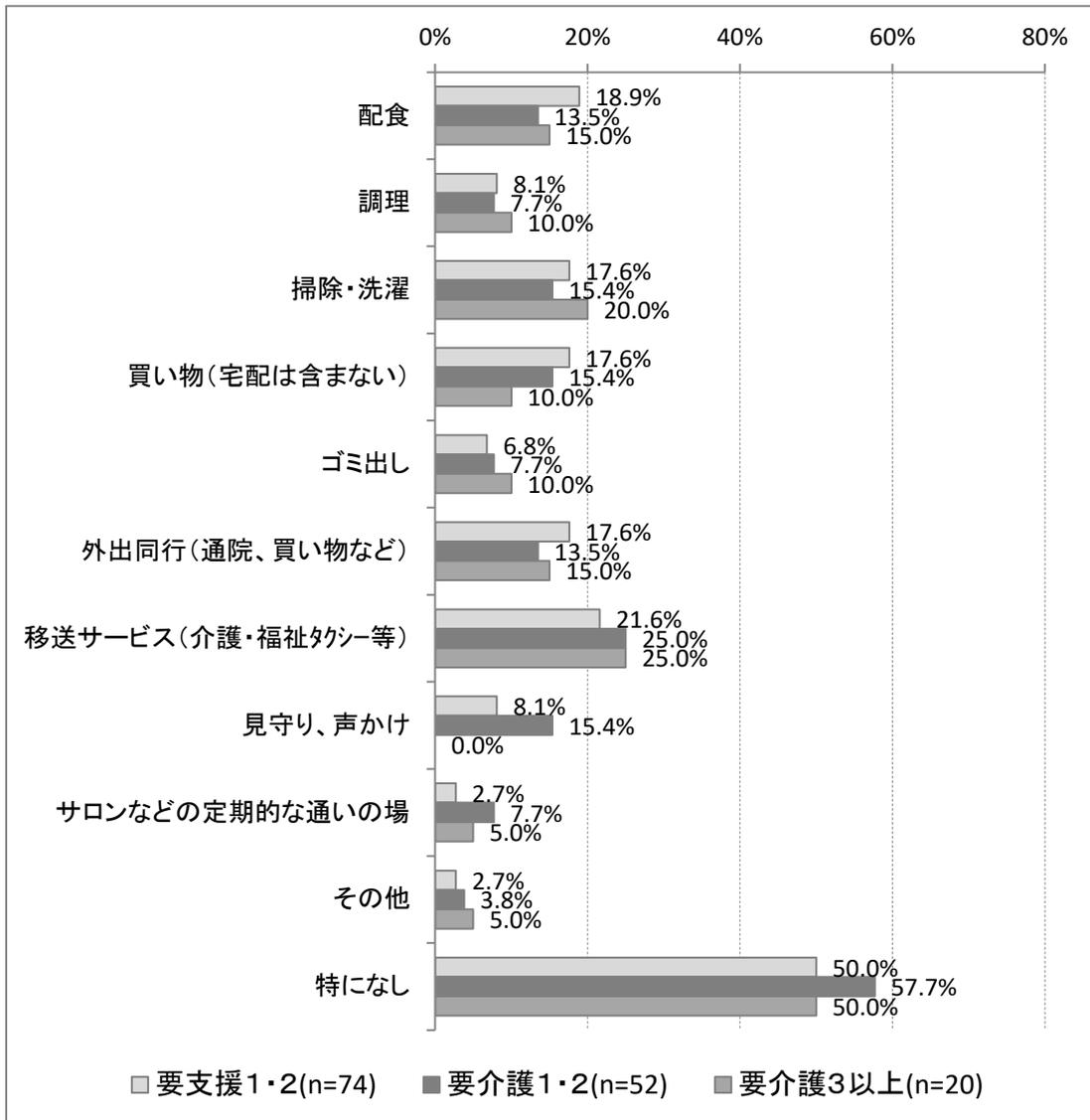
【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる介護保険外の支援・サービス(単身世帯)】

単身世帯について、介護保険外の支援・サービスの必要性を要介護度別にみると、「要支援1・2」では、「特になし」が35.9%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が33.7%、「買い物(宅配は含まない)」が30.4%となっている。「要介護1・2」では、「特になし」が51.9%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が19.2%、「掃除・洗濯」と「その他」がともに15.4%となっている。「要介護3以上」では、「掃除・洗濯」、「見守り、声かけ」、「特になし」がともに27.8%と最も割合が高く、次いで「買い物(宅配は含まない)」が22.2%、「配食」、「調理」、「ゴミ出し」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」、「その他」がともに16.7%となっている。



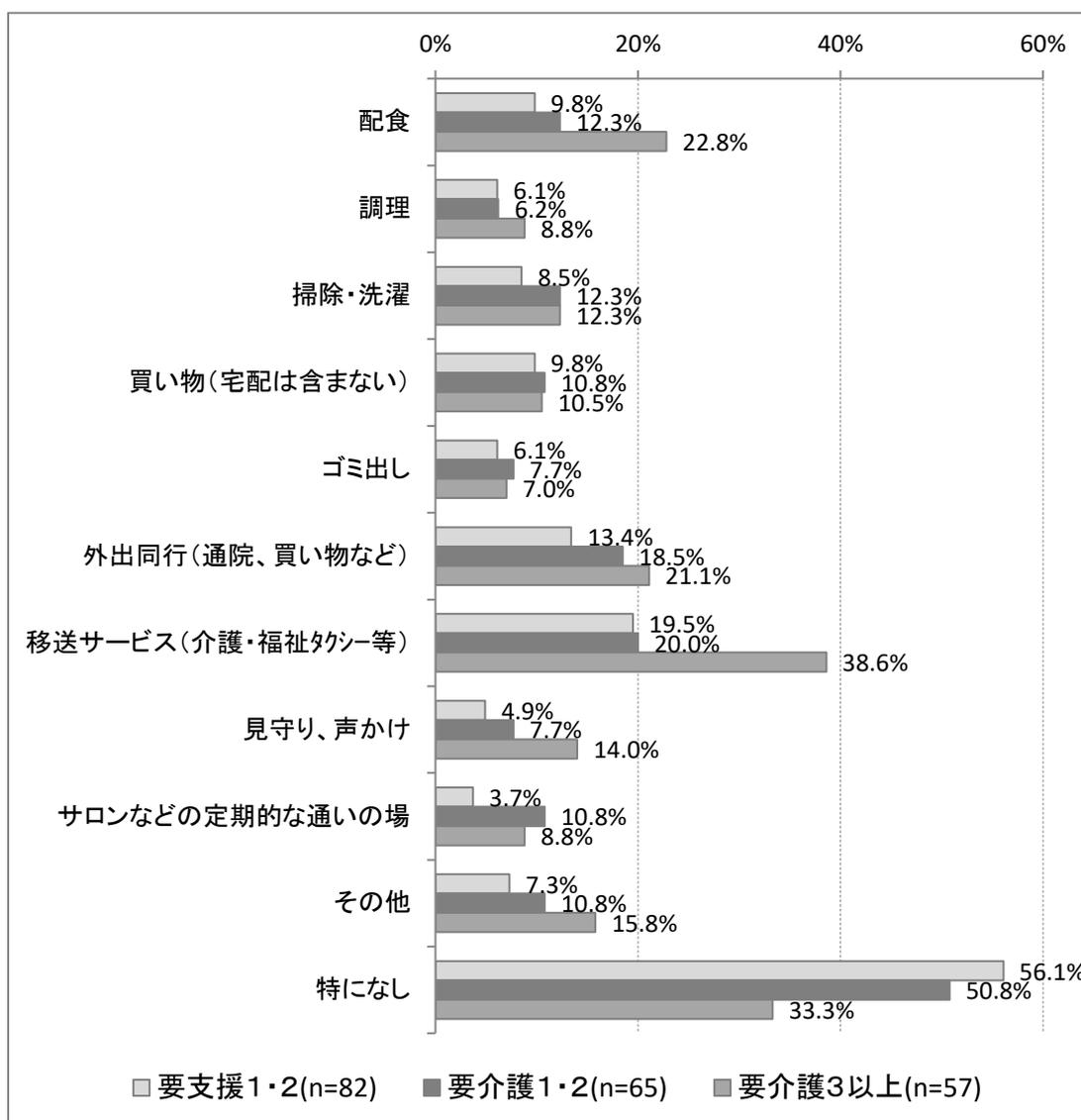
【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる介護保険外の支援・サービス(夫婦のみ世帯)】

夫婦のみ世帯について、介護保険外の支援・サービスの必要性を要介護度別にみると、「要支援1・2」では、「特になし」が50.0%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が21.6%、「配食」が18.9%となっている。「要介護1・2」では、「特になし」が57.7%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が25.0%、「掃除・洗濯」、「買い物(宅配は含まない)」、「見守り、声かけ」がともに15.4%となっている。「要介護3以上」では、「特になし」が50.0%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が25.0%、「掃除・洗濯」が20.0%となっている。



【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる介護保険外の支援・サービス(その他世帯)】

その他世帯について、介護保険外の支援・サービスの必要性を要介護度別にみると、「要支援1・2」では、「特になし」が56.1%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が19.5%、「外出同行(通院、買い物など)」が13.4%となっている。「要介護1・2」では、「特になし」が50.8%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が20.0%、「外出同行(通院、買い物など)」が18.5%となっている。「要介護3以上」では、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が38.6%と最も割合が高く、次いで「特になし」が33.3%、「配食」が22.8%となっている。

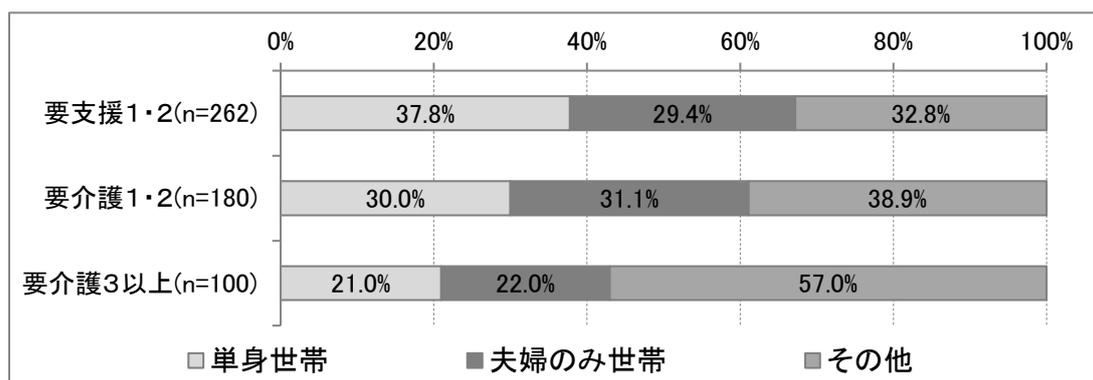


## 5 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

## (1) 基礎集計

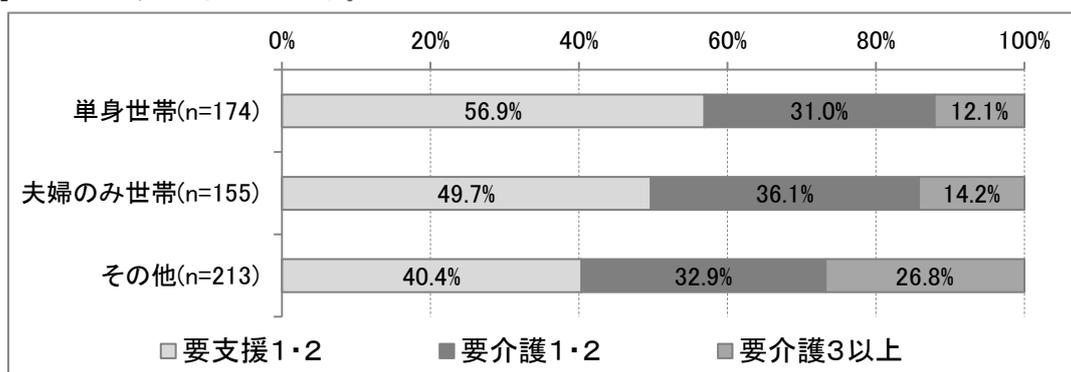
## 【要介護度別・世帯類型】

世帯類型を要介護度別にみると、「要支援1・2」では、「単身世帯」が37.8%と最も割合が高く、次いで「その他」が32.8%、「夫婦のみ世帯」が29.4%となっている。「要介護1・2」では、「その他」が38.9%と最も割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が31.1%、「単身世帯」が30.0%となっている。「要介護3以上」では、「その他」が57.0%と最も割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が22.0%、「単身世帯」が21.0%となっている。



## 【世帯類型別・要介護度】

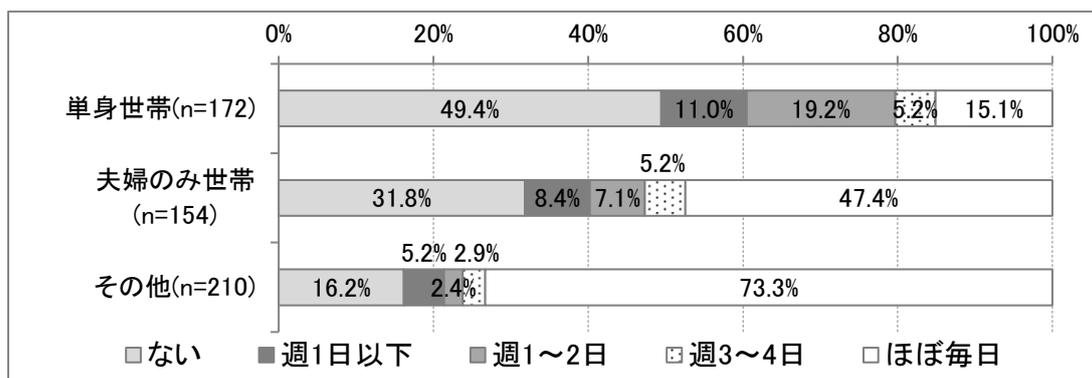
要介護度を世帯類型別にみると、「単身世帯」では、「要支援1・2」が56.9%と最も割合が高く、次いで「要介護1・2」が31.0%、「要介護3以上」が12.1%となっている。「夫婦のみ世帯」では、「要支援1・2」が49.7%と最も割合が高く、次いで「要介護1・2」が36.1%、「要介護3以上」が14.2%となっている。「その他」では、「要支援1・2」が40.4%と最も割合が高く、次いで「要介護1・2」が32.9%、「要介護3以上」が26.8%となっている。



(2) 「世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

【世帯類型別・家族等による介護の頻度】

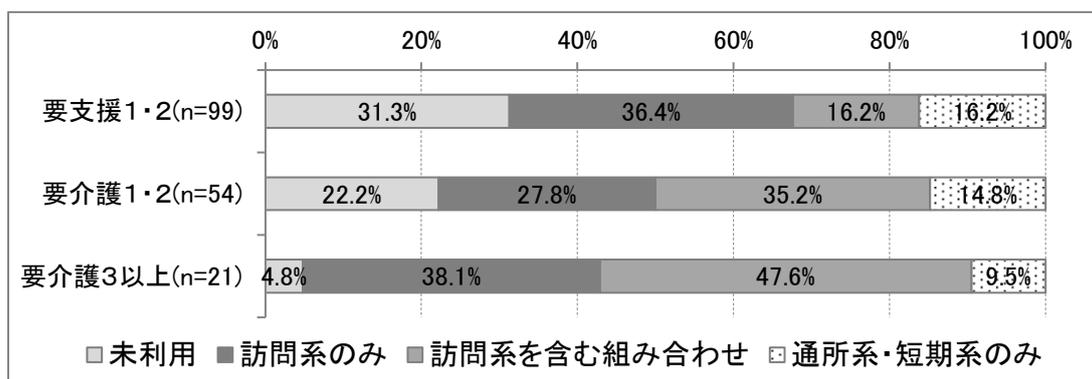
家族等による介護の頻度を世帯類型別にみると、「単身世帯」では、「ない」が49.4%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が19.2%、「ほぼ毎日」が15.1%となっている。「夫婦のみ世帯」では、「ほぼ毎日」が47.4%と最も割合が高く、次いで「ない」が31.8%、「週1日以下」が8.4%となっている。「その他」では、「ほぼ毎日」が73.3%と最も割合が高く、次いで「ない」が16.2%、「週1日以下」が5.2%となっている。



(3) 「要介護度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

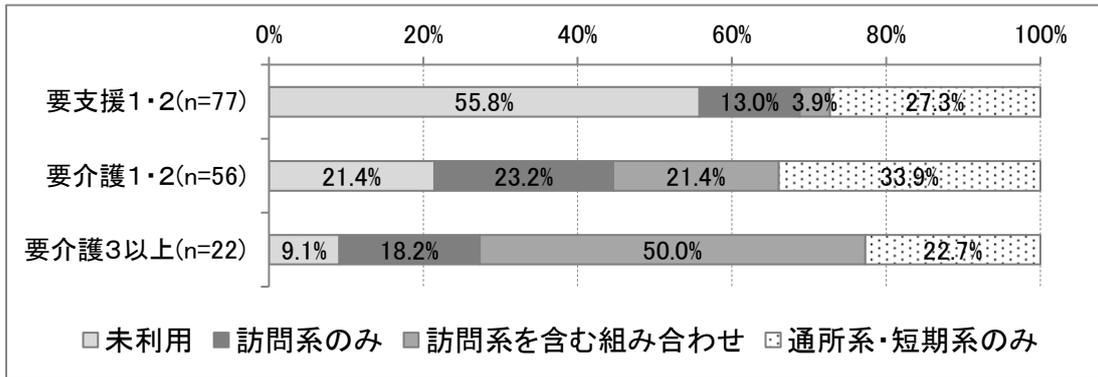
【要介護度別・介護保険サービス利用の組み合わせ(単身世帯)】

単身世帯について、サービス利用の組み合わせを要介護度別にみると、「要支援1・2」では、「訪問系のみ」が36.4%と最も割合が高く、次いで「未利用」が31.3%、「訪問系を含む組み合わせ」と「通所系・短期系のみ」がともに16.2%となっている。「要介護1・2」では、「訪問系を含む組み合わせ」が35.2%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が27.8%、「未利用」が22.2%となっている。「要介護3以上」では、「訪問系を含む組み合わせ」が47.6%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が38.1%、「通所系・短期系のみ」が9.5%となっている。



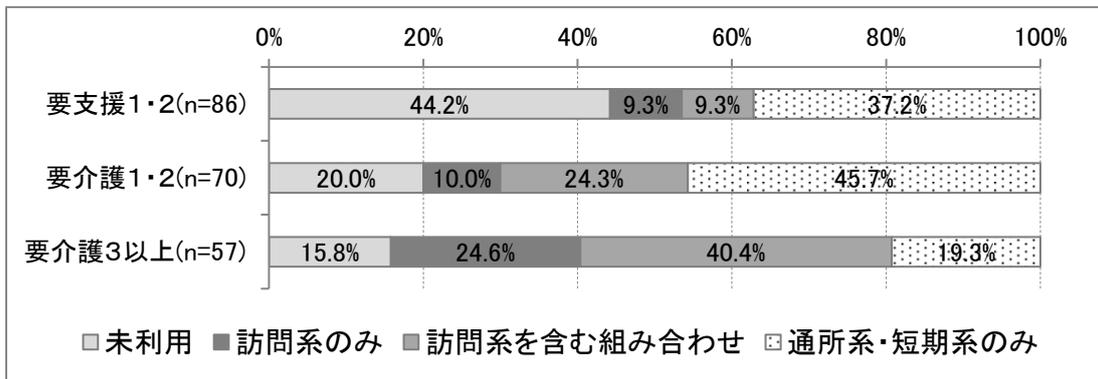
【要介護度別・介護保険サービス利用の組み合わせ(夫婦のみ世帯)】

夫婦のみ世帯について、サービス利用の組み合わせを要介護度別にみると、「要支援1・2」では、「未利用」が55.8%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が27.3%、「訪問系のみ」が13.0%となっている。「要介護1・2」では、「通所系・短期系のみ」が33.9%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が23.2%、「未利用」と「訪問系を含む組み合わせ」がともに21.4%となっている。「要介護3以上」では、「訪問系を含む組み合わせ」が50.0%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が22.7%、「訪問系のみ」が18.2%となっている。



【要介護度別・介護保険サービス利用の組み合わせ(その他世帯)】

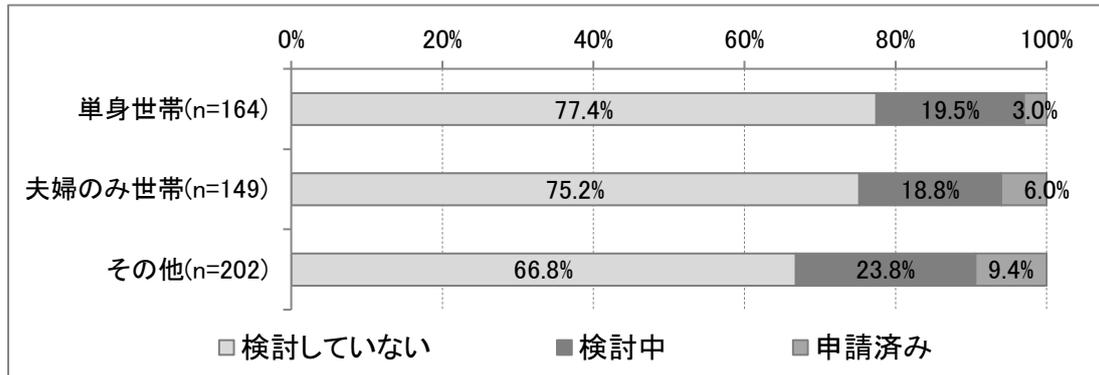
その他世帯について、サービス利用の組み合わせを要介護度別にみると、「要支援1・2」では、「未利用」が44.2%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が37.2%、「訪問系のみ」と「訪問系を含む組み合わせ」がともに9.3%となっている。「要介護1・2」では、「通所系・短期系のみ」が45.7%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が24.3%、「未利用」が20.0%となっている。「要介護3以上」では、「訪問系を含む組み合わせ」が40.4%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が24.6%、「通所系・短期系のみ」が19.3%となっている。



## (4) 「要介護度別」の「世帯類型別の施設等入所の検討状況」

## 【世帯類型別・施設等入所の検討状況(全要介護度)】

施設等入所の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では、「検討していない」が77.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が19.5%、「申請済み」が3.0%となっている。「夫婦のみ世帯」では、「検討していない」が75.2%と最も割合が高く、次いで「検討中」が18.8%、「申請済み」が6.0%となっている。「その他」では、「検討していない」が66.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が23.8%、「申請済み」が9.4%となっている。

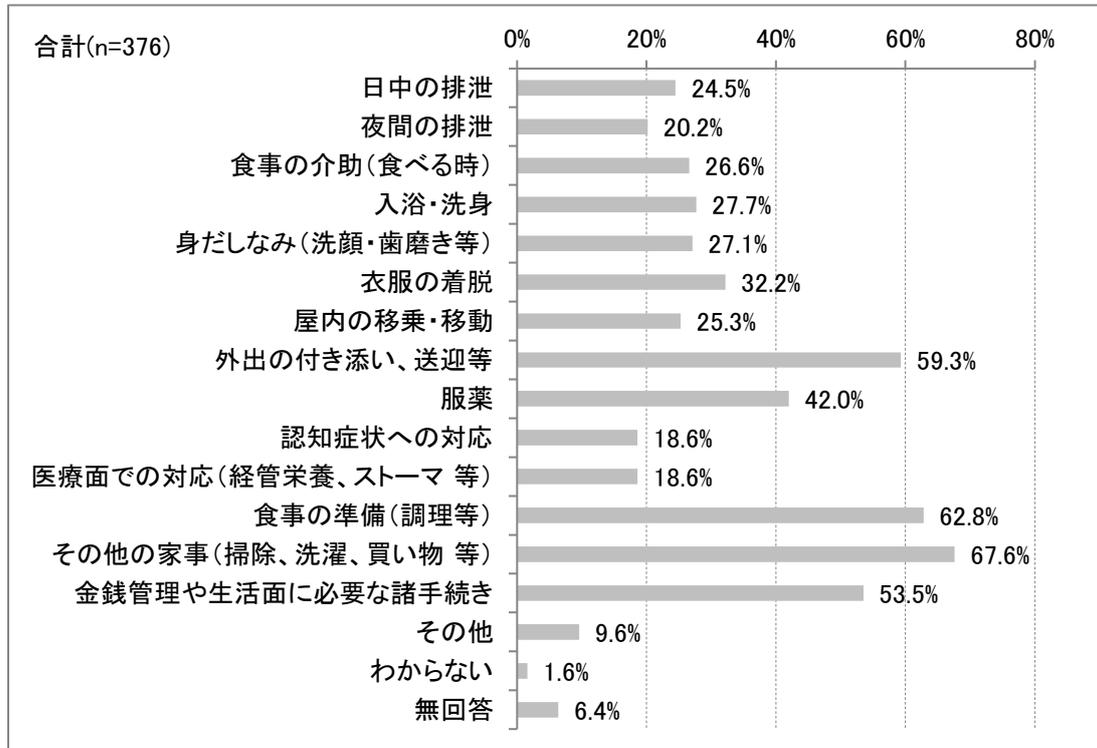


## 6 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

## (1) 基礎集計

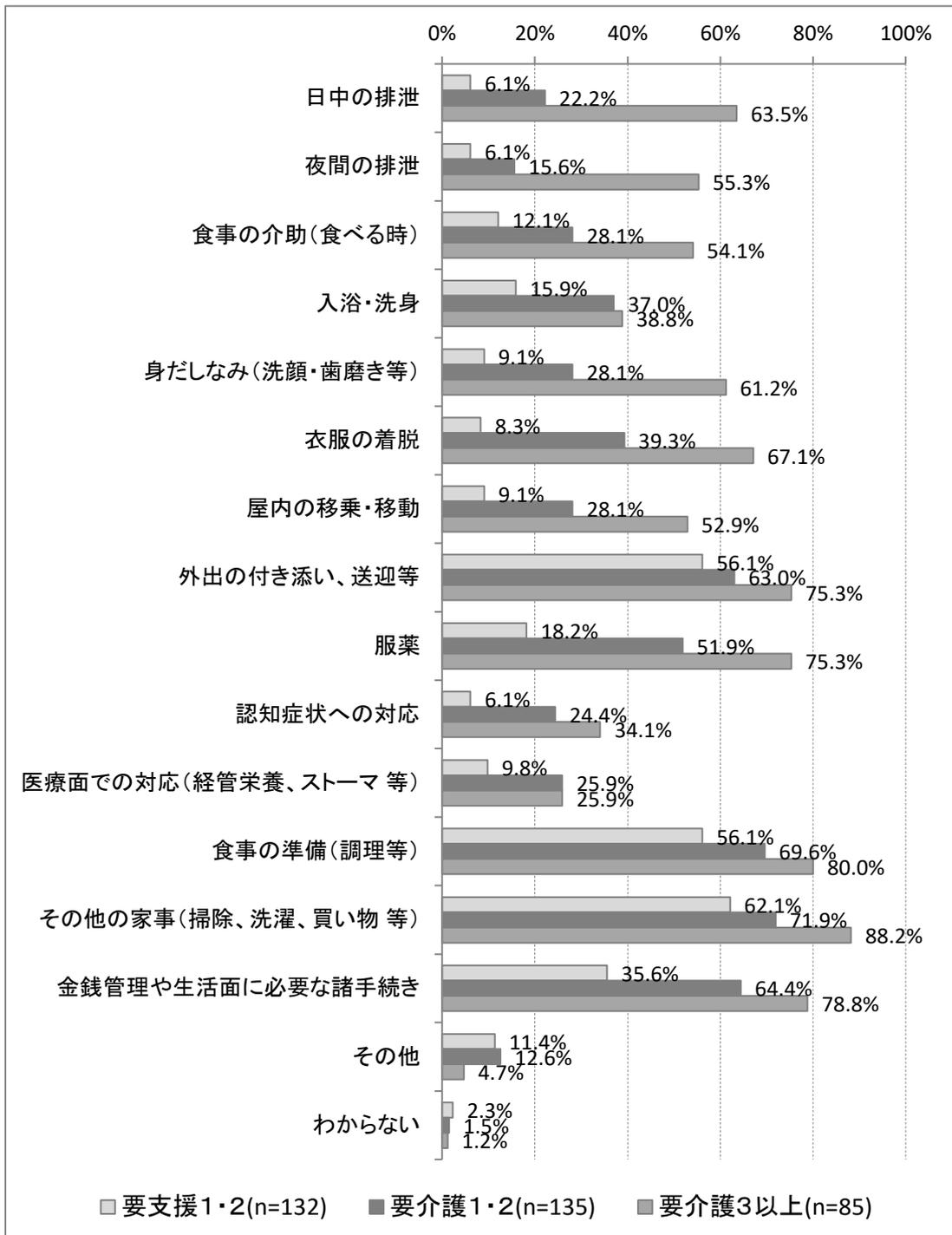
## 【主な介護者が行っている介護】(再掲)

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」の割合が67.6%と最も高く、次いで「食事の準備（調理等）」が62.8%、「外出の付き添い、送迎等」が59.3%となっている。



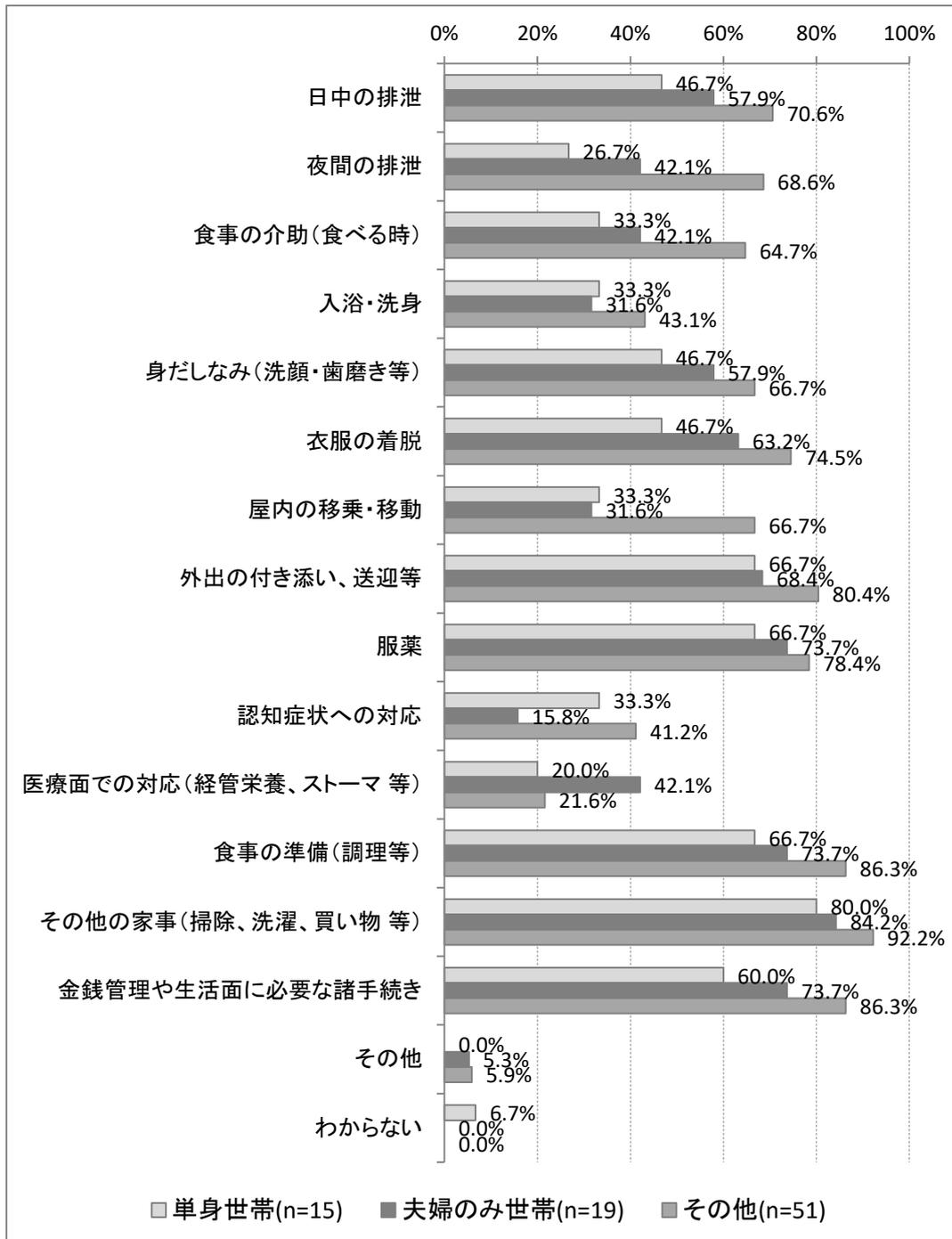
【要介護度別・主な介護者が行っている介護】

介護者が行っている介護を要介護度別にみると、「要支援1・2」では、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が62.1%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」と「食事の準備（調理等）」がともに56.1%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が35.6%となっている。「要介護1・2」では、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が71.9%と最も割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」が69.6%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が64.4%となっている。「要介護3以上」では、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が88.2%と最も割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」が80.0%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が78.8%となっている。



【世帯類型別・主な介護者が行っている介護(要介護3以上)】

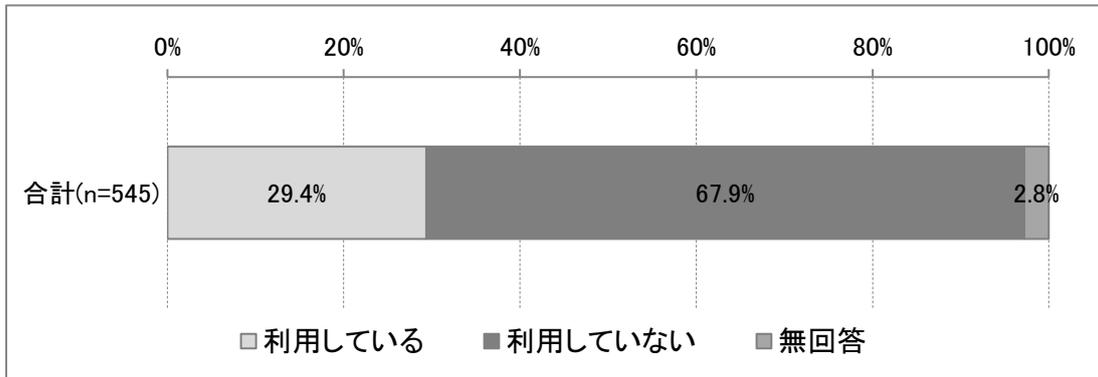
介護者が行っている介護を世帯類型別にみると、「単身世帯」では、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 80.0%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」、「服薬」、「食事の準備（調理等）」がともに 66.7%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 60.0%となっている。「夫婦のみ世帯」では、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 84.2%と最も割合が高く、次いで「服薬」、「食事の準備（調理等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」がともに 73.7%となっている。「その他」では、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 92.2%と最も割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」と「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」がともに 86.3%、「外出の付き添い、送迎等」が 80.4%となっている。



(2) 訪問診療の利用割合

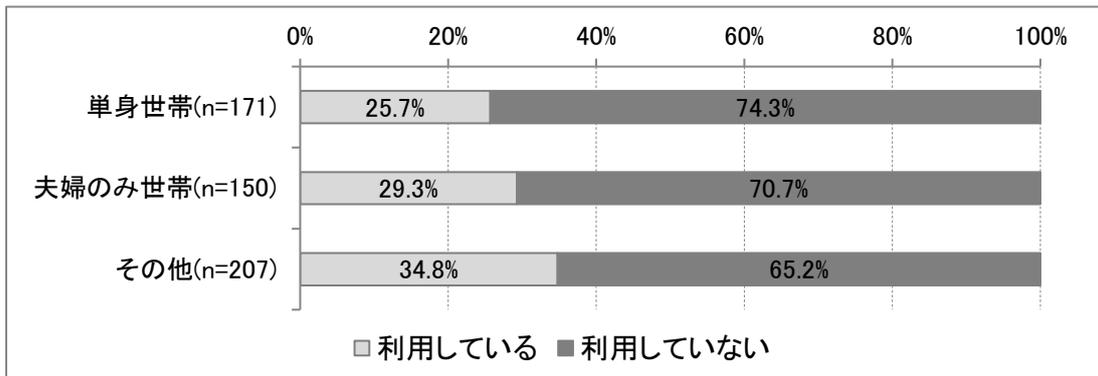
【訪問診療の利用の有無】(再掲)

「利用していない」が67.9%、「利用している」が29.4%となっている。



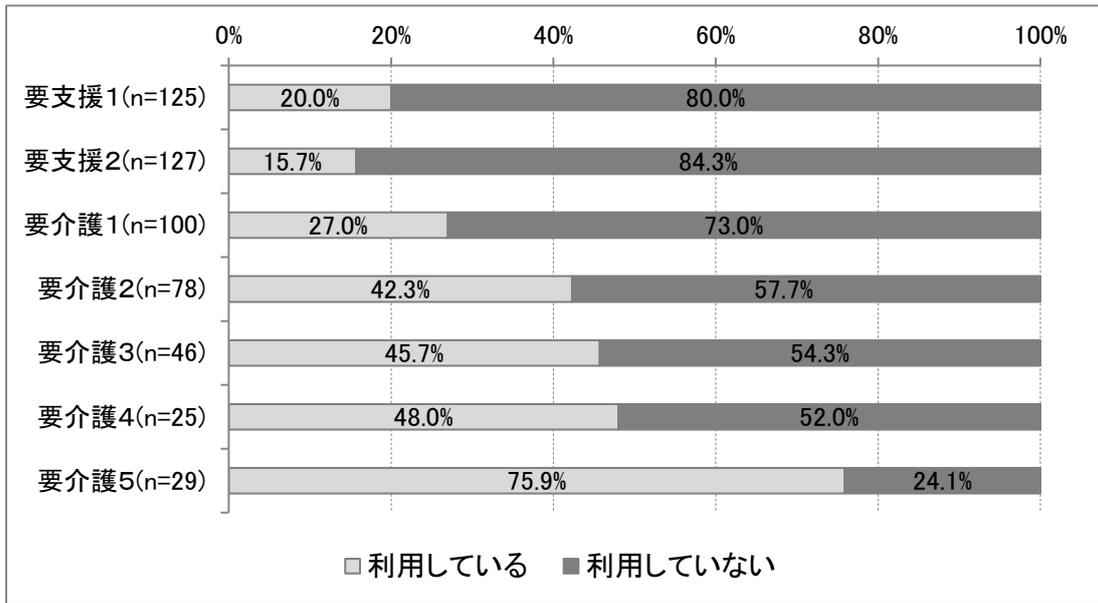
【世帯類型別・訪問診療の利用割合】

訪問診療の利用の有無を世帯類型別にみると、「単身世帯」では、「利用していない」が74.3%、「利用している」が25.7%となっている。「夫婦のみ世帯」では、「利用していない」が70.7%、「利用している」が29.3%となっている。「その他」では、「利用していない」が65.2%、「利用している」が34.8%となっている。



【要介護度別・訪問診療の利用割合】

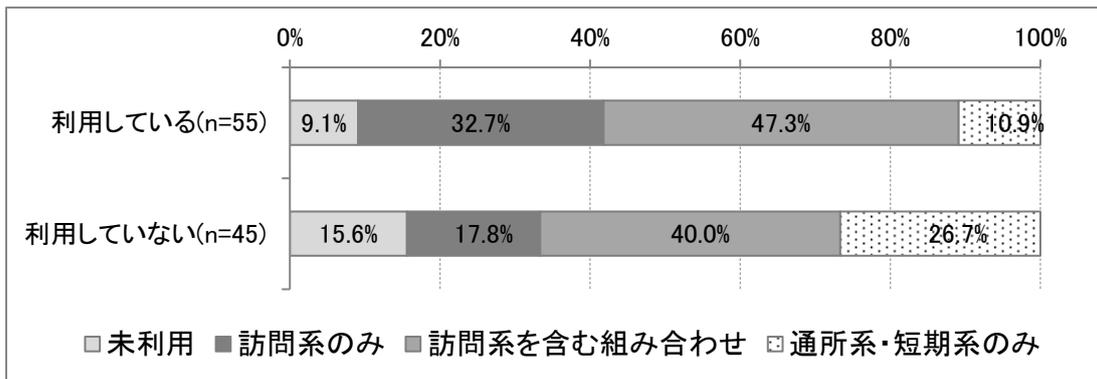
訪問診療の利用の有無を要介護度別にみると、「要支援1」では、「利用していない」が80.0%、「利用している」が20.0%となっている。「要支援2」では、「利用していない」が84.3%、「利用している」が15.7%となっている。「要介護1」では、「利用していない」が73.0%、「利用している」が27.0%となっている。「要介護2」では、「利用していない」が57.7%、「利用している」が42.3%となっている。「要介護3」では、「利用していない」が54.3%、「利用している」が45.7%となっている。「要介護4」では、「利用していない」が52.0%、「利用している」が48.0%となっている。「要介護5」では、「利用していない」が24.1%、「利用している」が75.9%となっている。



(3) 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ

【訪問診療の利用の有無別・介護保険サービス利用の組み合わせ(要介護3以上)】

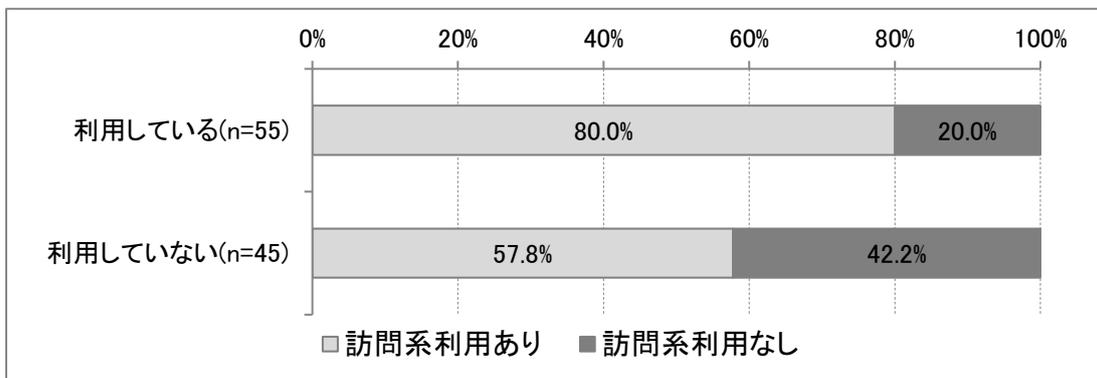
サービス利用の組み合わせを訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では、「訪問系を含む組み合わせ」が47.3%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が32.7%、「通所系・短期系のみ」が10.9%となっている。「利用していない」では、「訪問系を含む組み合わせ」が40.0%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が26.7%、「訪問系のみ」が17.8%となっている。



(4) 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系の利用の有無

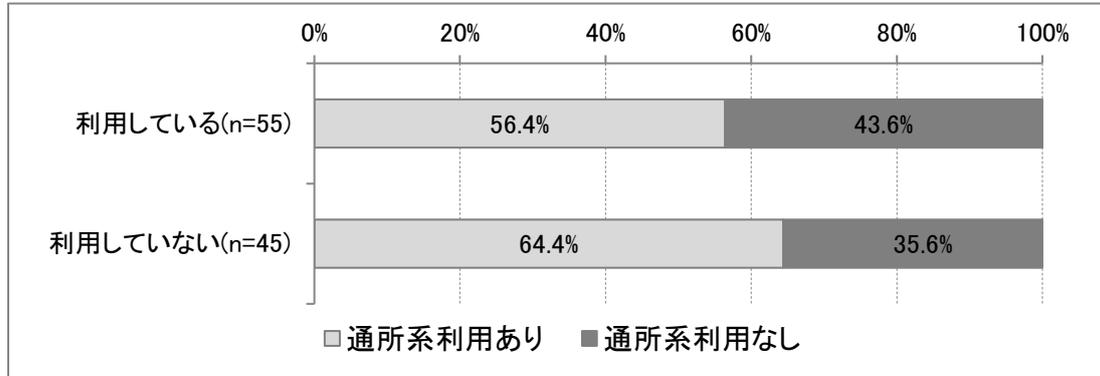
【訪問診療の利用の有無別・介護保険サービスの利用の有無(訪問系、要介護3以上)】

訪問系の利用の有無を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では、「訪問系利用あり」が80.0%、「訪問系利用なし」が20.0%となっている。「利用していない」では、「訪問系利用あり」が57.8%、「訪問系利用なし」が42.2%となっている。



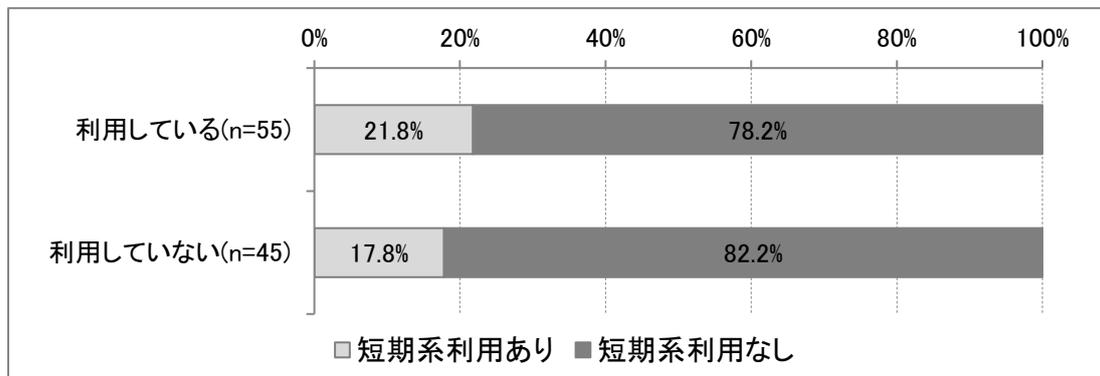
【訪問診療の利用の有無別・介護保険サービスの利用の有無(通所系、要介護3以上)】

通所系の利用の有無(定期巡回を除く)を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では、「通所系利用あり」が56.4%、「通所系利用なし」が43.6%となっている。「利用していない」では、「通所系利用あり」が64.4%、「通所系利用なし」が35.6%となっている。



【訪問診療の利用の有無別・介護保険サービス利用の有無(短期系、要介護3以上)】

短期系の利用の有無を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では、「短期系利用なし」が78.2%、「短期系利用あり」が21.8%となっている。「利用していない」では、「短期系利用なし」が82.2%、「短期系利用あり」が17.8%となっている。

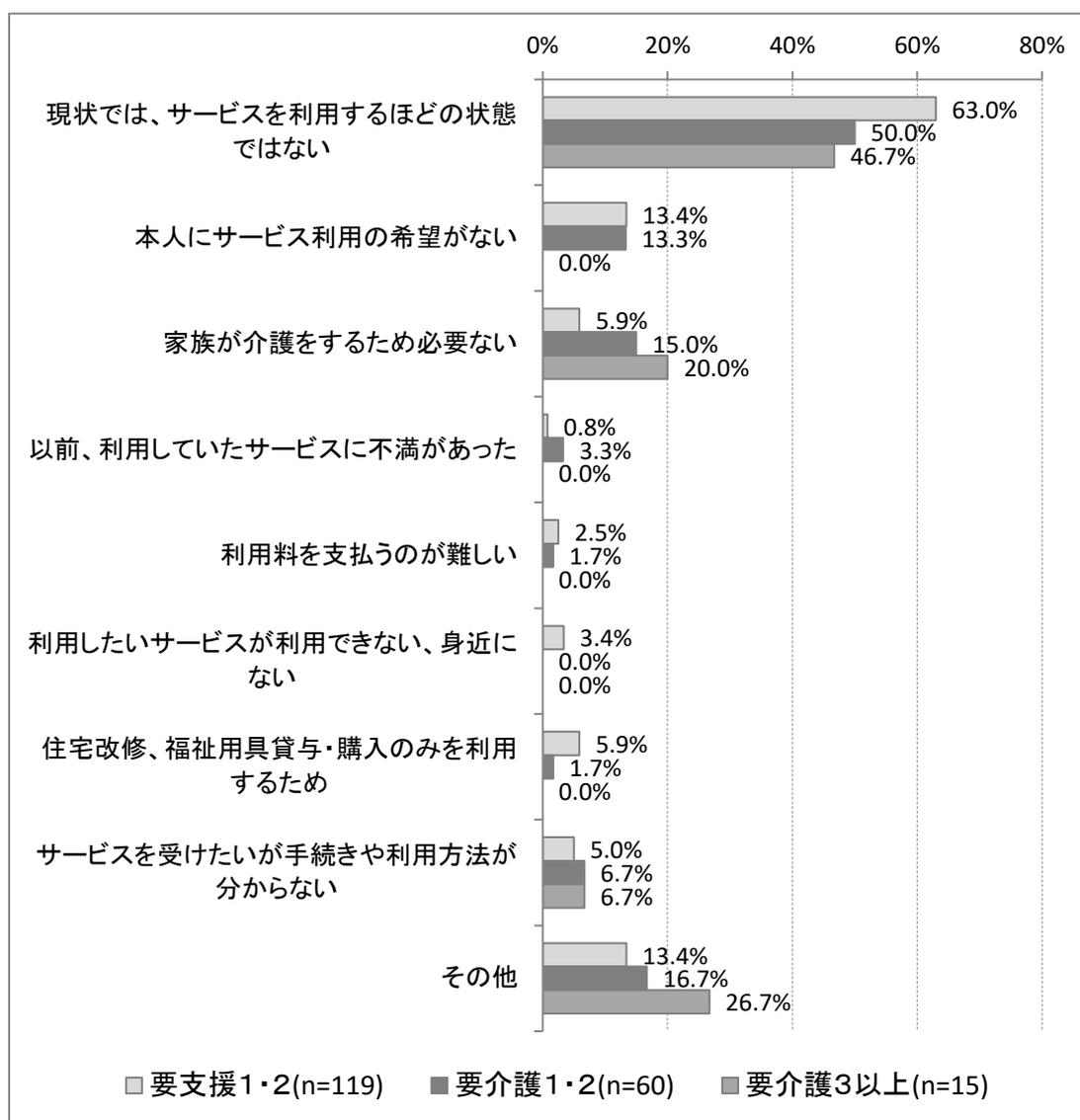


## 7 サービス未利用の理由など

### (1) 要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

#### 【要介護度別の介護保険サービス未利用の理由】

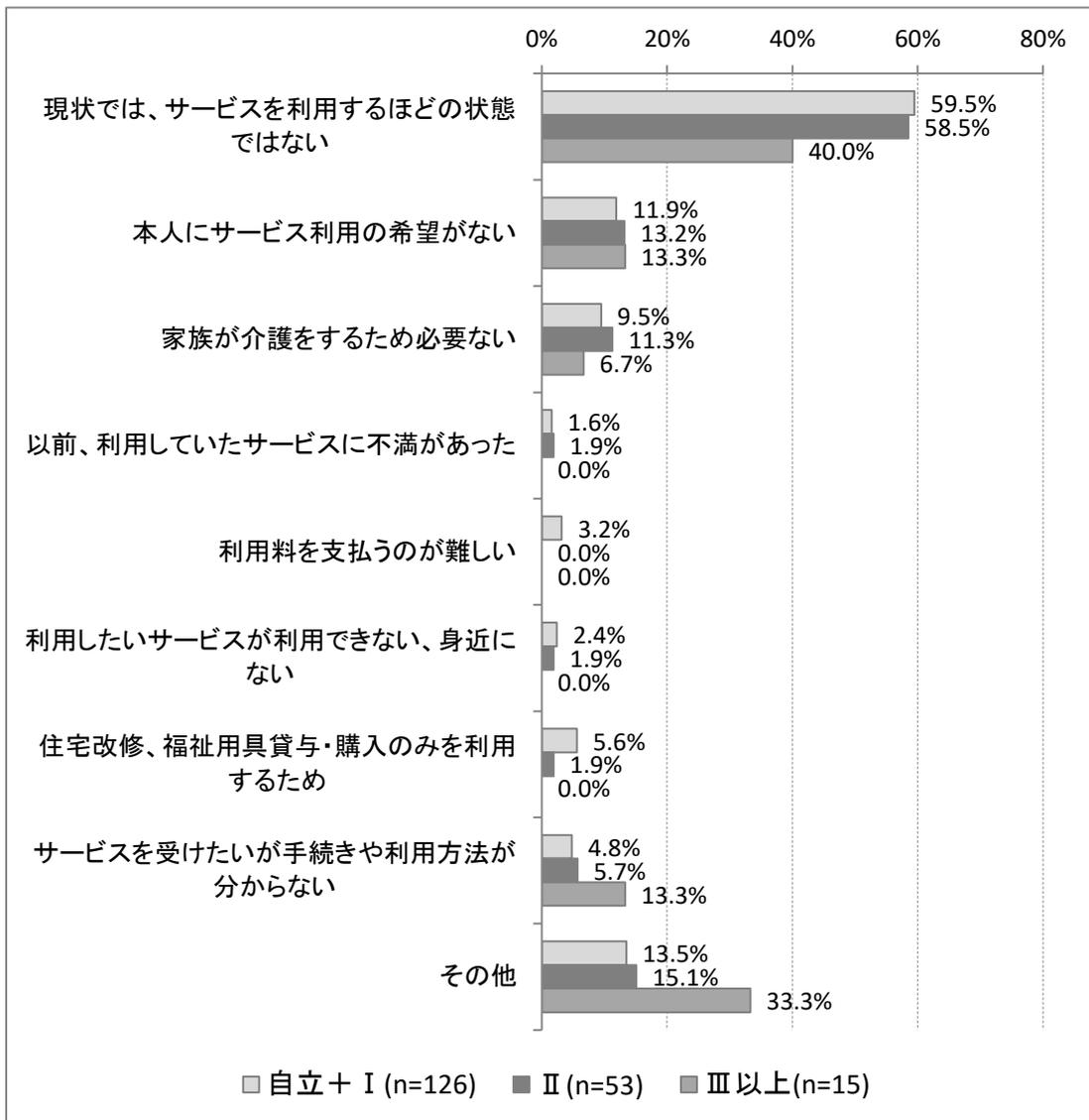
サービス未利用の理由を要介護度別にみると、「要支援1・2」では、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が63.0%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」と「その他」がともに13.4%、「家族が介護をするため必要ない」と「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」がともに5.9%となっている。「要介護1・2」では、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が50.0%と最も割合が高く、次いで「その他」が16.7%、「家族が介護をするため必要ない」が15.0%となっている。「要介護3以上」では、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が46.7%と最も割合が高く、次いで「その他」が26.7%、「家族が介護をするため必要ない」が20.0%となっている。



(2) 認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

【認知症自立度別の介護保険サービス未利用の理由】

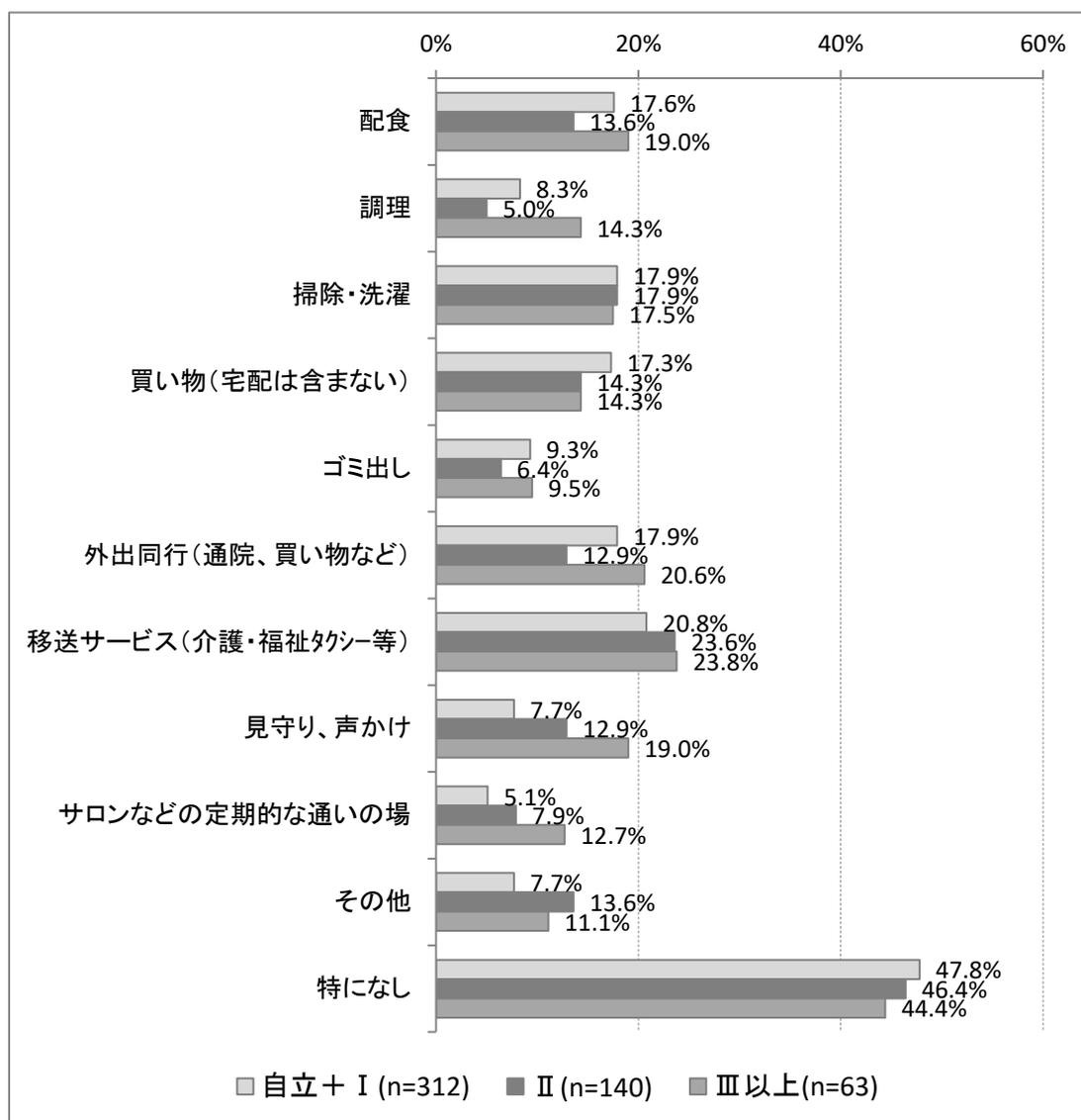
サービス未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 59.5%と最も割合が高く、次いで「その他」が 13.5%、「本人にサービス利用の希望がない」が 11.9%となっている。「Ⅱ」では、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 58.5%と最も割合が高く、次いで「その他」が 15.1%、「本人にサービス利用の希望がない」が 13.2%となっている。「Ⅲ以上」では、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 40.0%と最も割合が高く、次いで「その他」が 33.3%、「本人にサービス利用の希望がない」と「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」がともに 13.3%となっている。



## (3) 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要なと感じる支援・サービス

## 【認知症自立度別の在宅生活の継続に必要なと感じる介護保険外の支援・サービス】

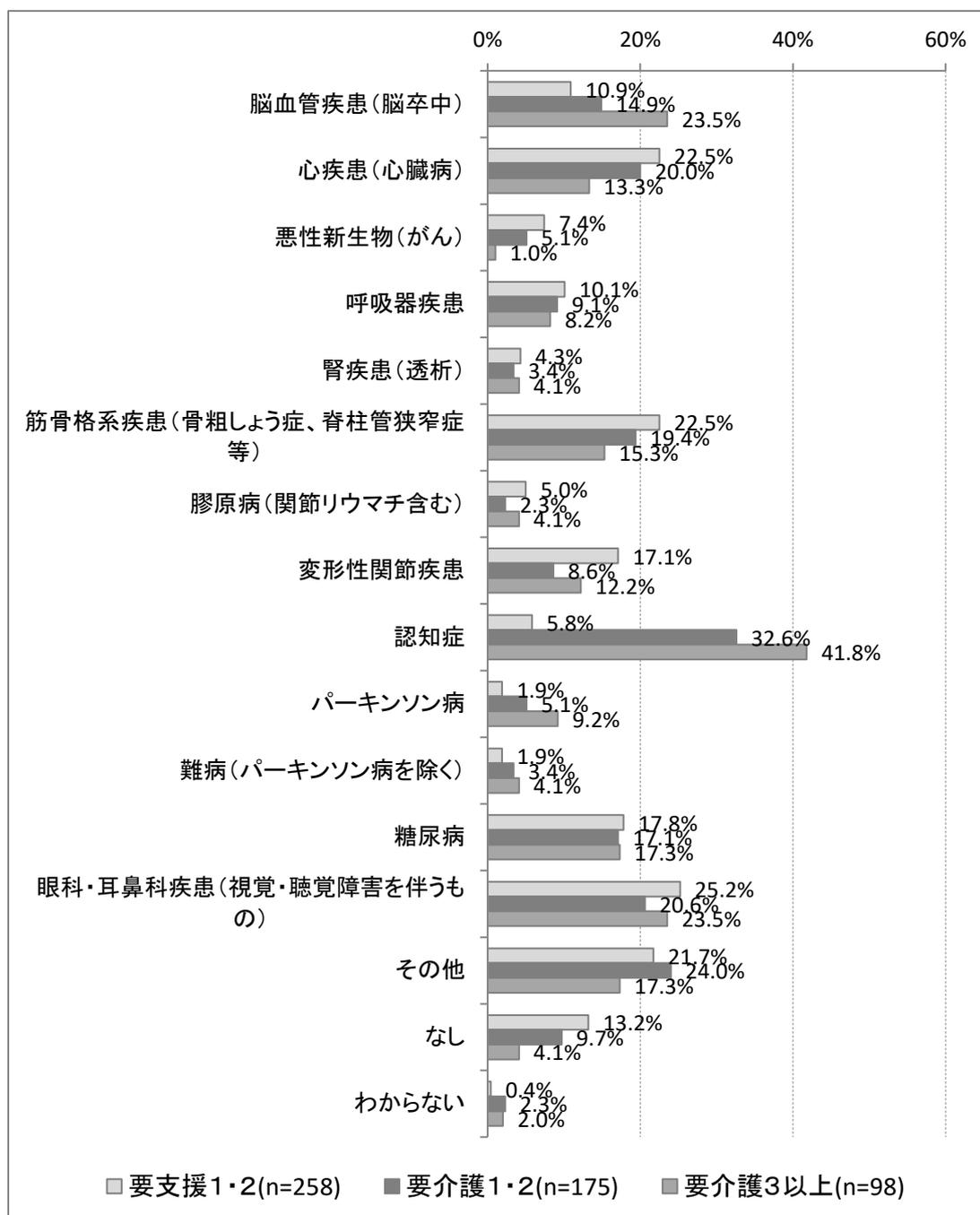
介護保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では、「特になし」が47.8%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が20.8%、「掃除・洗濯」と「外出同行（通院、買い物など）」がともに17.9%となっている。「Ⅱ」では、「特になし」が46.4%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が23.6%、「掃除・洗濯」が17.9%となっている。「Ⅲ以上」では、「特になし」が44.4%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が23.8%、「外出同行（通院、買い物など）」が20.6%となっている。



(4) 要介護度別の抱えている傷病

【要介護度別・抱えている傷病】

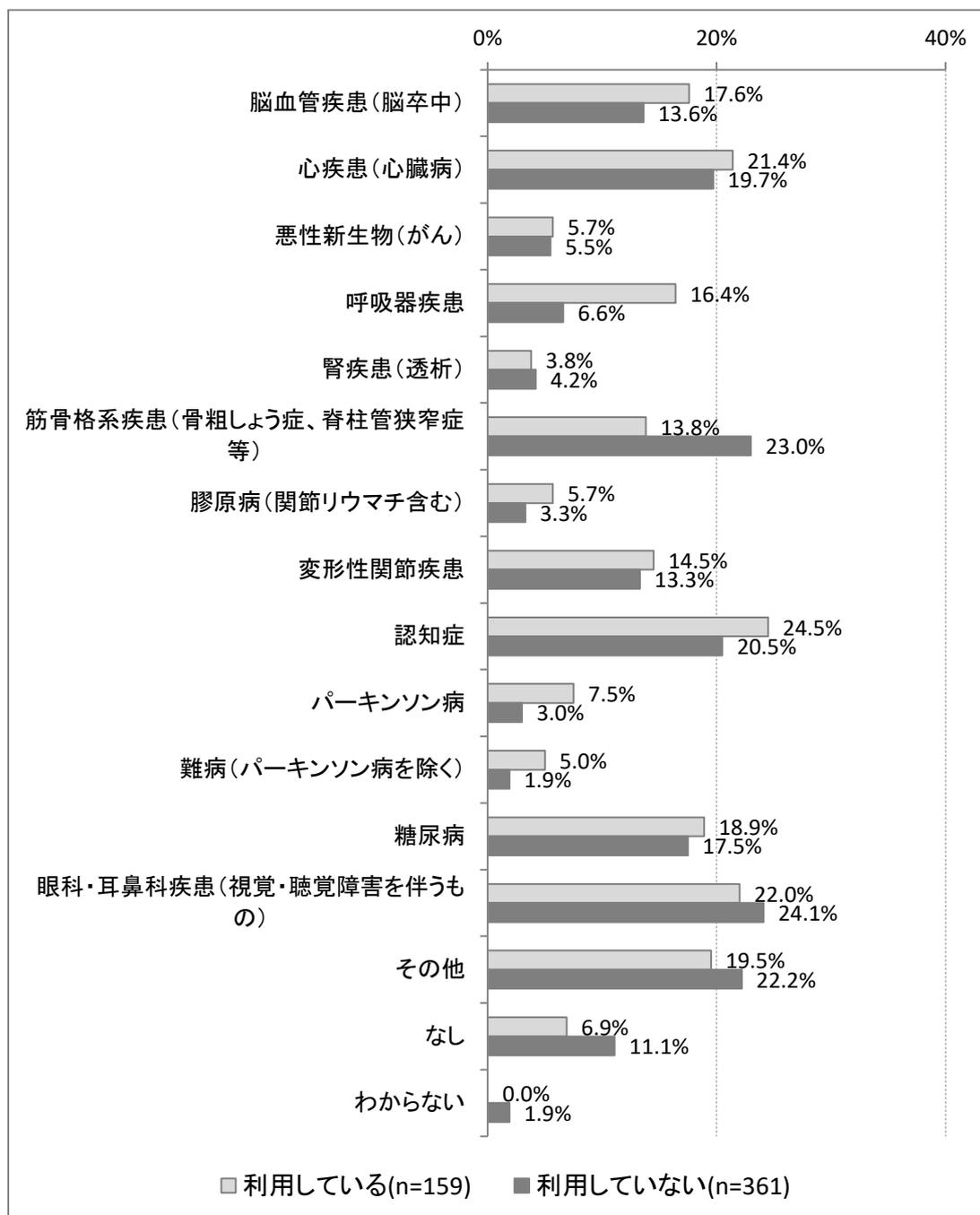
抱えている傷病を要介護度別にみると、「要支援1・2」では、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が25.2%と最も割合が高く、次いで「心疾患（心臓病）」と「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」がともに22.5%、「その他」が21.7%となっている。「要介護1・2」では、「認知症」が32.6%と最も割合が高く、次いで「その他」が24.0%、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が20.6%となっている。「要介護3以上」では、「認知症」が41.8%と最も割合が高く、次いで「脳血管疾患（脳卒中）」と「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」がともに23.5%、「糖尿病」と「その他」がともに17.3%となっている。



## (5) 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病

## 【訪問診療の利用の有無別・抱えている傷病】

抱えている傷病を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では、「認知症」が24.5%と最も割合が高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が22.0%、「心疾患（心臓病）」が21.4%となっている。「利用していない」では、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が24.1%と最も割合が高く、次いで「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が23.0%、「その他」が22.2%となっている。



## 第2章

# 要支援・要介護認定者と介護者の 生活と福祉に関する調査

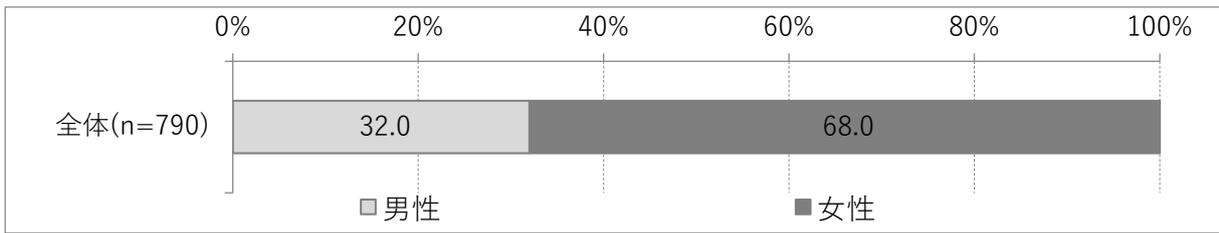
### 第2節 三鷹市独自調査



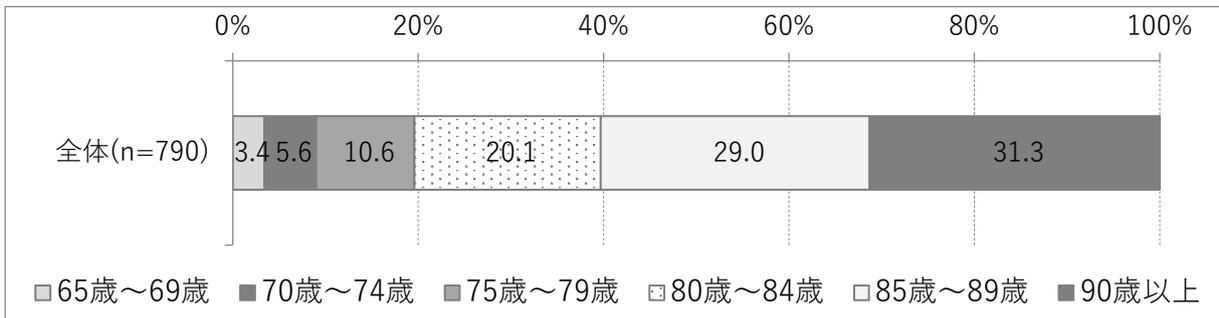
1 要介護者、回答者の属性等

(1) 要介護者の属性

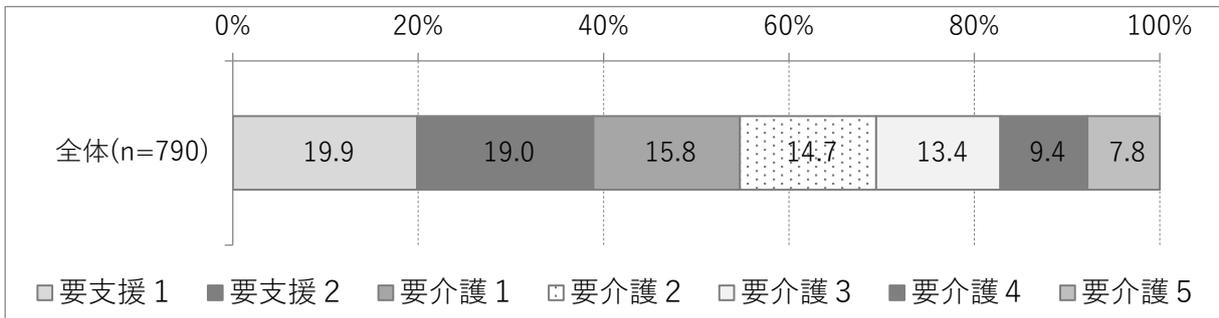
【本人の性別】



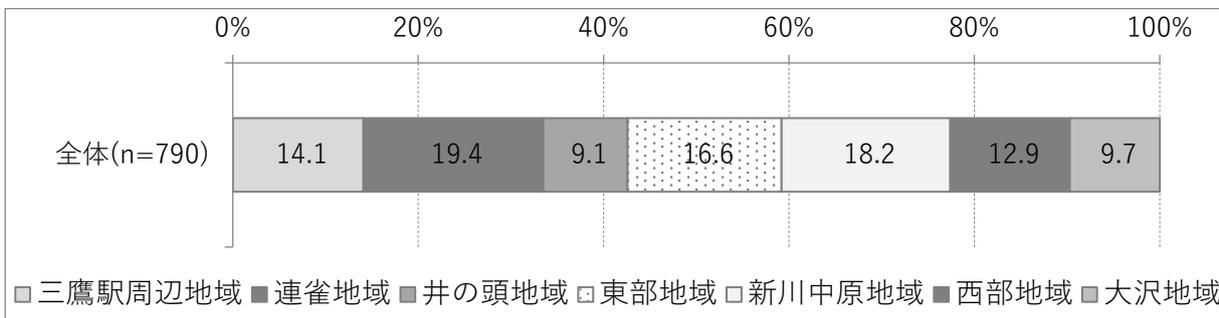
【本人の年齢】



【本人の要介護度】

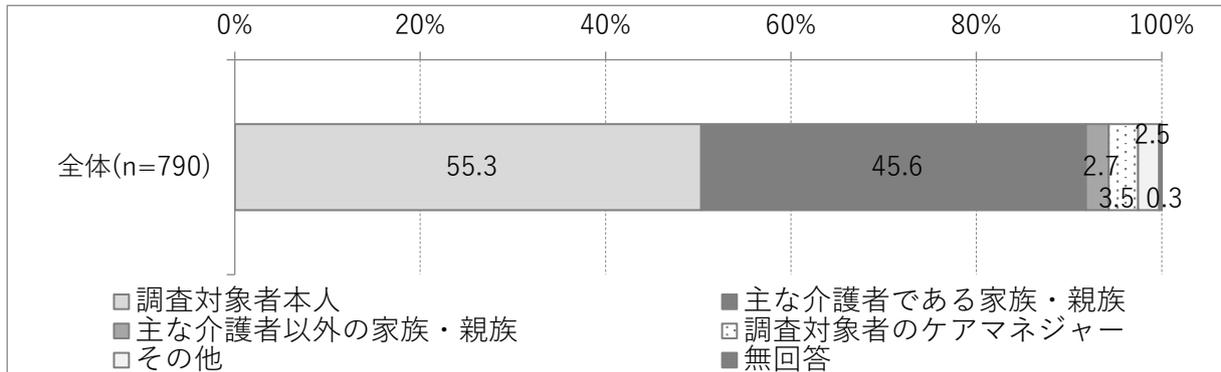


【本人の生活圏域】



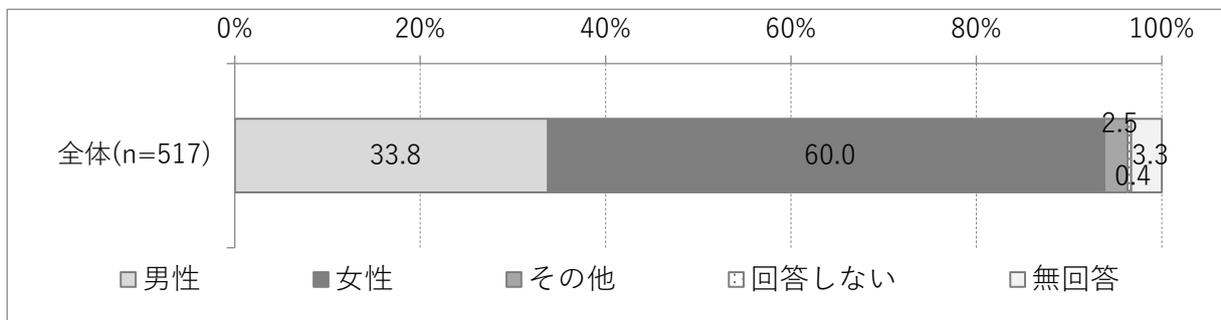
(2) 回答者の属性

【回答者】

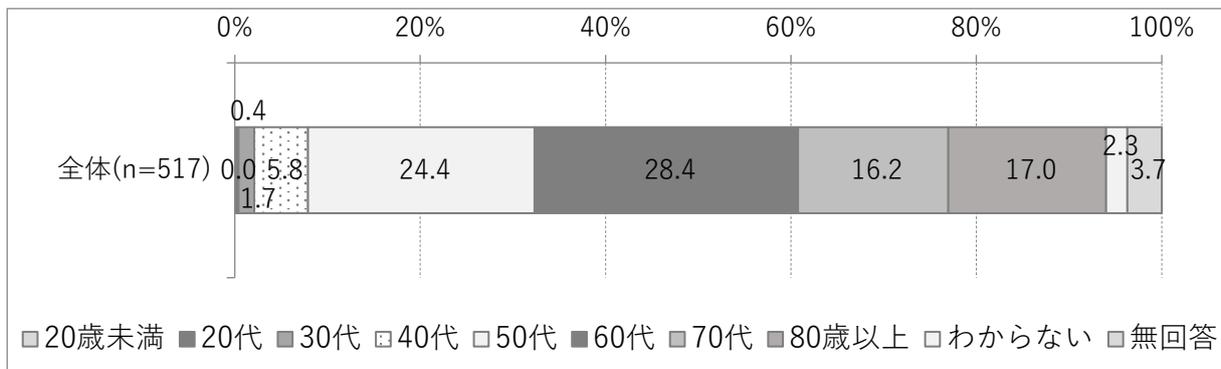


(3) 主な介護者の属性等

【主な介護者の性別】



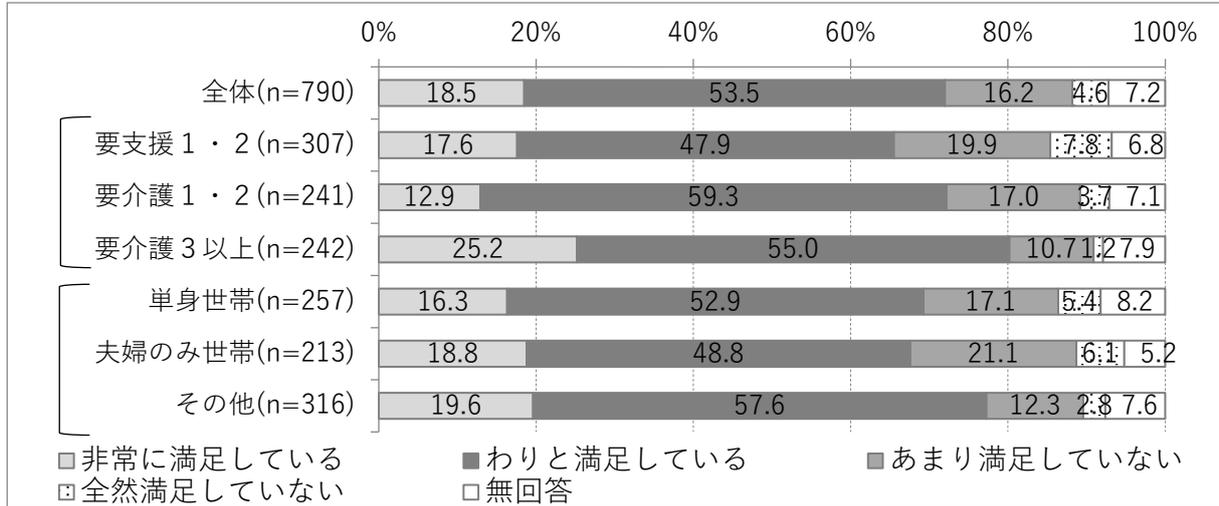
【主な介護者の年齢】



## 2 介護サービス等の利用

### (1) 認定の満足度

認定調査への満足状況について、「非常に満足している」と「わりと満足している」を合わせた割合は72.0%で、「あまり満足していない」と「全然満足していない」を合わせた割合は、20.8%であった。「満足している」は介護度の低い人で低く、介護度の高い人で高い傾向がみられた。

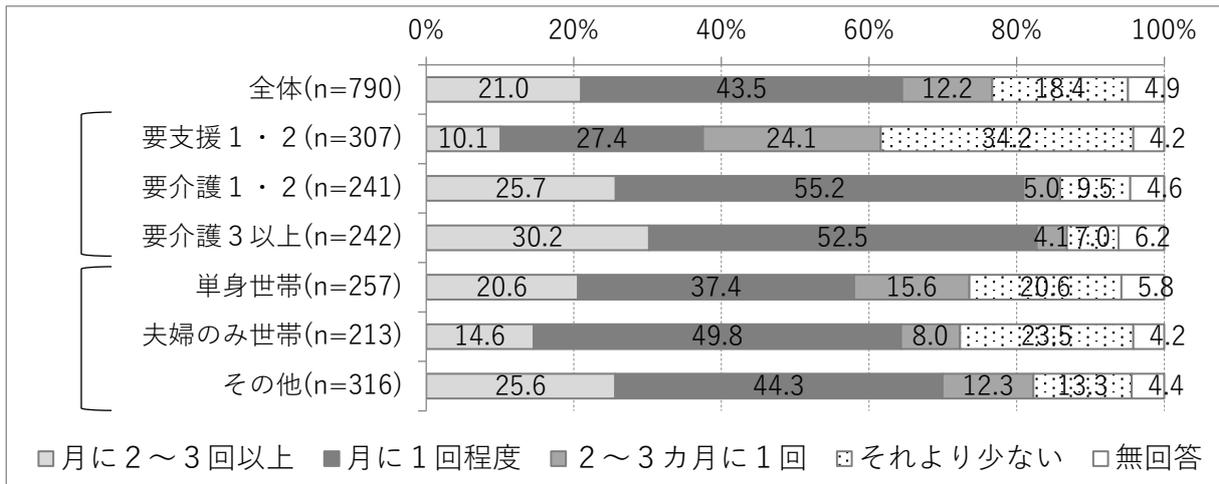


(2) ケアマネジャーの訪問頻度・満足度

① ケアマネジャーの訪問頻度

ケアマネジャー（介護支援専門員）及び地域包括支援センターの職員の訪問頻度（電話連絡を含む）について、「月に1回程度」が43.5%と最も高く、これに「月に2～3回以上」を合わせた「月に1回以上」の割合が64.5%であった。一方、「2～3カ月に1回」と「それより少ない」を合わせた「月に1回未満」の割合は、30.6%であった。

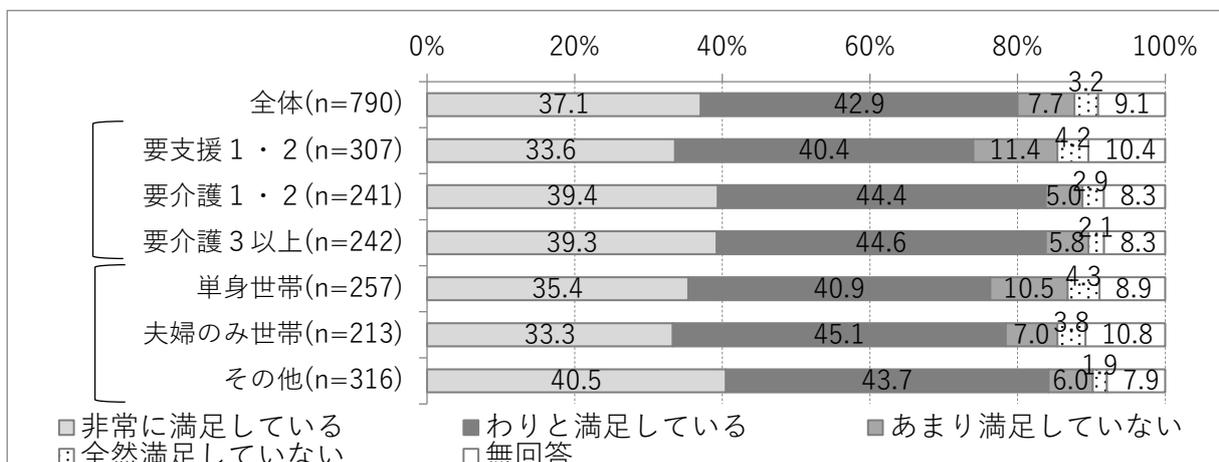
「月1回以上」は、要介護度の低い人で低く、要介護度の高い人で高い傾向がみられた。世帯類型別では、「単身世帯」における「月に1回未満」の割合は36.2%で、全体より5.6ポイント高かった。



② ケアマネジャーへの満足度

ケアマネジャーへの満足度について、「非常に満足している」と「わりと満足している」を合わせた「満足している」が80.0%であったのに対して、「あまり満足していない」と「全然満足していない」を合わせた「満足していない」の割合は10.9%であった。

要介護度別にみると、「要支援1・2」で「満足していない」の割合が15.6%で、全体と比較して4.7ポイント高かった。世帯類型別では、他の世帯類型と比較して、「単身世帯」で「満足している」の割合が76.3%と低く、「満足していない」の割合が14.8%と高かった。

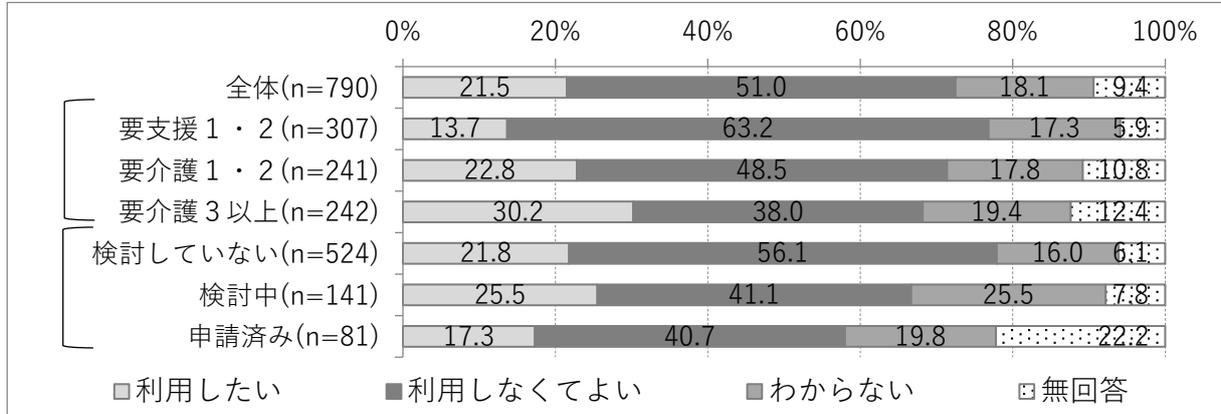


(3) 今後のサービス利用意向

① 訪問入浴介護

「利用したい」が21.5%、「利用しなくてよい」が51.0%であった。

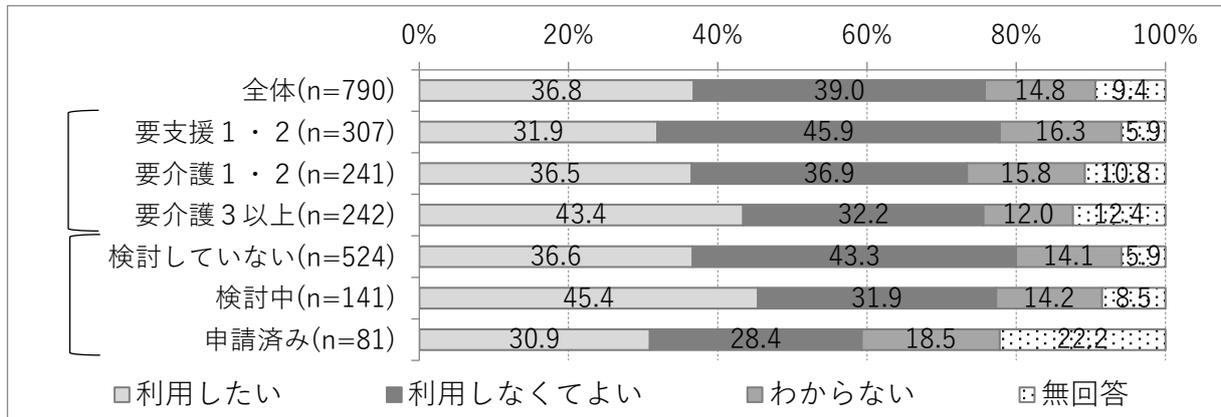
「利用したい」の割合は、要介護度が高くなるにつれて高くなり、施設等入所の検討状況別では、「検討中」が25.5%と最も高かった。



② 訪問リハビリテーション

「利用したい」が36.8%、「利用しなくてよい」が39.0%であった。

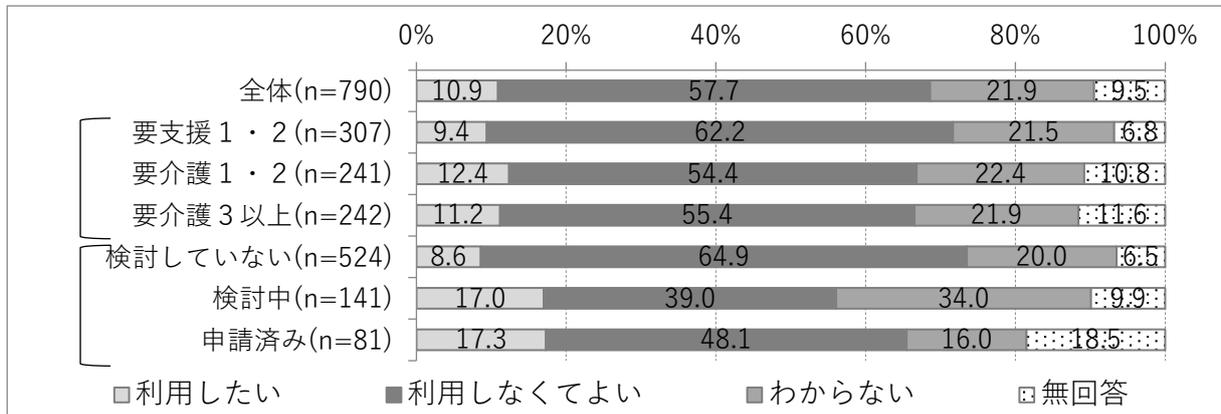
「利用したい」の割合は、要介護度が高くなるにつれて高くなり、施設等入所の検討状況別では、「検討中」が45.4%と最も高かった。



③ 認知症高齢者グループホーム

「利用したい」が10.9%、「利用しなくてよい」が57.7%であった。

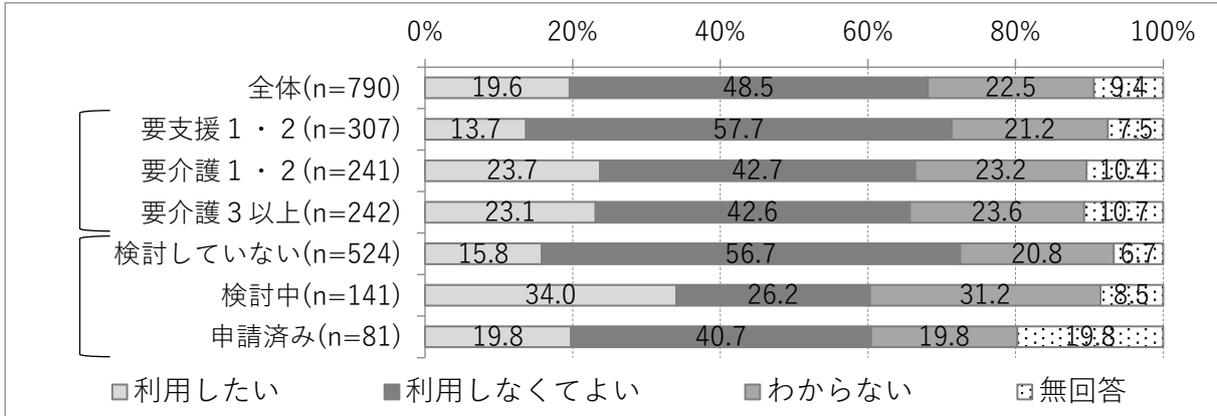
「利用したい」の割合を要介護度別にみると、「要介護1・2」が12.4%と最も高く、施設等入所の検討状況別では、「申請済み」が17.3%と最も高かった。



④ 小規模多機能型居宅介護

「利用したい」が19.6%、「利用しなくてよい」が48.5%であった。

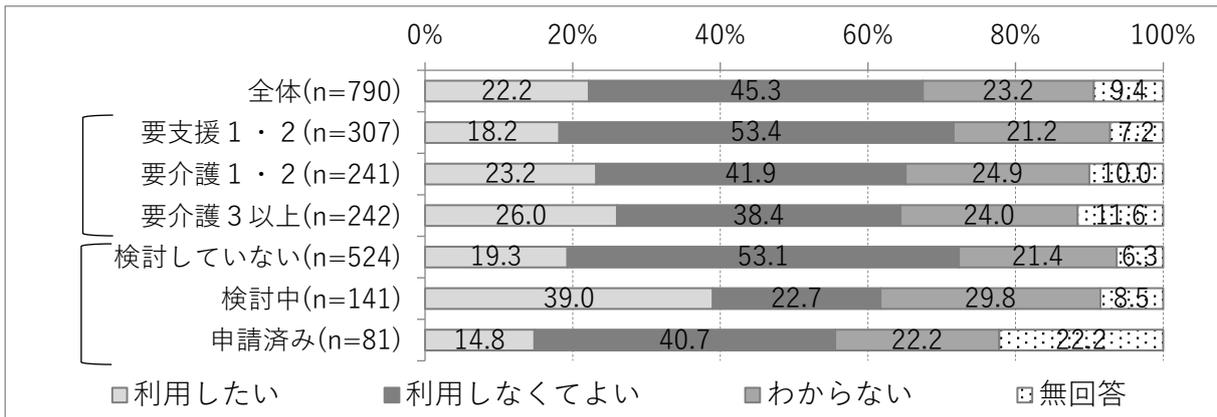
「利用したい」の割合を要介護度別にみると、「要介護1・2」が23.7%と最も高く、施設等入所の検討状況別にみると、「検討中」が34.0%と最も高かった。



⑤ 看護小規模多機能型居宅介護

「利用したい」が22.2%、「利用しなくてよい」が45.3%であった。

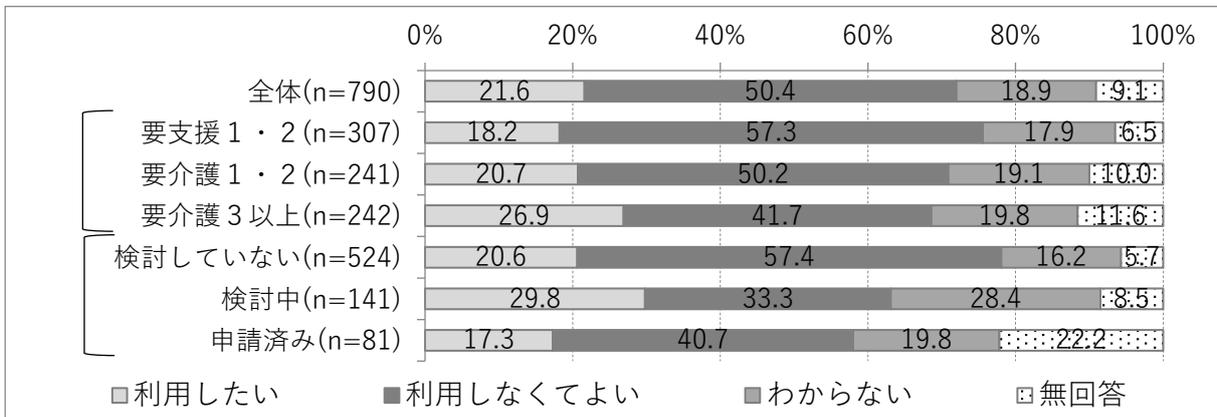
「利用したい」の割合は、要介護度が高くなるにつれて高くなり、施設等入所の検討状況別では、「検討中」が39.0%と最も高かった。



⑥ 夜間対応型訪問介護

「利用したい」が21.6%、「利用しなくてよい」が50.4%であった。

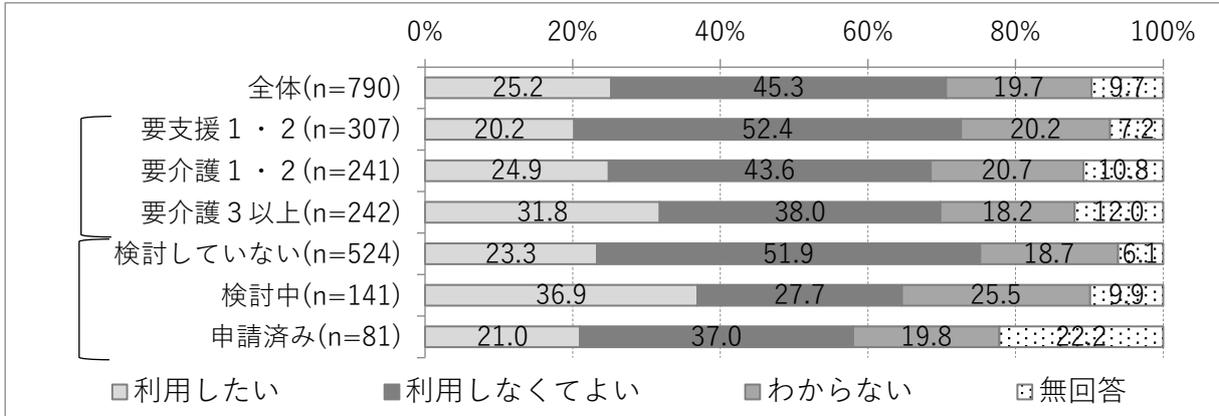
「利用したい」の割合は、要介護度が高くなるにつれて高くなり、施設等入所の検討状況別では、「検討中」が29.8%と最も高かった。



⑦ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

「利用したい」が25.2%、「利用しなくてよい」が45.3%であった。

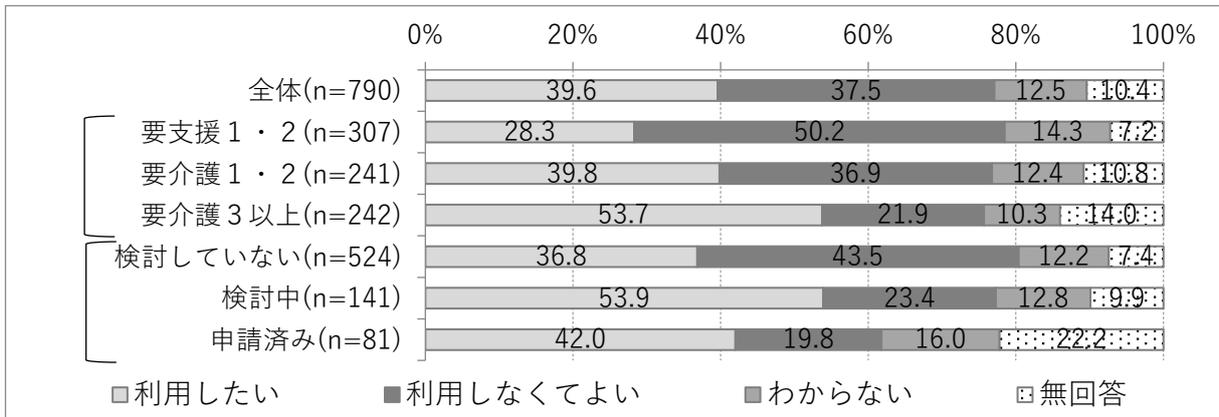
「利用したい」の割合は、要介護度が高くなるにつれて高くなり、施設等入所の検討状況別では、「検討中」が36.9%と最も高かった。



⑧ 訪問診療、往診

「利用したい」が39.6%、「利用しなくてよい」が37.5%であった。

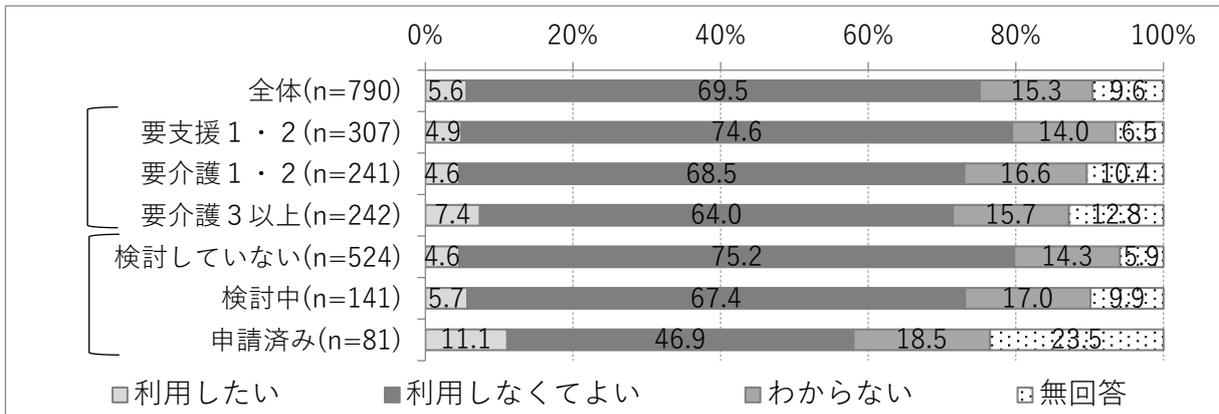
「利用したい」の割合は、要介護度が高くなるにつれて高くなり、「要介護3以上」では、5割を超えた。施設等入所の検討状況別では、「検討中」が53.9%と最も高かった。



⑨ 権利擁護事業

「利用したい」が5.6%、「利用しなくてよい」が69.5%であった。

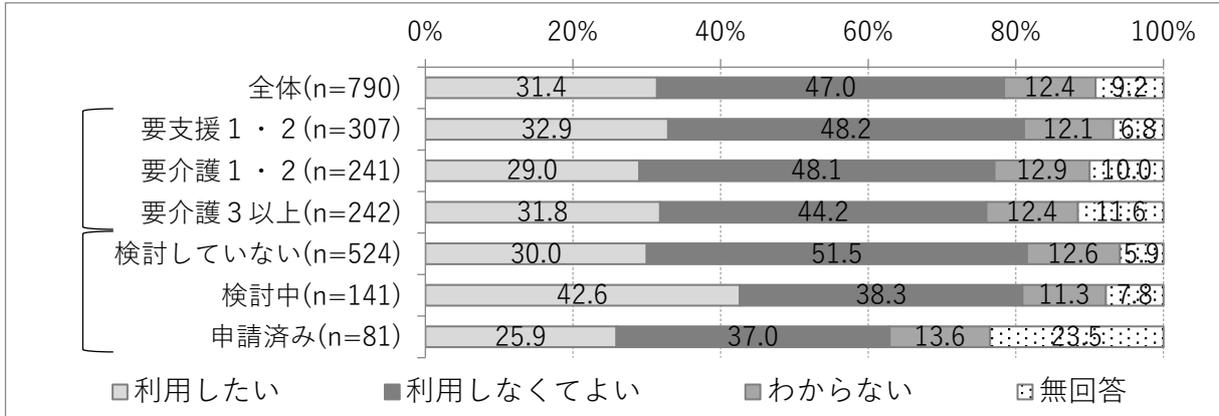
「利用したい」の割合を要介護度別にみると、「要介護3以上」が7.4%と最も高く、施設等入所の検討状況別では、「申請済み」が11.1%と最も高かった。



⑩ 配食サービス

「利用したい」が31.4%、「利用しなくてよい」が47.0%であった。

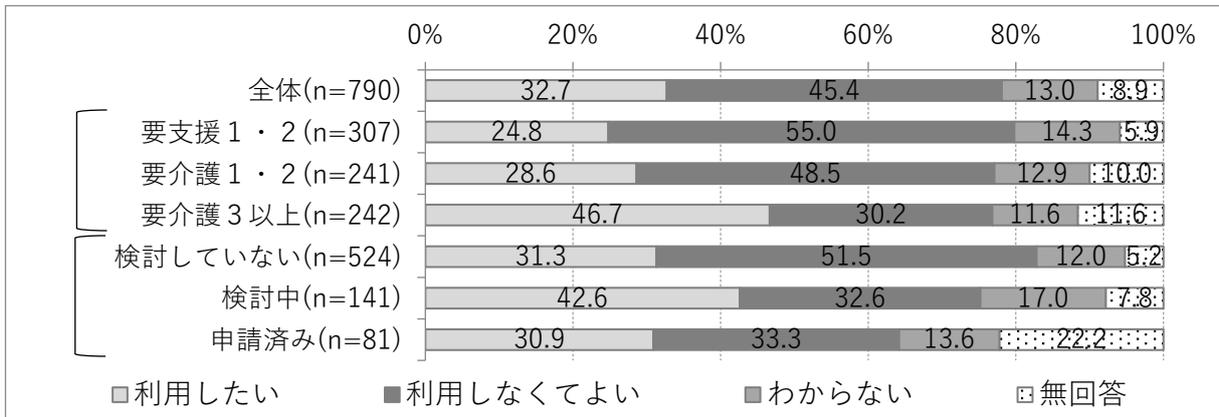
「利用したい」の割合は、要介護度別で大きな差はなかったが、施設等入所の検討状況別では、「検討中」が42.6%と最も高かった。



⑪ リフト付きタクシー

「利用したい」が32.7%、「利用しなくてよい」が45.4%であった。

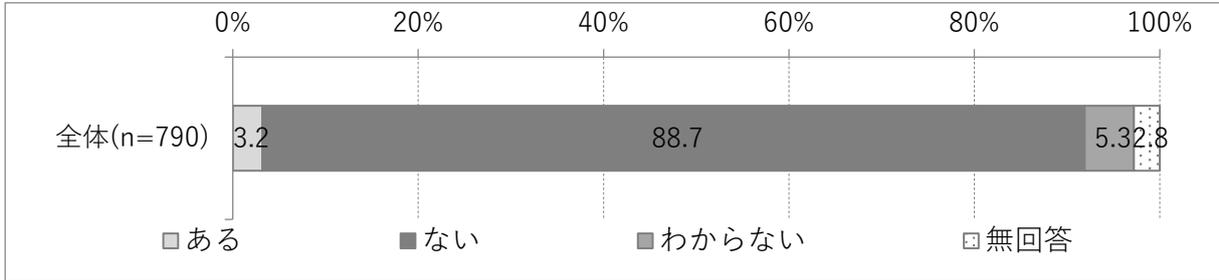
「利用したい」の割合は、要介護度が高くなるにつれて高くなり、「要介護3以上」では、4割を超えた。施設等入所の検討状況別では、「申請済み」が42.6%と最も高かった。



(4) 障がい福祉サービスの利用

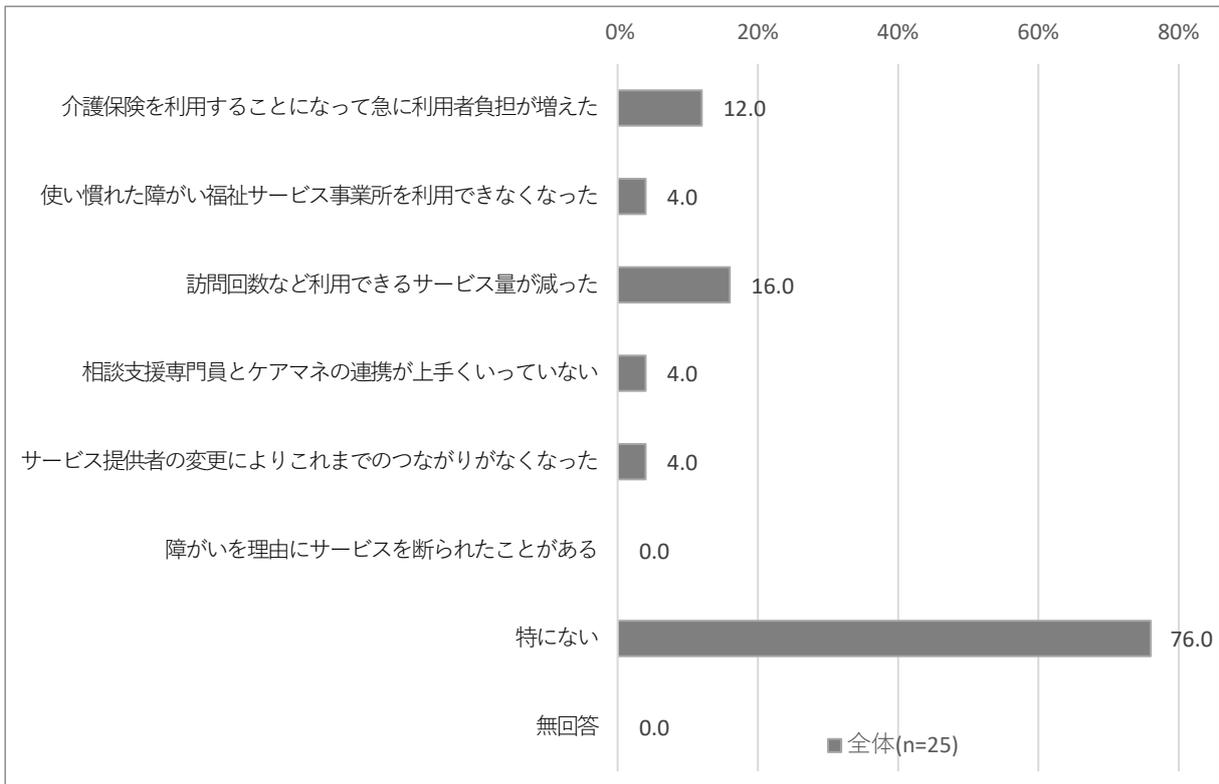
① 障がい福祉サービスの利用状況

65歳になるまでの障がい福祉サービスの利用状況については、「ある」が3.2%、「ない」が88.7%、「わからない」が5.3%であった。



② 介護保険サービス移行後の問題点

65歳になるまでに障がい福祉サービスを利用したことが「ある」人について、65歳に到達した日以降のサービス利用に関して、何らかの問題があったかについてたずねたところ、「特にない」が76.0%で最も高く、次いで「訪問回数など利用できるサービス量が減った」が16.0%、「介護保険を利用することになって急に利用者負担が増えた」が12.0%の順であった。

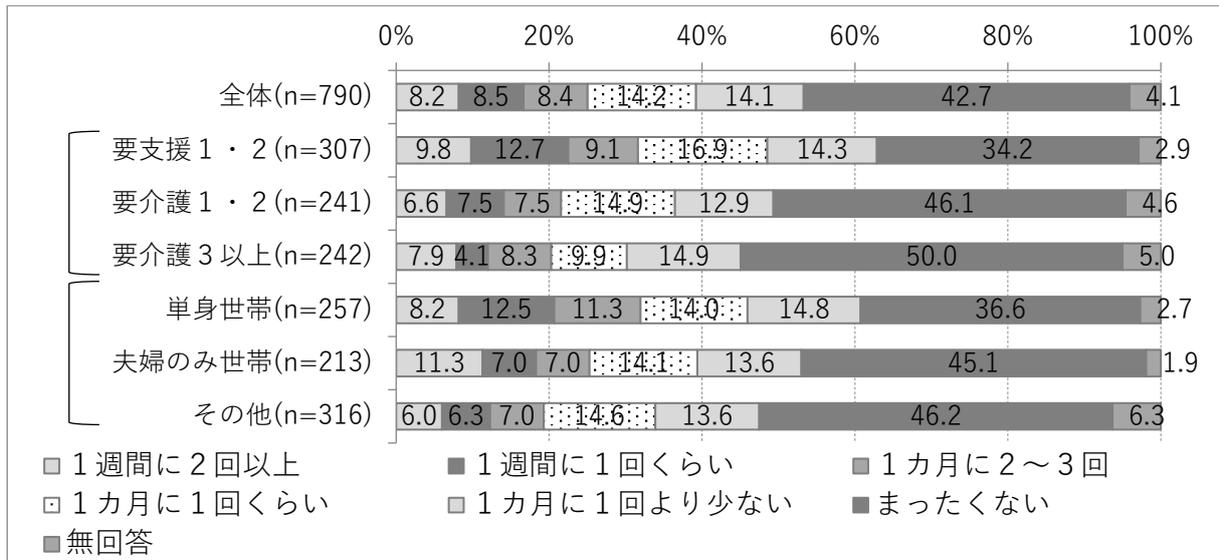


### 3 社会参加や生きがい等

#### (1) 外出と社会参加の頻度

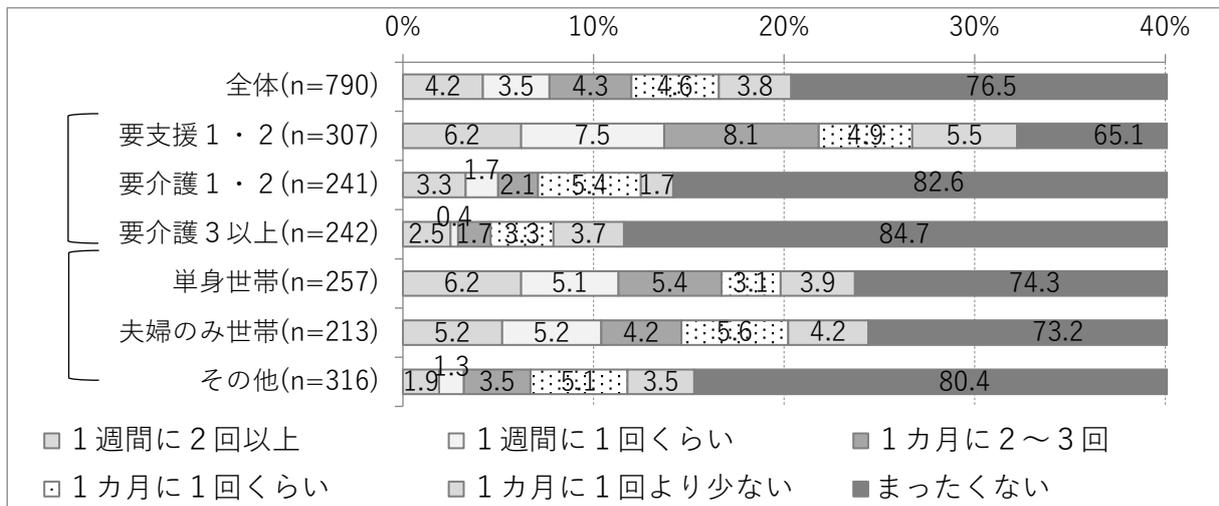
友人・知人等との外出の頻度について、「1週間に2回以上」が8.2%、「1週間に1回くらい」が8.5%、「1カ月に2～3回」が8.4%、「1カ月に1回くらい」が14.2%で、合わせて「月に1回以上」の割合が39.3%であった。一方、「1カ月に1回より少ない」が14.1%、「まったくない」が42.7%で、合わせて「月に1回未満」の割合が56.8%であり、外出頻度が低い人の割合の方が17.5ポイント高かった。

「月に1回以上」の割合は、要介護度が高くなるにつれて低くなり、世帯類型別では、「単身世帯」が46.0%と最も高かった。



自治会、町内会、趣味や宗教その他のグループ活動について、「1週間に2回以上」が4.2%、「1週間に1回くらい」が3.5%、「1カ月に2～3回」が4.3%、「1カ月に1回くらい」が4.6%で、合わせて「月に1回以上」が16.6%であった。一方、「1カ月に1回より少ない」が3.8%、「まったくない」が76.5%であった。

「月に1回以上」の割合は、要介護度が高くなるにつれて低くなり、世帯類型別では、「夫婦のみ世帯」が20.2%と最も高かった。

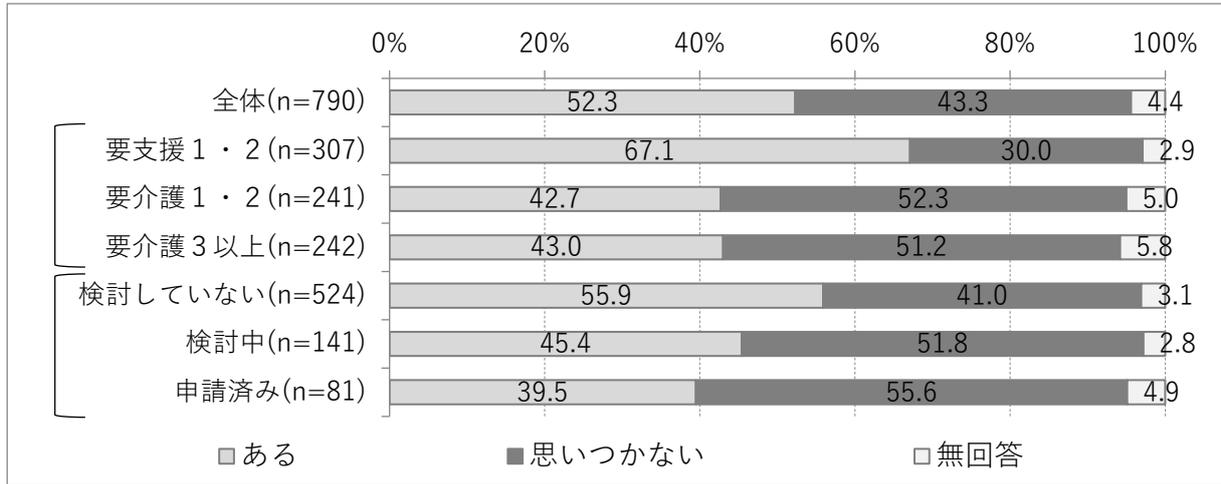


(注) パーセンテージの小さい項目の数字を見やすくするために横軸の終点を40%にした。

(2) 生きがい

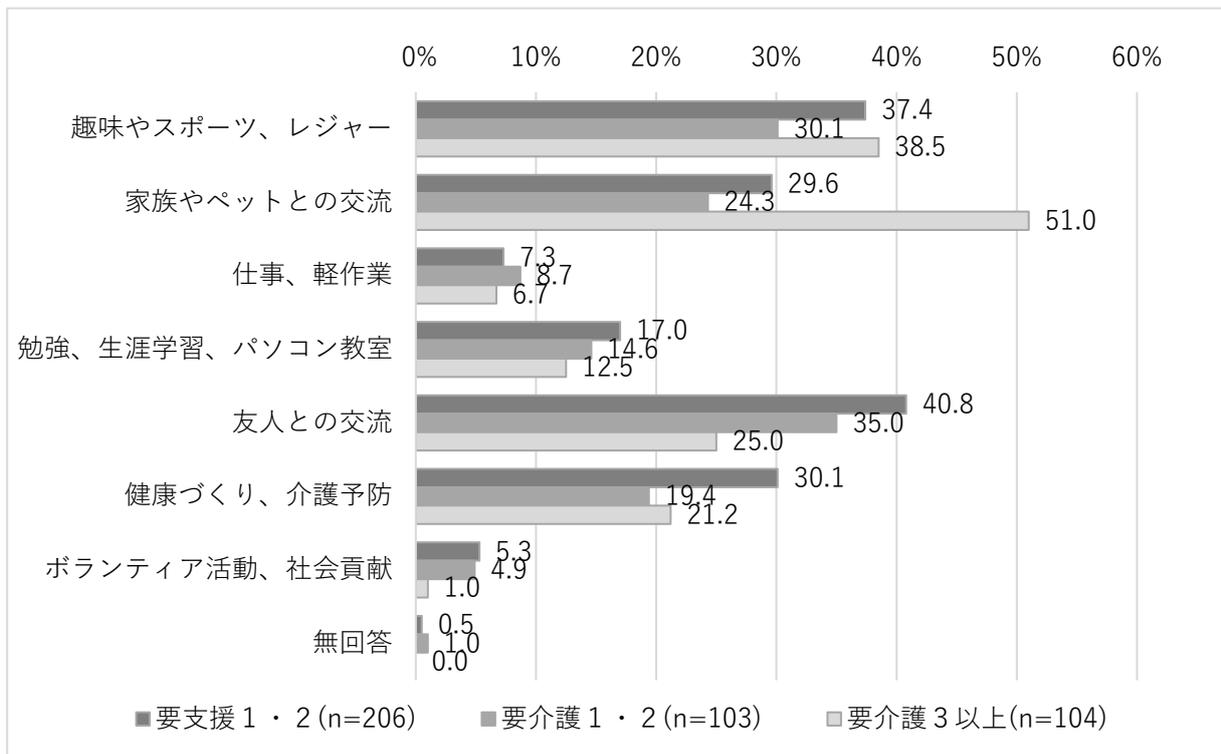
① 生きがいの有無

生きがいについて、「ある」が52.3%、「思いつかない」が43.3%であった。「ある」の割合を要介護度別にみると、「要支援1・2」が67.1%と最も高く、次いで「要介護3以上」が43.0%であった。施設等入所の検討状況別では、「検討していない」が55.9%と最も高かった。



② 生きがいの内容

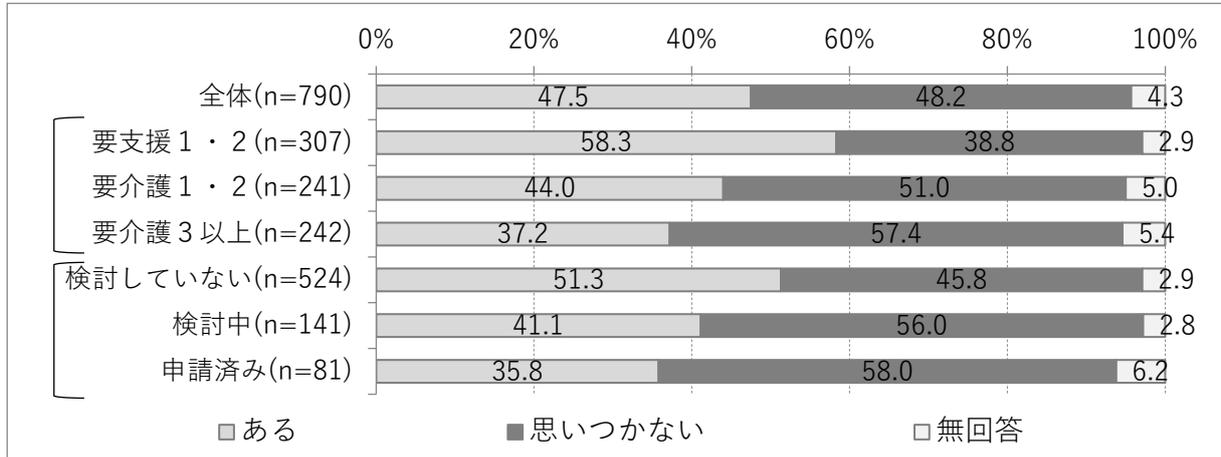
生きがいについて、「ある」人に対してどんなことかたずねたところ、「要支援1・2」及び「要介護1・2」では、「友人との交流」の割合がそれぞれ40.8%、35.0%と最も高かった一方、「要介護3以上」では、「家族やペットとの交流」が51.0%と最も高かった。



③ 生きがいとしてやってみたいことの有無

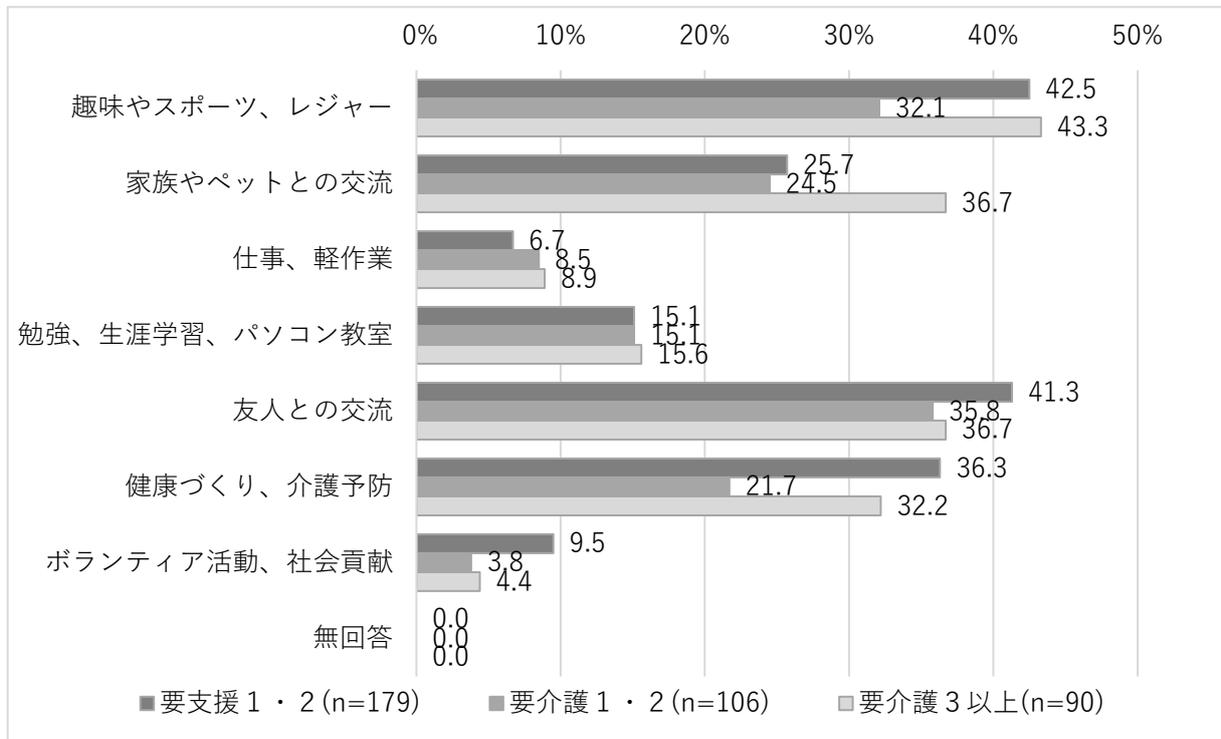
生きがいとしてやってみたいことについて、「ある」が 47.5%、「思いつかない」が 48.2%であった。

「ある」の割合は、要介護度が高くなるにつれて低くなり、施設等入所の検討状況別では、「検討していない」が 51.3%と最も高かった。



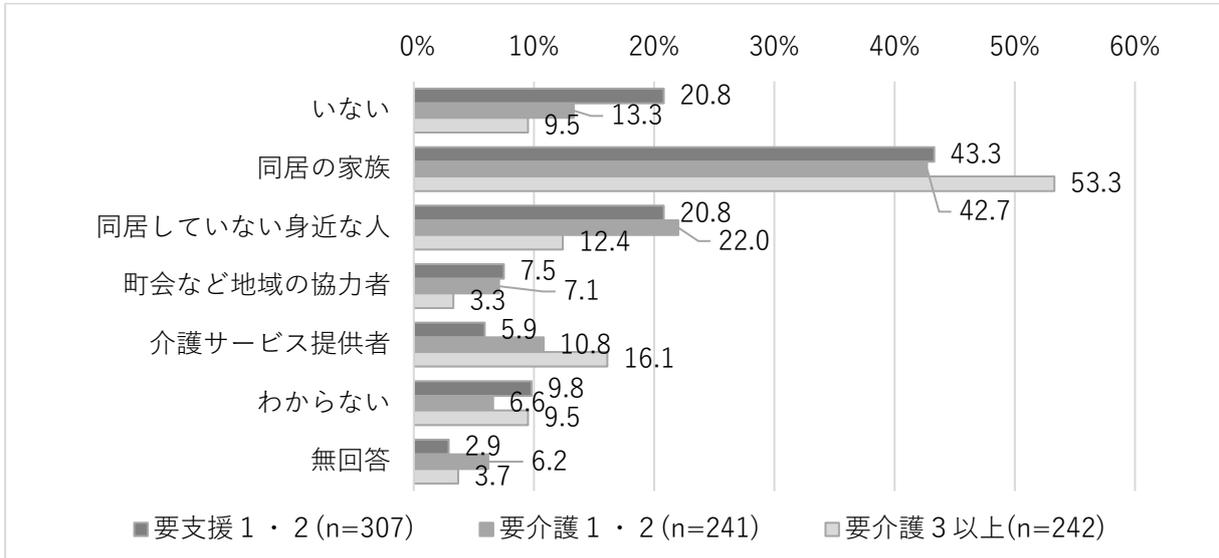
④ 生きがいとしてやってみたいことの内容

生きがいとしてやってみたいことについて、「ある」人に対してどんなことかたずねたところ、「要支援 1・2」及び「要介護 3以上」では、「趣味やスポーツ、レジャー」の割合がそれぞれ 42.5%、43.3%と最も高かったのに対して、「要介護 1・2」では、「友人との交流」が 35.8%と最も高かった。



### (3) 災害時に手助けしてくれる人

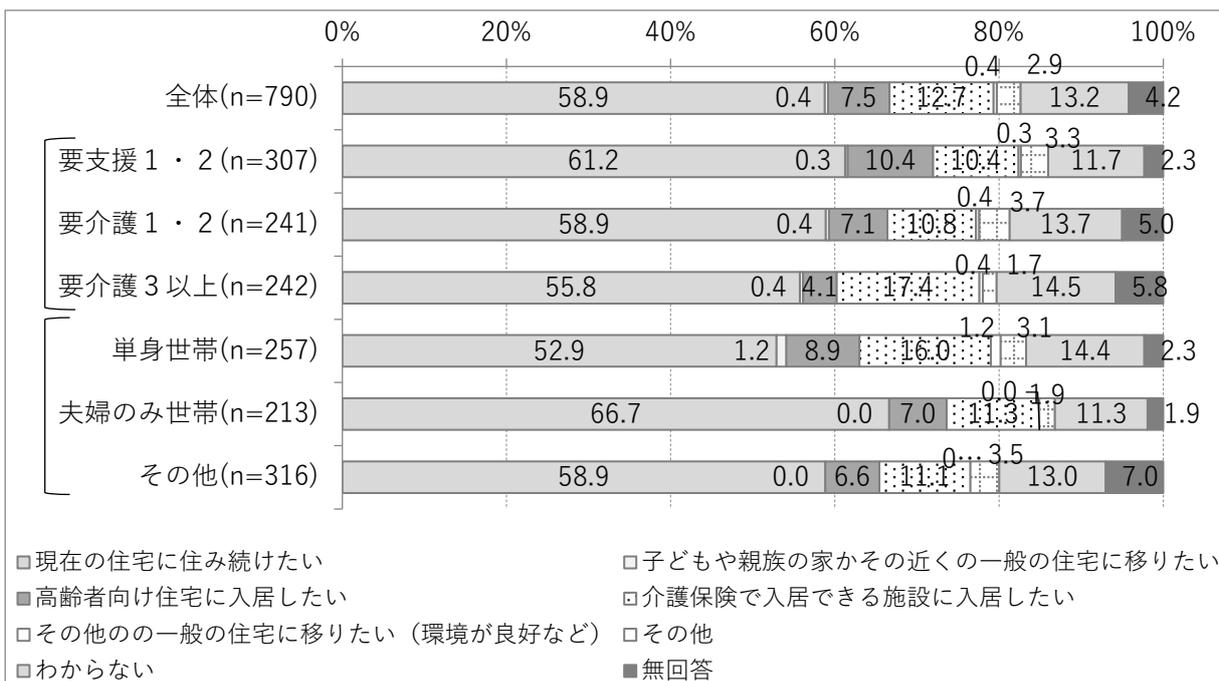
災害時に避難の手助けをしてくれる人について、「同居の家族」の割合が全ての要介護度で最も高く、次いで「要支援1・2」では、「同居していない身近な人」と「いない」がともに20.8%、「要介護1・2」では、「同居していない身近な人」が22.0%、「要介護3以上」では、「介護サービス提供者」が16.1%であった。



### (4) 今後介護度が高くなった際の生活場所

今後、要介護度が高くなった際に生活したい場所について、「自宅」の割合が58.9%と最も高く、次いで「わからない」が13.2%、「介護保険で入居できる施設に入所したい」が12.7%、「高齢者向け住宅に移りたい」が7.5%であった。

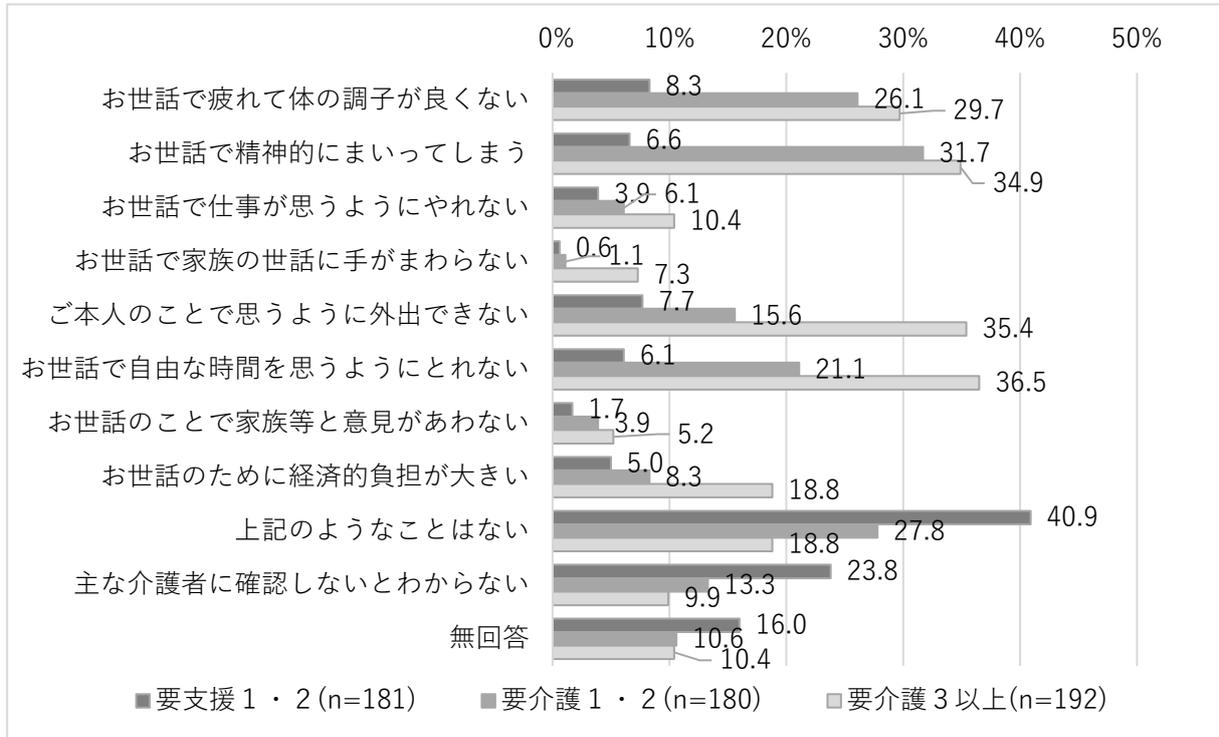
「自宅」を希望する割合は、要介護度が高くなるにつれて低くなるものの、「要介護3以上」でも55.8%が「自宅」であった。世帯類型別では、「単身世帯」と比較して「夫婦のみ世帯」が13.8ポイント高かった。



#### 4 主な介護者の介護や仕事

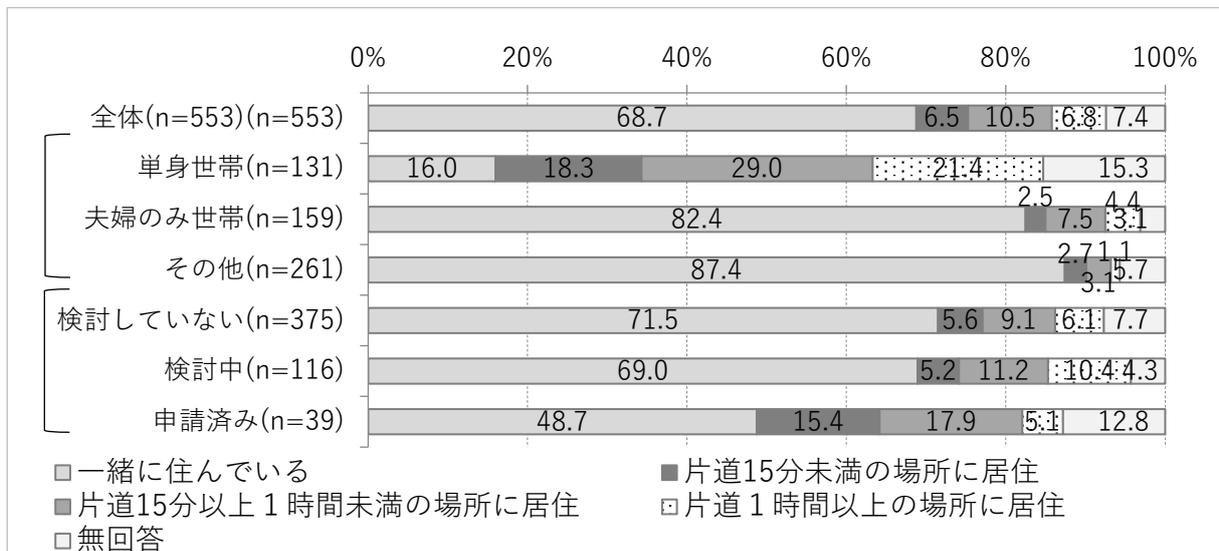
##### (1) 主な介護者の負担感

主な介護者が負担に感じることについて、「お世話で精神的にまいってしまう」、「お世話で疲れて体の調子が良くない」、「ご本人のことで思うように外出できない」、「お世話で自由な時間を思うようにとれない」が全ての要介護度で上位に挙げられ、要介護度が高い方がより割合が高かった。



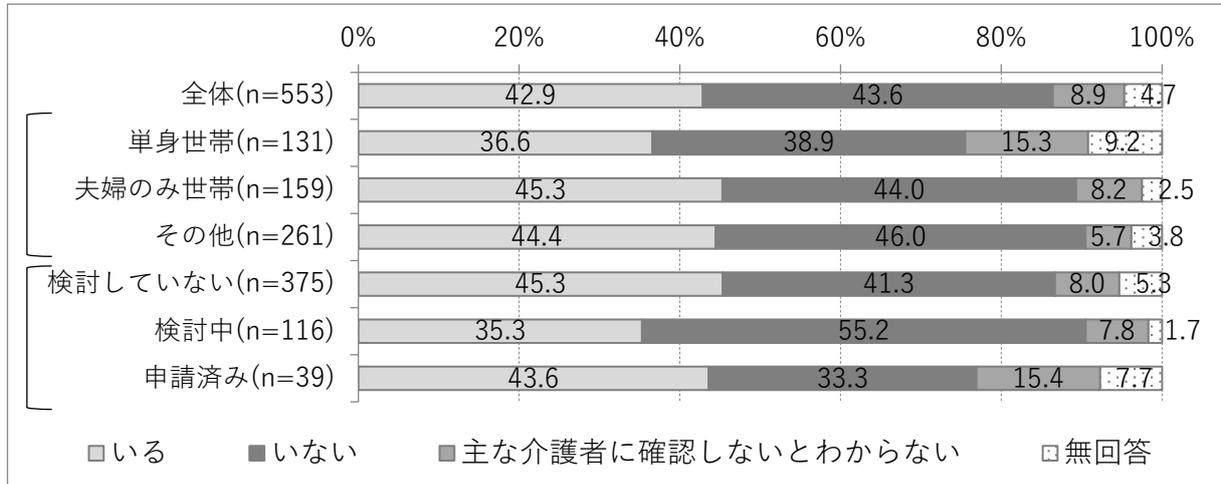
##### (2) 主な介護者の居住場所

主な介護者の住んでいる場所については、「一緒に住んでいる」の割合が68.7%と最も高かった。施設等入所の検討状況別では、「申請済み」で主な介護者が離れて住んでいる割合が高かった。



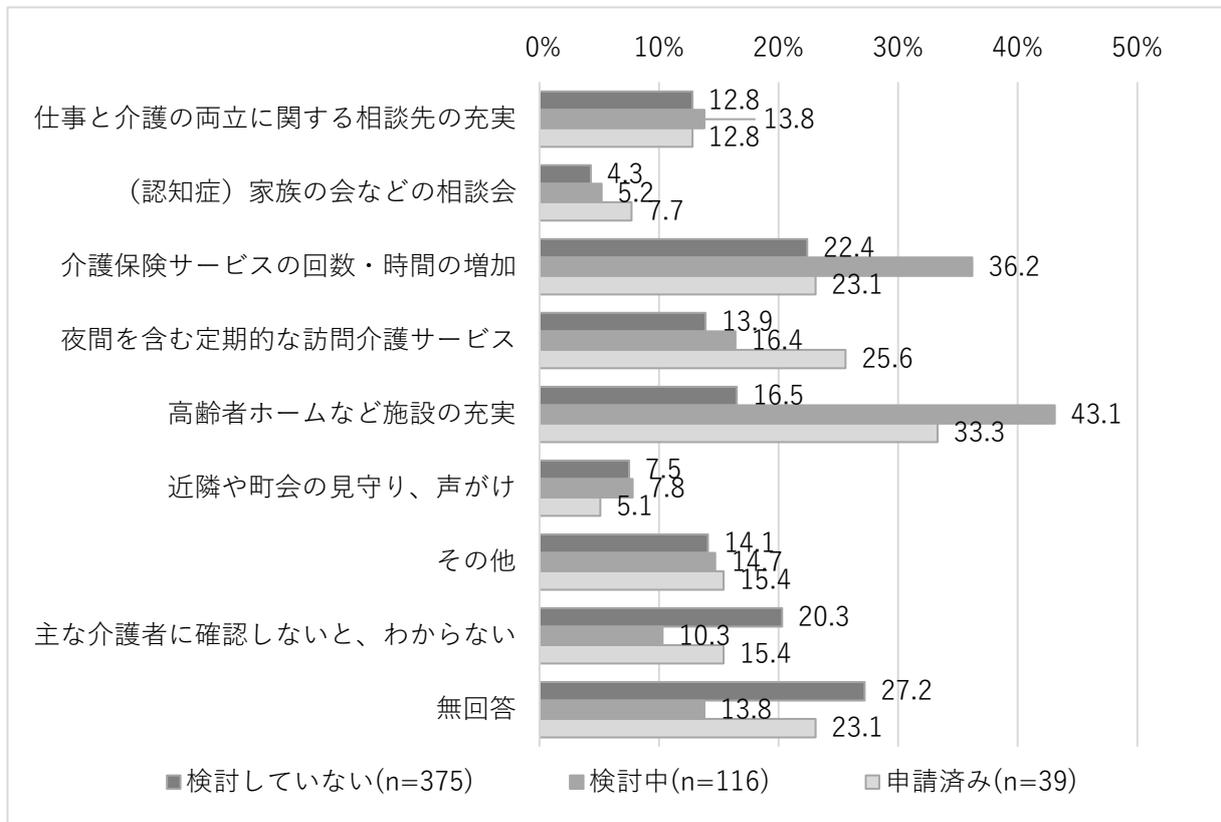
### (3) 主な介護者の代わりに頼める人

主な介護者が急病や外出などで世話ができない場合に、一週間程度、代わりに世話を頼める人がいるかについて、「いる」が42.9%、「いない」が43.6%であった。「いない」の割合を世帯類型別にみると、「その他」が46.0%と最も高く、施設等入所の検討状況別では、「検討中」が55.2%と最も高かった。



### (4) 仕事と介護を両立するために必要な支援

主な介護者が今後も働きながら介護を続けるために必要な地域や行政からの支援について、全体的に「介護保険サービスの回数・時間の増加」及び「高齢者ホームなど施設の充実」の割合が高く、施設等入所の検討状況別でも、傾向は変わりがなかった。



## まとめ 結果の概要と今後の課題

### (1) 在宅介護の限界点を高めるための支援

#### ① 「認知症状への対応」及び「夜間の排泄」に焦点を当てた対応策

要介護度が高くなっても、在宅生活の継続を望む傾向がみられる中、介護者が不安に感じる介護の側面からみた場合、「認知症状への対応」と「夜間の排泄」の二つが在宅生活の継続に影響を与える大きな要素として捉えることができ、これらの介護への不安をいかに軽減していくかが、在宅生活を継続できる限界点を高めるための重要なポイントになると考えられる。そこで、「要介護者の在宅生活の継続」の達成に向けて、「認知症状への対応」と「夜間の排泄」に係る介護者不安の軽減に必要な施策をどのように実施していくかについて、地域の関係者間で共有し、具体的な取組につなげていくことが必要である。

在宅介護の限界点を高めていくためには、これらの介護に対するサービスの拡充や重点化が必要となるが、社会資源が限られている中では、関係者間の連携によって既存のサービスを組み合わせることでニーズに合わせた柔軟な対応を行うことが求められる。

#### ② 在宅生活の継続に向けた手段の適正性の検討

訪問系サービスを頻回に利用しているケースでは、「認知症状への対応」や「夜間の排泄」に係る介護者不安が軽減され、「不安に感じていることは、特でない」と回答した割合が高い傾向がみられた。また、要介護3以上で施設入所を検討していない方のサービス利用の組み合わせをみると、「訪問系のみ」又は「訪問系を含む組み合わせ」のサービスを利用している方の割合が高いことから、介護不安が軽減されるような訪問系サービスを充実していくことが、在宅介護の限界点を高めていくことに効果的である可能性がある。

ただし、多頻度の訪問が「認知症状への対応」に係る介護者不安の軽減に寄与する傾向がみられたことは、単にサービスが頻回に入ることによる効果ではなく、在宅での生活に専門職である介護・看護職等の目が多く入ることにより、在宅生活の環境改善が図られ、介護者の不安の軽減につながったと考えることもできる。

こうしたことから、「要介護者の在宅生活の継続」の達成に向けては、単純にサービスの整備を推進するのではなく、「三鷹市においてこのサービスの整備が必要か」といった目標に対する手段の適正性を関係者間で共有し、検討する必要がある。また、サービスの整備を推進する場合には、その効果が十分に得られるよう各専門職が果たすべき役割について、関係者間での意見交換を行っていくことなどが重要であると考えられる。

## (2) 仕事と介護の両立に向けた支援

### ① 介護をしながら何とか仕事を継続している層の課題を解決するための支援

介護をしながら仕事を継続している主たる介護者のうち、「問題はあるが、何とか続けていける」又は「続けていくのは難しい」とする層が不安を感じる介護については、「認知症状への対応」、「入浴・洗身」、「日中の排泄」、「夜間の排泄」と回答した割合が高い傾向がみられた。これらの介護への不安をいかに軽減していくかが、仕事と介護の両立に向けた支援において重要であると考えられる。

なお、仕事を「問題なく、続けていける」又は「続けていくのは難しい」と回答した層は、要介護度や認知症高齢者の日常生活自立度の状態から、支援のニーズそのものが低い可能性もある。そのため、施策の検討に当たっては、「問題はあるが、何とか続けていける」と回答した層に向けた介護サービスや職場への働きかけを通じた支援を考えていくこと必要であると考えられる。

また、介護者の就労状況等により関わる介護が異なることから、介護サービスに対するニーズは、要介護者の状況だけでなく、介護者の就労状況等によっても異なると考えられる。介護者の多様な就労状況に合わせた柔軟な対応が可能となる訪問系サービスや通所系サービスの組み合わせなどを活用できる環境を整えることが、仕事と介護の両立支援のポイントになると考えられる。

### ② 仕事と介護の両立に向けた職場における支援

介護のための働き方の調整について、「問題なく、続けていける」と考えている人では、そうでない人に比べて、「労働時間の調整」、「休暇取得」、「在宅勤務」等をしながら働いている割合が低い傾向がみられた。この層では、フレックスタイム制や働く場所の多様化が導入されているなど、何らかの理由により特段の調整を行わなくても、通常の働き方で、仕事と介護の両立が可能な状況にあることが考えられる。このように、職場における恒常的な長時間労働や、休暇取得が困難といった状況がなく、通常の働き方で仕事と介護の両立を図ることが可能であることは望ましい状態であるといえる。

一方で、こうした対応が困難な職場も多いと考えられる。そうした職場であっても、介護のために何らかの調整が必要となった場合は、介護休業・介護休暇等の取得や、所定外労働の免除・短時間勤務等による労働時間の調整など、介護の状況に応じて活用できる制度が十分に周知され、必要となった際には利用できることが重要である。

企業等は、介護休業等の両立支援制度を導入するだけでなく、従業員に対して、介護に直面する前から「介護」や「仕事と介護の両立」に関する情報提供を行うことが必要であると考えられる。また、介護について相談しやすい雰囲気醸成するとともに、働き方の見直しを通じ、介護等を行いながら働くことが可能な職場づくりを日頃から進めておくことが、介護に直面した従業員の離職防止のために効果的であると考えられる。

三鷹市としても、市内企業等に対して介護保険制度の啓発を行うとともに、介護者に対しては、「仕事と介護の両立に関する相談会の開催」、「認知症家族の会のネットワーク」、「介護者教室」等の支援を継続的に行っていくことが必要と考えられる。

### (3) インフォーマルな地域資源の整備

#### ① 全ての要介護者への対応を可能とする支援・サービスの提供体制の構築整備

「在宅生活の継続に必要と感じる介護保険外の支援・サービス」について、「掃除・洗濯」、「買い物」、「配食」等の支援を要介護度別にみると、「要介護1・2」よりも「要支援1・2」のニーズが高い傾向がみられた。今後の介護予防の取組によって、明らかな要介護状態への移行を防ぐことができる可能性があると考えられる「要支援1・2」の方を対象とした支援・サービスをいかに組み立てていくかは、大きな課題であり、関係者間で検討する必要がある。

さらに、財政負担の増加や介護人財の不足が深刻化する中で、全ての支援・サービスの提供を介護（予防）給付で対応していくことが困難になっていくことも想定されることから、介護予防・日常生活支援総合事業や介護保険外の支援・サービスの創出整備及び利用促進をいかに進めていくかについても、大きな課題であるといえる。

#### ② 必要となる支援・サービスの詳細なニーズ把握と提供体制の構築の推進

「在宅生活の継続に必要と感じる介護保険外の支援・サービス」について、「掃除・洗濯」、「買い物」、「配食」等の支援を世帯類型別にみると、「夫婦のみ世帯」や「その他世帯」よりも「単身世帯」のニーズが高く、また「単身世帯」の中では「要支援1・2」で高い傾向がみられた。介護ニーズの増加に伴って、求められるサービスは多様化している。

今後は、世帯類型や要介護度によって必要とされる介護保険外の支援・サービスが異なることを踏まえ、ボランティアや民間事業者を対象とした、要介護者への支援やサービス提供に係る研修会の開催を検討するなど、多様なニーズに対応できる人財の育成を進めていくことが必要であると考えられる。なお、今後必要になる介護保険外の支援・サービスを検討するに当たっては、地域包括ケア会議における個別ケース検討の積み上げのほか、生活支援コーディネーターや各種協議体での議論を通じ、地域資源のニーズを把握していく必要がある。

#### (4) 世帯類型の変化に応じた支援

##### ① 単身世帯の要介護者の在宅生活を支えるための支援・サービス

単身世帯の方について、介護保険サービス未利用を除くと、要介護度が高くなるにつれて、「訪問系のみ」又は「訪問系を含む組み合わせ」のサービス利用が増加する傾向がみられた。今後は、単身世帯の増加とともに、訪問系サービスを軸としたサービス利用が増加していく状況に備え、訪問系の支援・サービスの整備や、「訪問介護・看護の包括的サービス拠点」としての「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の整備等を進めることにより、中重度の単身世帯の方の在宅生活を支えていくことが一つの方法として考えられる。

ただし、「家族等による介護がない中で、在宅生活を継続している要介護3以上の単身世帯の方」が、実際にどのような環境で、どのような支援・サービスを利用しているのかの詳細については、本調査のみではサンプル数も少なく、十分な把握はできていない。そのため、「家族等による介護がない中で、在宅生活を継続している要介護3以上の単身世帯の方」を支えている支援・サービスを含むケアマネジメントについて、ケアマネジャー等への聞き取り調査を行うとともに、不足する地域資源等について、多職種によるワークショップや地域包括ケア会議におけるケース検討等を通じて、そのノウハウの集約・共有を進めること等が必要であると考えられる。

##### ② 夫婦のみ世帯・その他世帯の在宅生活を支えるための支援・サービス

中重度の要介護者について、「夫婦のみ世帯」と「その他世帯」では、単身世帯と比較して、「訪問系のみ」よりも、「訪問系を含む組み合わせ」や「通所系・短期系のみ」のサービス利用の割合がより高い傾向がみられた。

これは、同居の家族がいる世帯では、家族等の介護者がリフレッシュや休息をとる「レスパイトケア」の必要性が高いことから、「訪問系のみ」でなく、レスパイトケアの機能をもつ「通所系」や「短期系」を含むサービスの利用が多くなっていると考えられる。一方で、人口10万人当たりの「短期系」サービスの事業所数を全国平均と比較すると、三鷹市が下回っている状況である（令和2年時点）。

こうしたことから、「通いを中心とした包括的サービス拠点」としての「(看護)小規模多機能型居宅介護」の整備が必要となるかを検討するとともに、家族等の介護者が休息をとることができる事業等を検討していくことが、「夫婦のみ世帯」や「その他世帯」の在宅生活を支えていくための一つの方法として考えられる。

さらに、「夫婦のみ世帯」では、他の世帯類型と比較して、要介護度が高くなっても、施設等入所を「検討していない」と回答した割合が高い傾向がみられるとともに、サービスの未利用率がやや高い傾向がみられた。「夫婦のみ世帯」に限らず、サービスが未利用の中重度の要介護者については、家族等の介護者の負担がサービスを利用している場合に比べて過大となることも懸念されることから、必要に応じて、要介護者とその家族等に対するアウトリーチを推進していくことが必要であると考えられる。

## (5) 医療ニーズが高い在宅生活者への支援

### ① 医療ニーズが高い要介護者の在宅生活を支える新たな支援・サービス

「訪問診療の利用の有無」の結果から、要介護度が高くなるにつれて、訪問診療の利用割合が増加する傾向がみられた。

看取りまでを視野に入れた在宅生活の継続を実現するためには、在宅医療と介護の多職種連携をさらに進めていく必要がある。今後は、「医療と介護の両方のニーズを持つ在宅生活者」の大幅な増加が見込まれることから、このようなニーズに対して、いかに適切なサービス提供体制を確保していくかが重要な課題となる。医療ニーズのある利用者に対応することができる介護保険サービスとして、「通いを中心とした包括的サービス拠点」としての「看護小規模多機能型居宅介護」の整備や「訪問介護・看護の包括的サービス拠点」としての「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の整備が必要となるかを検討するとともに、在宅医療と介護連携のさらなる推進に取り組んでいく必要がある。

### ② 要介護者の医療ニーズへの対応

主な介護者が行っている介護のうち、「医療面での対応」を行っているという割合を令和元年度在宅介護実態調査の全国集計値と比較したところ、全国では7.5%、三鷹市では18.6%であった。調査年度が異なることや自治体によって調査手法等が異なるといった事情により、単純に比較することは難しいが、三鷹市の方が「医療面での対応」を行っている割合が高かった。また、訪問診療を利用している要介護者の割合も、同調査の全国集計値10.0%に対して、三鷹市では29.4%と高かった。

これは「医療ニーズのある要介護者」のニーズに対して、訪問診療による在宅療養で対応していることを示すものであるが、医師の働き方改革の議論において、看護師等の医療スタッフへの業務移行が推進されているところ、要介護者の医療ニーズに対し、「看護小規模多機能型居宅介護」の整備等で代替可能かを検討していくことも必要と考えられる。

## (6) 三鷹市版地域包括ケアの「基本目標」実現のために

### ① 自立支援型ケアマネジメント

今後利用したいサービスとしては、「訪問診療、往診」、「訪問リハビリテーション」の順に割合が高く、要介護度別では、「要介護3以上」でいずれも他の要介護度より割合が高かった。また、「要介護3以上」の約4割の方が、「生きがいがある」又は「生きがいとしてやってみたいことがある」と回答しており、やってみたいこととして「趣味やスポーツ、レジャー」、「友人との交流」、「家族やペットとの交流」が上位を占めた。また、今後、要介護度が高くなった際に生活したい場所として、全ての要介護度において約6割の方が「現在の住宅に住み続けたい」と回答した。

生活の中の「はりあい」や「楽しみ」、「大切にしている付き合い」など、本人の思いをしっかりとくみ取り、本人の意欲や能力を引き出す「ケアマネジメント」について、地域全体であらためて共通の認識とする必要がある。そして、要介護度が高くなっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし、最期まで「望む生活」を「なじみの」環境の中で続けられるようにするためには、介護保険サービスだけでなく、近所や友人との助け合い、NPO法人やボランティア団体の支援、民間サービスなどを最大限活用することが重要となる。今後は、具体的にどのような支援が望ましいのかを地域全体で議論して、三鷹市の強みである「地域ケアネットワーク」を深化・推進させていくことが求められる。

### ② 地域の支え合いのしくみづくり

三鷹市高齢者計画・第八期介護保険事業計画の基本目標として、高齢者一人ひとりが生きがいを持ち、住み慣れた地域で、安心して年齢を重ねることができるよう、地域の住民や多様な主体が参画し、互いに支え合い、助け合い、頼り合える地域をともに創っていく「地域共生社会の実現」を目指している。

次章第1節の「介護サービス事業所調査」の結果によると、三鷹市高齢者計画・第八期介護保険事業計画の基本目標の実現に必要なこととして介護事業者が考えていることとしては、「地域の支え合いのしくみづくり」が約8割を占め、次いで「地域のサロンや健康教室の情報提供」、「就労や軽作業の仲介・あっせん」等であった。また、高齢者や障がい者、子どもをはじめとする全ての市民が住み慣れた地域（住宅）での生活を続けるために必要となる生活支援（インフォーマルサービス）については、「声かけ、見守り等による安否確認」と回答した割合が最も高く、次いで「移送ドライバー、通院等の外出支援」、「生活に関する相談・話し相手」であった。

仕事を辞めてからやることがなくなって外出の機会が減る、生活リズムが崩れる、配偶者や親しい友人の病気、入院、入所、死などにより話し相手や交流の機会が失われる、新型コロナウイルス感染症による行動制限も重なって外出の範囲が狭くなる等、高齢者になると社会とのつながりを喪失しがちである。

生きがいをもって幸せに暮らせる社会とは、高齢者のみならず、すべての世代が目指す社会像と考えられる。そして、社会とのつながりを保ちにくい高齢者については、「生きがいをもって暮らす」ことを特に強く意識する必要がある。三鷹市民と医療・介護の事業者、行政とが、孤立しがちな市民の課題と地域包括ケアのビジョンを共有

して、年齢を重ねて要介護度が高くなっても、生きがいを持ち続け、自分らしく暮らせる「支え合いのしくみ」をともに創っていくことが求められている。